

学生の確保の見通し等を記載した書類

— 目次 —

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
ア 収容定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	2
イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析	3
①人口推移による医療ニーズの状況	3
②地域における看護師数の状況	4
ウ 定員増の趣旨目的、教育内容、定員設定等	4
①趣旨目的	4
②教育内容	5
③定員設定等	7
④学生納付金の額と設定根拠	8
エ 学生確保の見通し	8
A. 学生確保の見通しの調査結果	8
B. 収容定員変更を行う学部の分野の動向及び競合校の状況	10
C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等	10
D. 既設学部等の学生確保の状況	11
オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	11
(2) 人材需要の動向等社会の要請	13
ア 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	13
①養成する人材像	13
②ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)	13
イ 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	14
①栃木県高齢者割合から見る医療ニーズ	14
②栃木県を含む関東圏域の看護師数から見る養成ニーズ	14
③本学近県の看護職員需給推計	15
④人材需要に関するアンケート調査:本学看護学部卒業生の採用意向	15
⑤収容定員増員に関する賛同書	17

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 収容定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

獨協医科大学（以下、本学と記載）は、昭和 48（1973）年の設立以来、①人間性豊かな医師及び看護職者の育成、②能力の啓発に重点を置く教育方針、③地域社会の医療センターとしての役割の遂行、④国際的交流に基づく医学・看護学研究、という建学の理念に基づき、患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師および看護職者を養成・輩出している。本学看護学部（以下、本学部と記載）は、平成 19（2007）年に開設し、患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護職者を養成するという教育理念の下、専門職業人として成長するための基礎的な能力を養成することを目的として看護師並びに保健師を養成している。平成 23（2011）年には、助産師数の低迷や就業者の高齢化が課題となっている栃木県（以下、本県と記載）並びに近隣県からの要望を受けて助産学専攻科（入学定員 10 名）を併設し、助産師の養成を行っている。さらに、平成 24（2012）年、本学部を基盤として、広く社会から信頼され、看護の質の向上並びに看護学とその学際的发展に寄与できる、高度な看護実践能力と研究的思考能力を備えた看護実践者、看護管理者、看護教育者・研究者を養成することを目的として看護学研究科博士前期課程を、そして令和 5（2023）年には、看護学的发展に寄与するため、高い倫理観を持って看護学上の課題を探究し、その解決に向けて幅広い視野に立脚しながら、科学的手法を用いて高度な看護学研究を自律して遂行できる教育・研究者を養成することを目的として看護学研究科博士後期課程を開設し、保健医療福祉の知識基盤社会を支える看護職者を養成している。

本県では、本学を含め、4つの看護系大学において看護師、保健師、並びに助産師の看護職者を養成している。県の設置する看護系大学をもたない本県において、本学には看護職者の養成の拠点となることが期待されている。本学部への入学者についても平成 19（2007）年の開設以来、常に定員を充足しており、本学部の直近 5 年間の入試倍率等は（表 1）のとおりであり、安定した入学生を確保している。

【表 1 獨協医科大学看護学部看護学科志願倍率等】

入学年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	実質倍率	定員充足率
R1(2019)	90	625	616	212	94	6.9	2.9	1.04
R2(2020)	90	561	554	202	101	6.2	2.7	1.12
R3(2021)	95	490	484	207	100	5.2	2.3	1.05
R4(2022)	95	456	456	164	100	4.8	2.8	1.05
R5(2023)	95	364	360	159	95	3.8	2.3	1.00

また、本学部の卒業生は、90%以上が看護師並びに保健師として、本県内を中心に全国の病院施設等の保健医療福祉関係機関や自治体に就業し、人々の健康の維持増進や健康課題の解決に貢献している（表2）。

【表2 獨協医科大学看護学部看護学科就職率等】

卒業年度	卒業生数	就職先所在地			進学	未定	進学・就職率
		栃木県	埼玉県	その他			
H30(2018)	109	46	41	16	4	2	98%
R1(2019)	105	27	47	23	7	1	99%
R2(2020)	87	34	30	17	4	2	98%
R3(2021)	103	49	21	26	6	1	99%
R4(2022)	95	55	15	16	9	0	100%

以上のとおり、志願倍率等及び就職率等は高い数値を示しており、本学部の収容定員を増員することは、十分に可能であると考えます。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

①人口推移による医療ニーズの状況

わが国は、急速なスピードで少子高齢化が進展している。総人口における15歳未満の割合は、令和3年度では11.8%（平成27年度は12.5%）、65歳以上の割合は28.9%（平成27年度は26.6%）（【資料1】厚生統計要覧（令和4年度，厚生労働省））となっている。また本学が設置されている本県においても、令和3年度では11.8%（平成27年度は12.9%）、65歳以上の割合は29.7%（平成27年度は25.9%）（【資料2】年齢（3区分）別人口及び構成比・平均年齢の推移・県計（栃木県））となっており、全国を上回る速さで少子高齢化が進展している。こうした中、老年世帯や独居高齢者、また、慢性疾患や身体障害を有しながら地域社会において生活する人々も増加し、一方で、産業構造の変化や経済活動のグローバル化、情報化社会への移行、さらには、コミュニティーの脆弱化や核家族化の進展、生活スタイルの変化等により、いわゆる「ストレス社会」が到来し、その影響により、生活習慣病や精神疾患を有する人々も増加している。また近年では、大規模自然災害や新型コロナウイルスによる健康被害も深刻化し、人々の健康や生活に大きな影響を及ぼしている。

このような状況の中、高度急性期医療の発展や医療機関の機能分化により早期に在宅への移行が可能となったことから、住み慣れた地域社会において自分らしく安心して生きることへのニーズも高まっている。また、国民の健康や生活に対する認識は変化していることから、健康の保持・増進並びに健康課題の解決に向けた保健医療福祉の取り組みに対するニーズは多様化している。看護職者が求められる能力として、保健師は多岐にわたる健康課題に多職種と協働しながら対応できる専門的能力及び行政的能力、助産師はニーズの多様化を踏まえた実践力、看護師は医療の高度化・専門化、在宅医療の普及等に対応できる知識や技術が必要となっており、看護職者の養成校においても、自己教育力を基盤とし、看護実践力を高めながら看護専門職としてのプロフェッショナリズムを醸成し続けられる

自律した看護専門職者を養成していくことを求められていると考える。

②地域における看護師数の状況

本県における看護職者の状況は、「栃木県保健医療計画（第7期）」【資料3】における看護職員需給見通しによると、人口10万人比に看護師が784.7（全国値905.5）、保健師が44.8（全国値40.4）、助産師が25.7（全国値28.2）、准看護師が313.5（全国値254.6）であり、増加傾向は見受けられるものの、助産師及び看護師は大きく全国値を下回っている。また、「令和2年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」（厚生労働省）【資料4】によると、本県の看護師数は人口10万対比に915.7人で47都道府県中40位、保健師数は人口10万対比に50.1人で47都道府県中30位であり、看護職者数は全国の中でも少ない。

また、日本看護協会が実施した「2022年病院看護実態調査」（令和5（2023）年3月）【資料5】によると、本県における正規雇用看護職者の離職率は、令和4（2022）年調査では10.7%（令和3（2021）年調査では10.1%）、新卒採用者離職率は、令和4（2022）年調査では14.3%（令和3（2021）年調査では15.0%）であり、離職により医療機関等において看護師が不足していると思われる。

これらを背景として、公益社団法人栃木県看護協会並びに獨協医科大学病院、獨協医科大学埼玉医療センター、獨協医科大学日光医療センターの3つの関連病院（約2,300床）から、看護職者養成数の増員の賛同書が寄せられる【資料6】など、看護職者養成数を増員することは喫緊の課題であると考えられる。

ウ 定員増の趣旨目的、教育内容、定員設定等

①趣旨目的

本学部は、「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護職者を育成する。」との教育理念の下、平成19（2007）年に開設し、以来、1,341名の卒業生の輩出し、地域社会及び地域の人々の健康課題の解決並びに保健医療福祉の質の向上に貢献しているところである。しかし現在の日本では、超少子高齢化問題、地域医療の複雑・高度化に対応する地域包括医療システムの推進、また、世界中に蔓延している新型コロナウイルス感染症などの新たな脅威に伴う保健医療・看護需要の増加により、医療を支える看護師、保健師、助産師のニーズは拡大している。本県においても、安全で質の高い医療を効率的に提供できる体制の確保に加えて、保健・福祉・介護サービスと連携することにより、県民誰もが住み慣れた地域において、健康で安心して暮らすことのできる社会の実現を目指すため、「栃木県保健医療計画（第7期）」を策定し推進している。

このような背景のもと、保健医療福祉施設における看護職者の育成を担う本学部は、特定機能病院として地域医療の中核を担う獨協医科大学病院、県西保健医療圏の基幹病院として急性期医療やリハビリテーションを提供している獨協医科大学日光医療センター、埼玉県東南部の基幹病院として地域と密接に連携しながら急性期医療を提供する獨協医科大学埼玉医療センターを擁する恵まれた環境を有している。これらの施設で最新の知識・技術を学び、また、医療現場で活躍する現役看護師による講義や演習を受けることで、高度な看護実践能力を身につけた看護職者を輩出している。

本学部は、社会から信頼され、地域社会及び地域の人々の健康課題の解決並びに保健医療福祉の質と向上に貢献していくために、自己教育力を基盤とし、看護実践力を高めながら看護専門職としてのプロフェッショナリズムを醸成し続けられる自律した看護専門職者を養成する。その本学部の入学定員を増員することは、多様な医療のニーズに応え、地域における看護職者の充足に繋がるとともに、地域社会の要請に応えるものであり、社会的責務であると考え

②教育内容

本学部は、社会から信頼され、地域社会及び地域の人々の健康課題の解決並びに保健医療福祉の質と向上に貢献していくために、自己教育力を基盤とし、看護実践力を高めながら看護専門職としてのプロフェッショナリズムを醸成し続けられる自律した看護専門職者を養成する。このような人材を育成するため、次のカリキュラム・ポリシーに基づき教育課程を編成した。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【教育課程の編成】

- (1) 教育理念を構成する「自己教育力」を基軸とし、「看護実践力」と「プロフェッショナリズム」を統合・発展させながら、教育理念を実現するためのカリキュラムを編成する。
- (2) 「基盤科目」「専門基盤科目」「専門科目」を、連続性・階層性をもって配置する。
- (3) 「基盤科目」は、人間の理解に重点を置く「人文科学」「自然科学」「社会科学」に関する科目、生涯学び続ける力の基盤となる「アカデミックスキル」に関する科目を配置する。
- (4) 「専門基盤科目」は、人間の成長と発達、社会のしくみ、健康障害と治療を理解するための「健康」に関する科目、根拠に基づく看護実践の基盤となる「看護」に関する科目を配置する。
- (5) 「専門科目」は、看護の知識と技術を統合するための「実践」に関する科目、研究やキャリア発達、専門性を深化させる「発展」に関する科目を配置する。
- (6) 卒業後の多様なキャリアへの対応を可能とするために、看護師教育課程、保健師教育課程、助産師教育課程、養護教諭一種教育課程を設置する。

【実施の方針】

- (1) 自己の学修成果や課題を明確にするため、授業内で自己を客観的に振り返る時間を提供する。
- (2) 能動的学習を支援するため、アクティブラーニングや ICT を活用した授業を展開する。
- (3) 主体的・創造的学習を支援するため、少人数グループでの演習・実習により学生間で学びあう機会を提供する。
- (4) 看護専門職者としての態度や役割を学ぶため、多職種と連携した実習や医学部との合同授業を行う。

- (5) あらゆる人々への看護に必要な実践力を習得するため、高度医療を提供する3つの大学院や地域に密着した保健医療福祉施設で実習を行う。
- (6) 看護専門職者として自律していくため、段階的に自らのキャリアをデザインする機会を提供する。
- (7) 学修成果の評価は、授業の進度に合わせてシラバスに明示された到達目標と成果を測る小テスト・定期試験・レポート課題・実習記録に加え、グループワークや授業への参加状況等を含め、多様な方法で総合的に行う。

本学部の特色としては、看護師の国家資格に加え、保健師・助産師*・養護教諭一種*のいずれかの資格が4年間で取得できることが挙げられる。令和5(2023)年度時点では全学生が保健師資格を取得できるカリキュラムとなっており、増員した際も入学者の2/3に相当する100名の学生が保健師資格を取得できるため、受験生のニーズに応えることができる教育・就業環境を有していると言える。特に学部で助産師資格や養護教諭一種を取得できる大学は少なく、この点において北関東圏に貢献できると考えられる。また、自らキャリアをデザインできるよう、各学年にキャリア支援科目を配置していることも本学の大きな特色である。

*助産師教育課程は10名以内の人数制限あり。養護教諭1種は人数制限なし。

収容定員変更に伴う教育方法、履修指導方法、及び臨地実習の実施方法等の変更は行わない。教育の質の向上のため、全ての教員がオフィスアワーを設定し、講義内容等の質問・相談のみならず、学習方法等の相談・支援を行い、学生が主体的に学修できるよう、これまで以上にきめ細やかな支援体制を整えている。主な教育方法は以下の通りである。

(1) 医学部との合同授業

医学部と合同で行う講義・演習・実習を設定する。特に、1年次に実施する実習では、地域で生活する人々及び健康、生活の場や療養の場、環境の特性を理解するとともに、多職種の役割を理解し、看護専門職者としての自己を形成していく動機付けとする。医学部との合同授業は、それぞれの専門性を理解し、協働・連携を学ぶ場として、具体的かつ体験的に行うことができ、チーム医療の実践力の基盤を修得することができる。

(2) ゼミナール教育の実施

少人数のゼミナール教育を取り入れていく。1年次では、大学で学ぶために必要な技法、さらに討議に参加し他者の意見を聞き自分の意見を述べるなど、主体的に学修するための基本的な能力を修得させる。4年次では、これまでの学修の過程で生じた問いを探究し、看護を多角的かつ客観的な視点で捉え研究に発展させる能力を培い、研究的な視座を持ちながら主体的に学修する能力を養う。

(3) ICTを活用した授業の実施

ICTを活用した授業を行っており、タブレット端末を使用した主体的・能動的な授業を実施している。各授業では、LMSに講義資料を事前にアップロードしておき、学生は自らのタブレット端末にその資料をダウンロードし、事前・事後学習に活用している。また、リフレクションや小テスト、アンケートなどを授業中に実施し、学生の理解度などを随時把握して対応している。

また、授業ではグループワークやプレゼンテーション、ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体的・能動的に学修していく習慣付けを行う。

(4) 外国語教育における少人数制教育の実施

外国語教育では、少人数制で授業を実施していく。本学部では、第1外国語として英語科目を必修科目とし、第2外国語として中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語を選択必修科目として配置する。少人数教育は、学生の主体的・能動的な学修態度を涵養するとともに、学生一人ひとりの志向や能力を見極め、きめ細かな教育を行うことができ、より高い学修効果を期待できる。

(5) 臨床教授等委嘱による実習指導

臨床教授等とは、通常は保健医療福祉施設に勤務する保健師、助産師又は看護師等で豊富な臨床経験と優れた臨床能力及び教育能力を有し、学生の実習期間中は、実習担当教員と協力して実習指導を行う者である。

本学部では、保健医療福祉現場での実務経験を有し、保健師助産師看護師実習指導者講習会を修了しているなどの要件を満たす者に対して、臨床教授、臨床准教授、臨床講師の称号を付与している。臨床教授等は学生の実習先における指導者として、共に看護援助を実践し、ロールモデルとしての役割を果たしてもらいなど、学生の興味・関心を引き出し、意欲や達成感を高める指導を実施していく。

(6) 履修科目の登録上限の設定（CAP制）

学生の適正な学修時間を確保し、主体的な学修が行えるように、1年間に履修登録することのできる単位数の上限を48単位としている。ただし、1年次のGPAが1.500未満の学生は、この単位数の上限を46単位までに制限する。また、無効、再履修となった科目がある学生は、これらの単位も履修単位の上限・制限に含まれるものとしている。

③定員設定等

「私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）」の調査によると、平成30年から令和4年の5年間で看護学部は95学部から107学部が増加しているが、入学者数約1万人に対し5万人以上の志願者数で推移しており、全国的に看護学部が増えた現状にあっても看護職者を志す学生は多い。**【資料7】**

また、本学の志願動向に転じると、過去5年間の志願倍率は5.38倍、実質倍率は2.60倍を確保している（（1）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 ア 定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析 表1 獨協医科大学看護学部看護学科志願倍率等参照）。また、イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析で述べたとおり、本県の看護師数及び保健師数は全国値を下回っていることから、今後、看護職者の量的増加が望まれているところである。

以上、全国的な看護学部の志願状況、本学の志願状況及び栃木県における看護師の不足状況等を踏まえた上で、教育の質を担保しながら提供可能な本学の教育体制などを総合的に判断し、看護学部看護学科の新定員を145名と設定する。

④学生納付金の額と設定根拠

学生納付金は、収容定員変更前と変わらず現状どおり（4年間の合計5,900,000円）とした。

現在は、看護師、保健師のダブルライセンスが取得可能である。収容定員変更後のカリキュラムでは、看護師の受験資格に加え、入学生自らが保健師・助産師・養護教諭一種のいずれかの資格を選択し取得できるカリキュラムとしている。取得できるライセンスは収容定員変更前と同様、ダブルライセンスであるため、収容定員増員に伴う学納金の増減は行わず、現状どおりの金額設定とした。

なお、競合する近隣の看護系私立大学の学納金は、「近隣の看護系大学の納付金（令和5年度）」【資料8】のとおりである。近隣の12看護系大学（私立大学）の4年間の学納金は平均6,207,500円となっており、本学は平均を下回っていることから、他大学との競争力を維持できる妥当な金額である。

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

高校生の進学意向を知るため、以下のとおり「獨協医科大学看護学部看護学科収容定員増に係るニーズ調査報告書（高校生編）」【資料9】を実施した。

[調査目的]

獨協医科大学看護学部看護学科収容定員増計画検討のため、高校生の進学需要等を第三者機関により把握し、増員計画の基礎資料とすることを目的とする。

[調査方法]

- ・調査期間：令和4(2022)年12月19日～令和5(2023)年1月23日
- ・調査対象：本学看護学部に進学する可能性が高い高等学校2年生
- ・調査対象校：本学看護学部に出願があった栃木県及び近隣の高等学校に在籍する2年生、
計17,900名 → (表3)
- ・回答方法：紙面（郵送）
- ・調査内容：本学への入学意向

[回答率]

- ・対象校の調査協力率：100%（回答校92校/調査対象校92校）
- ・回答率：65.2%（回答者11,663名/調査対象者17,900名）

【表3 県別調査対象高校数と調査用紙発送部数】

県名	高校数	発送部数
栃木県	52	8940
茨城県	18	3220
埼玉県	10	3220
群馬県	9	1780
福島県	3	740
計	92	17900

主な調査結果は以下のとおりである。

進学希望分野

回答者の進学希望分野は、第1位が「理学・工学（2,065名・17.7%）」、第2位が「経済学・経営学・商学（1,039名・8.9%）」、第3位が「看護学（1,037名・8.9%）」となっており、「看護」は、高校生に興味・関心が高い学問分野であると言える。

取得したい資格

取得したい資格を5つの選択肢（1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 養護教諭 5. その他）から2つまで選択する質問をしたところ、「無回答・無効回答」を除き、第1位が「看護師（3,233名・27.7%）」、第2位が「その他（3,155名・27.1%）」、第3位が「保健師（2,206名・18.9%）」「養護教諭（2,030名・17.4%）」「助産師（1,029名・8.9%）」となっており、「看護師」「保健師」「養護教諭」「助産師」の順に、高校生の興味・関心が高いと言える。

進学先決定時に重視する要因

本学に合格した場合、「入学したいと思う（958名）」もしくは「併願大学の結果によっては入学したいと思う（3,009名）」を選択した計3,967名の回答者の進学先決定時に重視する要因は、回答割合が高い順に、「学科、コース等の学びの分野（2,048名・51.6%）」、「技術・資格の取得（1,377名・34.7%）」、「学費（入学金・授業料）（828名・20.9%）」、「就職実績（816名・20.6%）」、「入試の難易度・入試科目（672名・16.9%）」、「アクセス・立地（492名・12.4%）」、「校舎・施設の充実（467名・11.8%）」、「設置形態（国公立・私立）（291名・7.3%）」、「奨学金制度の有無（163名・4.1%）」、「学校の伝統・知名度（150名・3.8%）」、「家族の意見（148名・3.7%）」、「担任や進路指導の先生の意見（49名・1.2%）」、「その他（21名・0.5%）」であった。

本学に対する進学需要

回答者11,663名のうち、卒業後の進路について「大学への進学」を選択した回答者は9,304名（79.8%）、本学看護学部を「受験したい」を選択した回答者は1,054名（9.0%）

であり、大学への進学を希望する回答者のうち、本学を受験したい回答者は 11.3%であった。また、本学看護学部合格した場合、「入学したいと思う」を選択した回答者は 11,663 名中 958 名 (8.2%)、「併願大学の結果によっては入学したいと思う」は 3,009 名 (25.8%) であり、何らかの進学意向を持つ回答者の合計は 3,967 名 (34.0%) となっている。

進学需要を求めると、進学希望分野として第 1 希望で「看護学」を選択し、本学看護学部を「受験したい」と回答、さらに本学看護学部合格した場合「入学したい」を選択した「大学への進学」を希望する回答者は 179 名であり、入学定員増員後の 145 名の 1.2 倍となった。進学希望分野として第 2 希望で「看護学」を選択し、本学看護学部を「受験したい」と回答、さらに本学看護学部合格した場合「入学したい」を選択した「大学への進学」を希望する回答者は 26 名であり、先述の 179 名と合わせると 205 名となり、入学定員増員後の 145 名の 1.4 倍となった。

以上のことから、本学に対する進学需要は一定数あると言える。

B. 収容定員変更を行う学部の分野の動向及び競合校の状況

本県内の看護系大学は、令和 5 (2023) 年 4 月 1 日現在で 4 校あり、いずれも私立大学である。北関東の看護系大学の入学定員、定員充足率、志願倍率等を表 5 に示す。1 校を除き、全ての大学で入学定員は満たされており、志願倍率も平均 3.22 倍と、北関東の看護系大学への進学ニーズは一定数あり、安定的に受験者を確保できると考えられる。また、本学は北関東の看護系大学の平均志願倍率よりも高い志願倍率を獲得しており、本学に対する受験生のニーズは高いと考えられる (【資料 10】北関東の看護系大学志願倍率 (2022 年度入試))。

C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

本学の受験生となる高校生等は、栃木県、茨城県、群馬県、埼玉県に所在する高校出身者が多くを占めている (表 4)。

【表 4 県別志願者数上位県】

志願者数(%)

	H30	H31	R2	R3	R4	過去 5 年平均
栃木県	236 (47.5)	227 (36.3)	224 (39.9)	186 (38.0)	182 (39.9)	211.0 (40.1)
埼玉県	51 (10.3)	80 (12.8)	80 (14.3)	70 (14.3)	70 (15.4)	70.2 (13.4)
茨城県	47 (9.5)	85 (13.6)	73 (13.0)	75 (15.3)	63 (13.8)	68.6 (13.0)
群馬県	58 (11.7)	62 (9.9)	58 (10.3)	33 (6.7)	26 (5.7)	47.4 (9.0)
その他	105 (21.1)	171 (27.4)	126 (22.5)	126 (25.7)	115 (25.2)	128.6 (24.5)
計	497	625	561	490	456	525.8

リクルート進学総研が文科省の学校基本調査を基にまとめた「18 歳人口予測」【資料 11】によると、本学近県の将来的な 18 歳人口の増減率(2022 年 - 2034 年)は、栃木県は -16.8%、茨城県は -16.2%、群馬県は -21.4%、埼玉県は -7.0% であり、全国平均の -10.3% (増減範囲 +5.3% ~ -24.9%) と比較すると埼玉県以外は高めの減少率が予測されている。また、令和

4 (2022) 年度の 18 歳人口 1,121,285 人のうち、北関東の 18 歳人口は 63,720 人であり、2022 年度の本学志願者は 456 人 (0.715%) であったことから、令和 16 (2034) 年度の北関東の推計 18 歳人口 52,331 人に同比率を乗じると 374.2 人の志願者となり、本学が 145 名定員になった場合、2.58 倍の志願倍率が予測される。この試算には埼玉県は入っておらず、その他の県からの受験を考慮する必要があるが、18 歳人口の減少や看護系大学の増加など、厳しい状況が予測され、大学としての対応が必要である。しかし、助産師教育課程や養護教諭教育課程の新設、キャリア支援科目の設置等、本学の特色を打ち出すことで、一定数の学生を確保することは可能と考えている。

D. 既設学部等の学生確保の状況

本学部では、3 年次編入学試験、学校推薦型選抜 (公募制・指定校制)、大学入学共通テスト利用選抜、一般選抜 A 日程及び一般選抜 B 日程の 5 種類の入試形態による入学者選抜を実施している。また出願にあたっては、3 年次編入学試験を除き、複数の入試形態に併願できるように入試日程、選抜方法、募集人員をそれぞれ設定している。本学部の学生確保の状況として、過去 5 年間における志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、志願倍率、歩留率、合格率、定員充足率を【資料 12】「入学試験志願者等の推移と入学定員充足率 (過去 5 年間)」に示す (3 年次編入学試験は除く)。

本学部では併願を受け付けているため、表中上段を延人数及び延人数における倍率等、下段を実人数及び実人数における倍率等として示している。このうち過去 5 年平均で見ると、志願者数は 343.2 人 (延 525.8 人)、志願倍率は 3.71 倍 (延 5.43 倍) であり、定員の 3 倍以上の受験生が本学部を志願しているほか、実際の受験者数も 338.0 人 (延 520.8 人) と志願者のほとんどが受験に臨んでいる。実際の入学者の平均も 98 人と本学部の定員を充足しており、定員充足率の平均は 105.4% である。

また、合格者のうち実際に入学した者の割合を算出する歩留率の平均は、実人数で 56.4%、延人数で 50.4% と実人数の歩留率は延人数の数値と比較すると高い数値を示している。これは、本学部を受験する受験者は併願で出願し、合格後は本学部に入學していることを表しており、本学部を第一希望として進学を希望する学生が一定数いることを示していると言える。

このように、本学部は定員を超える志願者があると同時に、入学定員を常に充足し続けており、収容定員増員後においても各種数値が示す通り、本学部への進学ニーズは一定数あり、安定的に受験者を確保できると考えられる。

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

本学では、看護学部の学生募集に際し、「ホームページ」、「オープンキャンパス」、「入試説明会 (高等学校進路指導部教員対象)」、「進学相談会」、「受験冊子 (Web を含む) 掲載」等、志願者やその家族、高校教員等に本学の教育内容・学生生活、卒後の進路状況等の情報提供を行い、多様な広報を展開して学生確保に繋げている。

また、今年度から大学院看護学研究科博士後期課程の設置により「ホームページ」のリニューアル、「Web オープンキャンパス」における Web 相談会、「学外における進学相談会」実

施回数増加を図るなど、より受験生サイドに立った改革を進めて、学生確保の取り組みを行っている。特に Web 相談会は高校生（または高校生と保護者）に対し、本学部学生数名と本学部教員及び事務員を 1 ブースに配し、多彩な質問に回答することで高校生より高い評価を得ていた。今年度は、対面と Web のハイブリッド形式のオープンキャンパスで学部等の紹介も兼ね、学生確保に向けた広報活動を展開していく。

また本学部では、1 年次から 4 年次まで継続して自らキャリアをデザインするための科目を配置し、個別の相談については今年度より地域共生協創センター内のキャリア支援部門が活用できる。カリキュラムでは、探求したい専門分野に対応するため、多様な選択科目を配置した。これらに関しても高校生及び保護者が理解しやすいスクールガイド及びホームページを作成し、効果的な広報展開をしていく予定である。

【具体的な取組実績】

入試説明会（高等学校進路指導部教員対象）

高等学校進路指導部教員を対象に例年 6 月に入試説明会を開催している。本学の教育内容（特にアドミッションポリシー、学びの特色、入学者選抜の概要、高等学校で学んでほしいこと）や学生生活等を説明し、受験生に直接触れる高等学校教員との懇談を行っている。令和 4（2022）年度は 6 月 10 日に実施し、参加校は 23 校（表 5）であった。

なお、令和 5（2023）年度は 6 月 8 日に実施し、参加校は 29 校であった。

高校訪問・進学相談会

本学では、教育内容や特色を高校生や高等学校教員に直接伝えるために、例年高校訪問を実施している。大学案内や募集要項、オープンキャンパス情報を配布し、高校生には高校や受験・進学情報サービス会社からの依頼に応じて出前講座を実施している。基本的に教員と入試広報担当者が同行し、令和 4（2022）度の訪問実績は 3 校（表 5）であった。

オープンキャンパス

高校生を対象としたオープンキャンパスを例年 8 月に実施している。オープンキャンパスでは、入試説明会や模擬授業の体験、学生生活・卒業後の進路なども含めた個別相談会、保護者向け説明会等を行っている。令和 2（2020）～令和 4（2022）年度は COVID-19 感染対策のため、オンラインでの実施となったが、令和 3（2021）年度は高校生 72 名、令和 4（2022）年度は高校生 43 名（表 5）が参加した。

ホームページ等での広報

大学ホームページでは、本学看護学部の特色やカリキュラム、学生生活を紹介し、動画も公開している。受験生確保のため、受験生用のページも作成し、志願者増加に努めている。

各種情報誌、広告での広報

本学の教育活動の認知を広めるため、進学情報誌/進学情報サイトへの掲載、ダイレクトメールの送付、各業界紙の広告等を行っている。

資料請求対応

本学の資料請求は看護学部事務室での直接受け渡しの他、ホームページでも可能となっている。令和 4（2022）年度の看護学部への資料請求件数は 3625 件（表 5）であった。

【表5 学生確保に向けた広報活動実績】

	2018	2019	2020	2021	2022	過去5年平均
入試説明会参加校数	41	33		21	23	29.50
高校訪問数	9	2		3	3	4.25
進学相談会数	4	5	2	3	6	4.00
オープンキャンパス参加者数	665	658		72	43	359.50
進学情報誌掲載数	8	9	7	4	3	6.20
進学情報サイト掲載数	7	7	6	6	6	6.40
資料請求件数			4457	3682	3625	3921.33

本学は、獨協医科大学病院、獨協医科大学埼玉医療センター、獨協医科大学日光医療センターと3つの病院を有する高等教育機関であり、大学院看護学研究科も設置している。さらに令和5（2023）年度時点では全学生が保健師資格を取得できるカリキュラムとなっており、増員した際も入学者の2/3に相当する100名の学生が保健師資格を取得できるため、受験生のニーズに応えることができる教育・就業環境を有していると言える。

また、「技術・資格の取得」、「学費（授業料等）」、「就職実績」等が進学先決定時に重視する要因となっているため、それらの期待・課題に応えることで、志願者の更なる増加につなげていきたい。

（2）人材需要の動向等社会の要請

ア 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

①養成する人材像

本学看護学部では、「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護職者を育成する」ことを教育理念としている。令和6（2024）年4月からの助産師教育課程及び養護教諭一種教育課程の新設と収容定員増員に伴い、本学看護学部では、新たに「社会から信頼され、人々の健康課題の解決並びに保健医療福祉の質の向上に貢献していくために、自己教育力を基盤とし、看護実践力を高めながら看護専門職としてのプロフェッショナリズムを醸成し続けられる自律した看護専門職者を養成する」ことを教育理念として定めていくこととする。

②ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学部の所定の科目を履修して卒業に必要な単位を修得した上で、以下の5つの能力を有すると判断される者に卒業を認め、学士（看護学）の学位を授与する。

- (1) 探究心を持ち、自己を教育し続けることができる。
- (2) 科学的思考を備え、根拠に基づいた看護を実践できる。
- (3) 自らの役割と責任を理解し、人々と協働できる。
- (4) プロフェッショナリズムを身につけ、倫理的行動をとることができる。
- (5) グローカルな視野で、多様性を尊重することができる。

イ 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①栃木県高齢者割合から見る医療ニーズ

我が国の総人口（令和4（2022）年10月1日現在）は1億2,494万人で、前年に比べ55万人減少している。一方、65歳以上の人口は3,623万人で前年に比べ2.2万人増加し、総人口に占める割合は29.0%と過去最高となっている（【資料13】人口推計（総務省統計局））。

また、全国の65歳以上の人口割合の上昇率は、平成27（2015）年の26.6%から令和2（2020）年の28.6%へと2.0%上昇している（表6-1）が、本学が所在する栃木県の65歳以上の人口割合の上昇率は、平成27（2015）年の25.8%から令和2（2020）年の28.7%へと2.9%上昇しており、全国値より僅かに高めである（表6-2）。

高齢者の有病率を鑑みると、高齢者の増加は医療や介護の需要が高まることを示し、ますます看護職員が必要になると考えられる。

表6-1. 全国の人口年齢（5歳階級）別総数に占める高齢者割合*

	総数	65~69	70~74	75~79	80~84	85歳以上	高齢者数 (65歳以上)	総数に占める 高齢者割合(%)
H27(2015)	127,095,000	9,759,000	7,787,000	6,354,000	5,026,000	4,943,000	33,869,000	26.6
R2(2020)	126,146,099	8,236,274	9,188,550	7,064,625	5,403,785	6,133,398	36,026,632	28.6

表6-2. 栃木県における人口年齢（5歳階級）別総数に占める高齢者割合*

	総数	65~69	70~74	75~79	80~84	85歳以上	高齢者数 (65歳以上)	総数に占める 高齢者割合(%)
H27(2015)	1,974,255	155,130	114,300	90,622	72,614	75,726	508,392	25.8
R2(2020)	1,933,146	141,154	145,589	103,165	75,846	88,627	554,381	28.7

*表6-1,表6-2共に、元データである平成27(2015)年版/令和2(2020)年版「栃木県保健統計年報」を加工

②栃木県を含む関東圏域の看護師数から見る養成ニーズ

本学が所在する栃木県の状況であるが、栃木県の人口10万人あたりの看護師数は915.7人であり、全国平均1015.4人に比すると大いに下回っており、課題となっている。なお、最も多い県は「高知県」で1623.4人、次いで「鹿児島県」が1476.0人である。一方、「埼玉県」は736.9人と最も少なく、次いで「千葉県」770.0人、「神奈川県」791.8人である。「東京都」は854.6人、「茨城県」は820.5人で平均を下回り、「群馬県」のみ1025.2人でほぼ全国平均であった。栃木県を含め関東圏域の看護師不足は深刻な状況となっている（【資料4（再掲）】令和2年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況（厚生労働省））。

また、看護師定着率においても、日本看護協会が実施した「2022年病院看護実態調査」（令和5（2023）年3月）【資料5（再掲）】によると、正規雇用看護職員離職率は11.6%、新卒採用者離職率は10.3%、既卒採用者離職率は16.8%と依然高い状況である。都道府県別の看護職員離職率の状況を見ると、正規雇用看護職員離職率は「東京都」「神奈川県」が14.6%で最も高く、次いで「大阪府」14.3%、「埼玉県」13.3%と都市部で高い傾向が見られ、全国平均は11.6%であった。北関東圏では「茨城県」10.7%、「栃木県」10.7%、「群馬県」9.1%と、全国平均と同等もしくは低めであるが、新卒採用者離職率は「栃木県」が14.3%

と全国ワースト 2 位であった。高齢者や障がい者への高度な看護ケアというテーマにおいて極めて看護師は必要な人材であり、今後この分野での需要が加速することが予測されていることから、人材の育成は更に必要かつ急務である。本学に入学する高校の所在地は、関東圏が多いため、前述の状況を踏まえると、本学が看護師養成で果たす責務は大きいと考える。

③本学近県の看護職員需給推計

令和 7 (2025) 年時点での看護職員の需給推計（「医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会 中間とりまとめ」看護職員需給推計都道府県版）から本学近県の需給推計を抜粋したものを（表 7）に示す。供給数は、県内の看護師養成や離職、再就職による増減状況から、供給される看護職員数を推計したものである。需要数は、現在の病床数・患者数及び看護職員数をもとに、医療需要（病床数あるいは患者数）あたりの看護職員数を推計したものである。需要推計については働き方改革を反映し、3つのシナリオが設定されており、シナリオ①は就業中の全ての看護職員の超過勤務が月 10 時間以内、有給休暇取得日数が年 5 日以上、シナリオ②は就業中の全ての看護職員の超過勤務が月 10 時間以内、有給休暇取得日数が年 10 日以上、シナリオ③は就業中の全ての看護職員の超過勤務が 0 時間、有給休暇取得日数が年 15 日以上の場合の推計値である。

【表 7 本学近県の看護職員需給推計】

	供給推計	需要推計			需要推計と供給推計の差			充足率		
		シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③	シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③	シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③
栃木県	27,063	25,801	26,032	27,709	1,262	1,031	-646	104.9%	104.0%	97.7%
茨城県	37,912	38,741	39,089	41,606	-829	-1,177	-3,694	97.9%	97.0%	91.1%
群馬県	28,720	27,910	28,160	29,974	810	560	-1,254	102.9%	102.0%	95.8%
埼玉県	78,416	90,907	91,723	97,630	-12,491	-13,307	-19,214	86.3%	85.5%	80.3%
全国	1,801,633	1,880,682	1,897,561	2,019,773	-79,049	-95,928	-218,140	95.8%	94.9%	89.2%

シナリオ①：就業中の全ての看護職員の超過勤務が月10時間以内、有給休暇取得日数が年5日以上

シナリオ②：就業中の全ての看護職員の超過勤務が月10時間以内、有給休暇取得日数が年10日以上

シナリオ③：就業中の全ての看護職員の超過勤務が月0時間、有給休暇取得日数が年15日以上

栃木県の充足率はシナリオ①②で 104%、シナリオ③で 97.7%、群馬県の充足率はシナリオ①②で 102%、シナリオ③で 95.8%と概ね充足している。茨城県についてはシナリオ①②で 97%、シナリオ③で 91%と若干不足しており、埼玉県ではシナリオ①②で 86%前後、シナリオ③で 80.3%とかなり不足している。全国平均がシナリオ①で 92.9%、シナリオ②で 92.0%、シナリオ③で 86.5%であることを考えると、本学近県では埼玉県の需給が最も厳しい状況である。本学は獨協医科大学埼玉医療センターに多くの卒業生を輩出しており、本学看護学部定員増員により、この点についても貢献できると考えられる。

④人材需要に関するアンケート調査：本学看護学部卒業生の採用意向

本学看護学部卒業生に対する採用の意向を知るため、以下のとおり、「獨協医科大学看護学部看護学科収容定員増に係るニーズ調査報告書（事業所編）」【資料 14】を実施した。

[調査目的]

獨協医科大学看護学部看護学科収容定員増計画検討のため、事業所の人材需要等を第三者機関により把握し、定員増員計画の基礎資料とすることを目的とする。

[調査方法]

- ・調査期間：令和4(2022)年12月19日～令和5(2023)年1月10日
- ・調査対象：本学看護学部実習施設、卒業生の採用が期待される栃木県を中心とした病院、老健施設、および過去に本学卒業生が就職した病院、官公庁、訪問看護ステーション等、計 **222 施設** → (表8)
- ・回答方法：紙面（郵送）
- ・調査内容：本学看護学部定員増の必要性及び本学卒業予定者の採用需要

[回答率]

45.9% (回答数 102/調査依頼数 222)

【表8 調査対象：本学卒業生の都道府県別就職先】

	病院	官公庁	老健施設	訪問看護 ステーション	計
栃木県	109	26	12	12	159
東京都	19	1	0	0	20
埼玉県	7	4	0	0	11
茨城県	6	2	0	0	8
群馬県	5	3	0	0	8
神奈川県	6	1	0	0	7
千葉県	5	0	0	0	5
福島県	2	2	0	0	4
計	159	39	12	12	222

調査結果は以下のとおりである。

過去3年間の採用人数

回答した102の事業所の過去3年間の採用人数は、令和2(2020)年度が82事業所2,845名、令和3(2021)年度が85事業所2,792名、令和4(2022)年度が85事業所2,925名で、令和3(2021)年度は採用人数が若干減少したものの令和4(2022)年度には増加に転じており、毎年2,700名を超える採用があることから、安定的に採用がある状況と言える。

過去3年間の採用人材充足状況

回答した102の事業所の過去3年間の採用人材充足状況について、38.2% (39事業所)

が「不足している」、24.5% (25 事業所) が「やや不足している」と回答し、全体の 62.7% が看護師不足の状況であった。

人材採用時に重視する点

本学卒業生の看護師採用について、「採用したい」「採用を検討したい」と回答した 72 の事業所の人材採用時に重視する点は、回答割合が高い順に、「コミュニケーション能力 (58 事業所・80.6%)」、「チームで働く力 (35 事業所・48.6%)」、「課題発見・課題解決能力 (18 事業所・25.0%)」、「社会常識 (17 事業所・23.6%)」、「チャレンジ精神・積極性 (10 事業所・13.9%)」、「論理的思考力 (4 事業所・5.6%)」、「専攻分野の基礎学力 (2 事業所・2.8%)」であり、「語学力」「国際感覚 (広い視野・価値観)」「その他」を選択した事業所はなかった。

本学看護学部の収容定員増の必要性

本学看護学部の収容定員増の必要性について、44.1% (45 事業所) が「必要性を感じる」、35.3% (36 事業所) が「ある程度必要性を感じる」と回答し、全体の 79.4% (81 事業所) が収容定員増について何らかの必要性を感じていた。また、本学卒業生の看護師採用について、「採用したい」「採用を検討したい」と回答した 72 の事業所のうち、51.4% (37 事業所) が「必要性を感じる」、41.7% (30 事業所) が「ある程度必要性を感じる」と回答し、計 93.1% (67 事業所) が何らかの必要性を感じていた。

本学卒業予定者の採用需要

本学卒業生の看護師採用について、50.0% (51 事業所) が「採用したいと思う」、20.6% (21 事業所) が「採用を検討したいと思う」と回答し、70.6% (72 事業所) が何らかの採用意向を持っている。また、「採用したい」「採用を検討したい」と回答した 72 の事業所において採用人数を集計したところ、計 186 名となり、入学定員増員後の 145 名の 1.28 倍となった。

⑤ 収容定員増員に関する賛同書

本学部の収容定員増員に関して、栃木県看護協会及び獨協医科大学附属の 3 病院から賛同書が提出されており、医療現場の看護師及び助産師不足解消のため、早期の人材養成の期待が寄せられている。**【資料 6 (再掲)】**

以上のことから、本学卒業生に対する採用需要は一定数あると言える。

学生の確保の見通し等を記載した書類（別添資料）

— 目次 —

資料 1	厚生統計要覧（令和 4 年度，厚生労働省）	2
資料 2	年齢（3 区分）別人口及び構成比・平均年齢の推移・県計（栃木県）	3
資料 3	栃木県保健医療計画（第 7 期）	4
資料 4	令和 2 年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況（厚生労働省）	6
資料 5	2022 年病院看護実態調査（日本看護協会）	8
資料 6	賛同書	10
資料 7	私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）	14
資料 8	近隣の看護系大学の納付金（令和 5 年度）	16
資料 9	獨協医科大学看護学部看護学科収容定員増に係るニーズ調査報告書（高校生編）	17
資料 10	北関東の看護系大学志願倍率（2022 年度入試）	51
資料 11	18 歳人口予測（リクルート進学総研）	52
資料 12	獨協医科大学看護学部入学試験志願者等の推移と入学定員充足率（過去 5 年間）	54
資料 13	人口推計（総務省統計局）	55
資料 14	獨協医科大学看護 学部看護学科収容定員増に係るニーズ調査報告書（事業所編）	58

総人口・将来推計人口・構成割合，年齢3区分×年次別

年次	人口(単位：千人)				構成割合(%)			
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
大正9年(1920)	55 963	20 416	32 605	2 941	100.0	36.5	58.3	5.3
14 (1925)	59 737	21 924	34 792	3 021	100.0	36.7	58.2	5.1
昭和5年(1930)	64 450	23 579	37 807	3 064	100.0	36.6	58.7	4.8
10 (1935)	69 254	25 545	40 484	3 225	100.0	36.9	58.5	4.7
25 (1950)	83 200	29 430	49 661	4 109	100.0	35.4	59.7	4.9
30 (1955)	89 276	29 798	54 730	4 747	100.0	33.4	61.3	5.3
35 (1960)	93 419	28 067	60 002	5 350	100.0	30.0	64.2	5.7
40 (1965)	98 275	25 166	66 928	6 181	100.0	25.6	68.1	6.3
45 (1970)	103 720	24 823	71 566	7 331	100.0	23.9	69.0	7.1
50 (1975)	111 940	27 232	75 839	8 869	100.0	24.3	67.7	7.9
55 (1980)	117 060	27 524	78 884	10 653	100.0	23.5	67.4	9.1
60 (1985)	121 049	26 042	82 535	12 472	100.0	21.5	68.2	10.3
平成2年(1990)	123 611	22 544	86 140	14 928	100.0	18.2	69.7	12.1
7 (1995)	125 570	20 033	87 260	18 277	100.0	16.0	69.5	14.6
12 (2000)	126 926	18 505	86 380	22 041	100.0	14.6	68.1	17.4
17 (2005)	127 768	17 585	84 422	25 761	100.0	13.8	66.1	20.2
22 (2010)	128 057	16 839	81 735	29 484	100.0	13.1	63.8	23.0
27 (2015)	127 095	15 945	77 282	33 868	100.0	12.5	60.8	26.6
令和2年(2020)	126 146	15 032	75 088	36 027	100.0	11.9	59.5	28.6
3 (2021)	125 502	14 784	74 504	36 214	100.0	11.8	59.4	28.9
将来推計人口								
2025	122 544	14 073	71 701	36 771	100.0	11.5	58.5	30.0
2030	119 125	13 212	68 754	37 160	100.0	11.1	57.7	31.2
2035	115 216	12 457	64 942	37 817	100.0	10.8	56.4	32.8
2040	110 919	11 936	59 777	39 206	100.0	10.8	53.9	35.3
2045	106 421	11 384	55 845	39 192	100.0	10.7	52.5	36.8
2050	101 923	10 767	52 750	38 406	100.0	10.6	51.8	37.7
2055	97 441	10 123	50 276	37 042	100.0	10.4	51.6	38.0
2060	92 840	9 508	47 928	35 403	100.0	10.2	51.6	38.1
2065	88 077	8 975	45 291	33 810	100.0	10.2	51.4	38.4

資料：総務省統計局「人口推計」「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口、平成29年推計」の中間推計値

注：1) 大正9年から平成27年及び令和2年は国勢調査による実績値である。

2) 昭和50年以降の総数には年齢不詳を含む。

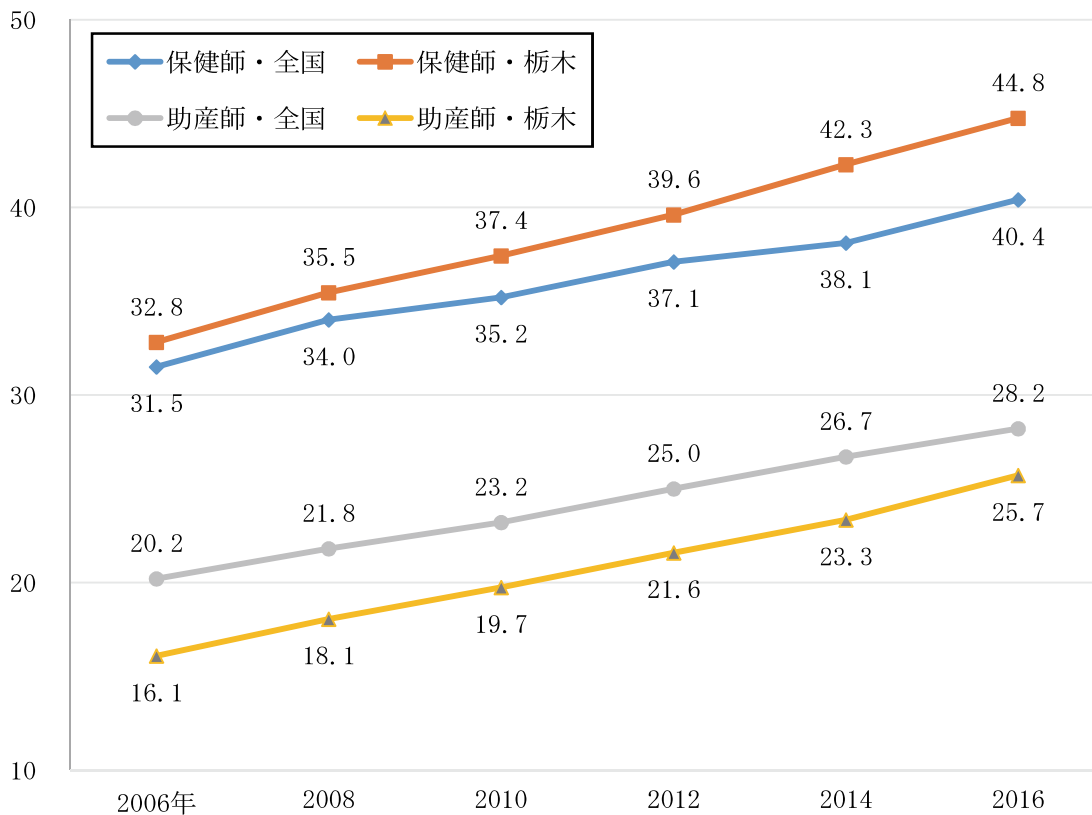
男女・年齢区分	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)
総数(人)	1,974,255	1,968,425	1,961,963	1,952,926	1,942,313	1,933,146	1,921,575	1,908,380
15歳未満	252,836	248,819	244,779	240,341	235,233	227,553	222,128	216,405
15～64歳	1,203,616	1,187,983	1,174,504	1,160,474	1,147,144	1,115,611	1,103,447	1,093,378
65歳以上	508,392	522,212	533,269	542,700	550,525	554,381	560,400	562,998
75歳以上	238,962	245,956	252,760	259,426	266,311	267,638	269,642	280,508
100歳以上	846	899	900	926	905	1,057	1,168	1,183
不詳	9,411	9,411	9,411	9,411	9,411	35,601	35,600	35,599
構成比(%)								
15歳未満	12.9	12.7	12.5	12.4	12.2	12.0	11.8	11.6
15～64歳	61.3	60.6	60.2	59.7	59.3	58.8	58.5	58.4
65歳以上	25.9	26.7	27.3	27.9	28.5	29.2	29.7	30.1
75歳以上	12.2	12.6	12.9	13.3	13.8	14.1	14.3	15.0
男(人)	981,626	979,445	977,103	973,794	969,558	964,930	958,733	951,965
15歳未満	129,488	127,620	125,646	123,578	120,960	117,231	114,526	111,462
15～64歳	621,806	614,590	608,452	602,373	596,768	578,850	572,386	567,419
65歳以上	224,907	231,810	237,580	242,418	246,405	248,634	251,606	252,870
75歳以上	92,412	96,130	99,744	103,174	106,887	107,891	109,105	114,680
100歳以上	120	134	126	123	129	125	144	128
不詳	5,425	5,425	5,425	5,425	5,425	20,215	20,215	20,214
構成比(%)								
15歳未満	13.3	13.1	12.9	12.8	12.5	12.4	12.2	12.0
15～64歳	63.7	63.1	62.6	62.2	61.9	61.3	61.0	60.9
65歳以上	23.0	23.8	24.5	25.0	25.6	26.3	26.8	27.1
75歳以上	9.5	9.9	10.3	10.7	11.1	11.4	11.6	12.3
女(人)	992,629	988,980	984,860	979,132	972,755	968,216	962,842	956,415
15歳未満	123,348	121,199	119,133	116,763	114,273	110,322	107,602	104,943
15～64歳	581,810	573,393	566,052	558,101	550,376	536,761	531,061	525,959
65歳以上	283,485	290,402	295,689	300,282	304,120	305,747	308,794	310,128
75歳以上	146,550	149,826	153,016	156,252	159,424	159,747	160,537	165,828
100歳以上	726	765	774	803	776	932	1,024	1,055
不詳	3,986	3,986	3,986	3,986	3,986	15,386	15,385	15,385
構成比(%)								
15歳未満	12.5	12.3	12.1	12.0	11.8	11.6	11.4	11.2
15～64歳	58.8	58.2	57.7	57.2	56.8	56.3	56.1	55.9
65歳以上	28.7	29.5	30.1	30.8	31.4	32.1	32.6	33.0
75歳以上	14.8	15.2	15.6	16.0	16.5	16.8	16.9	17.6
平均年齢(歳) 総数	46.2	46.5	46.7	47.0	47.4	47.8	48.1	48.4
〃 男	44.8	45.1	45.3	45.6	45.9	46.3	46.7	47.0
〃 女	47.6	47.9	48.1	48.5	48.8	49.2	49.5	49.8

4 看護職員（保健師・助産師・看護師・准看護師）

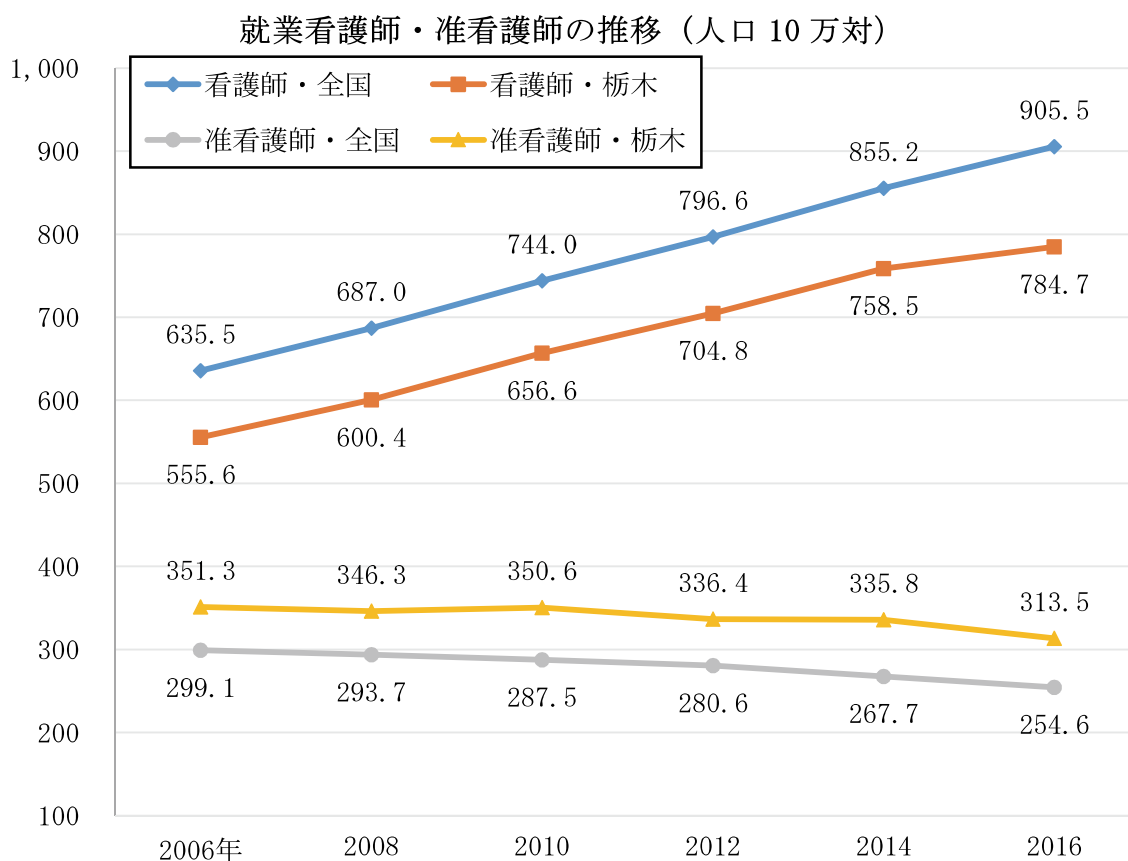
【現状と課題】

- ① 平成28（2016）年末の本県の看護職員は、人口10万人当たり、保健師が44.8（全国40.4）、助産師が25.7（全国28.2）、看護師が784.7（全国905.5）、准看護師が313.5（全国254.6）であり、准看護師を除く保健師、助産師、看護師は増加傾向が見られていますが、助産師及び看護師は全国値を下回っています。
- ② 少子高齢化による医療・介護のニーズ増大に伴い、看護職員の需要は様々な分野で高まり、改めて需給の推計が必要となっています。
- ③ 保健師は、生活習慣病対策、介護予防、高齢者や児童の虐待防止、地域包括ケアシステムの構築、健康危機管理対策等、多岐にわたる健康課題に多職種と協働しながら対応できる専門的能力と行政的能力が求められています。
- ④ 助産師は、安全で安心な出産を推進する他、ニーズの多様化を踏まえた周産期医療や母子保健に対応するための実践力向上が求められています。
- ⑤ 看護師及び准看護師は、医療の高度化や専門化及び在宅医療の普及、介護・福祉分野での医療との連携の必要性の高まりに伴い、それらに対応できる知識や技術の向上が求められています。

就業保健師・助産師の推移（人口10万対）



【資料：厚生労働省「衛生行政報告例」】



【資料：厚生労働省「衛生行政報告例」】

【施策の展開方向】

- ① 新たに看護職を目指す人材の確保のために、修学資金の貸与による学生の支援や養成所の支援を行います。
- ② 離職を防止するために、働き続けられる勤務環境の整備を推進します。
- ③ 再就業を促進するために、離職者に向けた復職支援に取り組みます。
- ④ 経験や到達段階に応じた研修の実施を推進し、専門分野における実践力の向上を支援します。
- ⑤ 社会ニーズに対応できる保健師育成に向け、効果的な現任教育のあり方を検討します。
- ⑥ 実践力のある助産師育成のために、経験に応じてスキルアップを目指す研修機会を提供します。
- ⑦ 高度化・多様化する医療機能に対応できる看護師育成のため、研修支援を展開します。

(5) 都道府県別にみた人口10万対就業保健師等数

都道府県別に人口10万人当たりの保健師数をみると、「長野県」が82.6人と最も多く、次いで「高知県」が80.7人、「山梨県」が80.2人となっている。一方、「神奈川県」が26.9人と最も少なく、次いで「大阪府」が27.7人、「埼玉県」が30.7人となっている。（図2）

人口10万人当たりの助産師数をみると、「島根県」が50.7人と最も多く、次いで「鳥取県」が46.4人、「長野県」が43.9人となっている。一方、「広島県」が24.0人と最も少なく、次いで「埼玉県」が24.1人、「愛媛県」が24.3人となっている。（図3）

図2 人口10万対就業保健師数

令和2（2020）年末現在

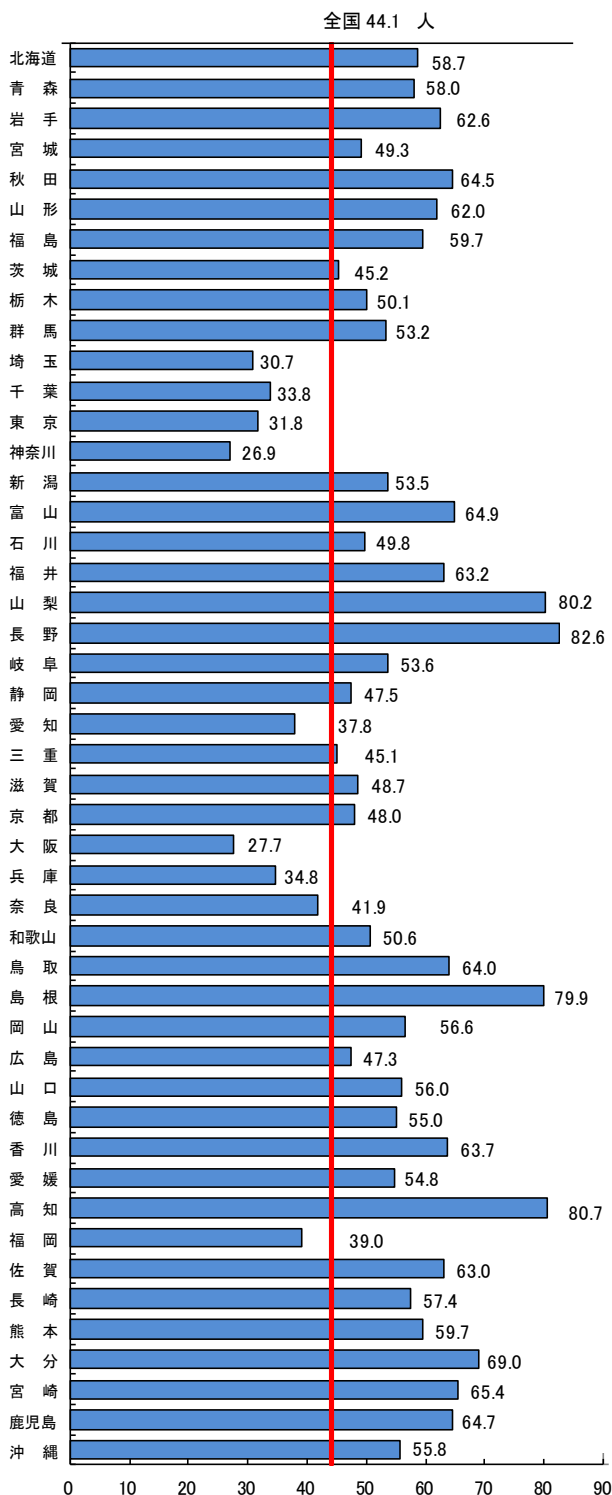
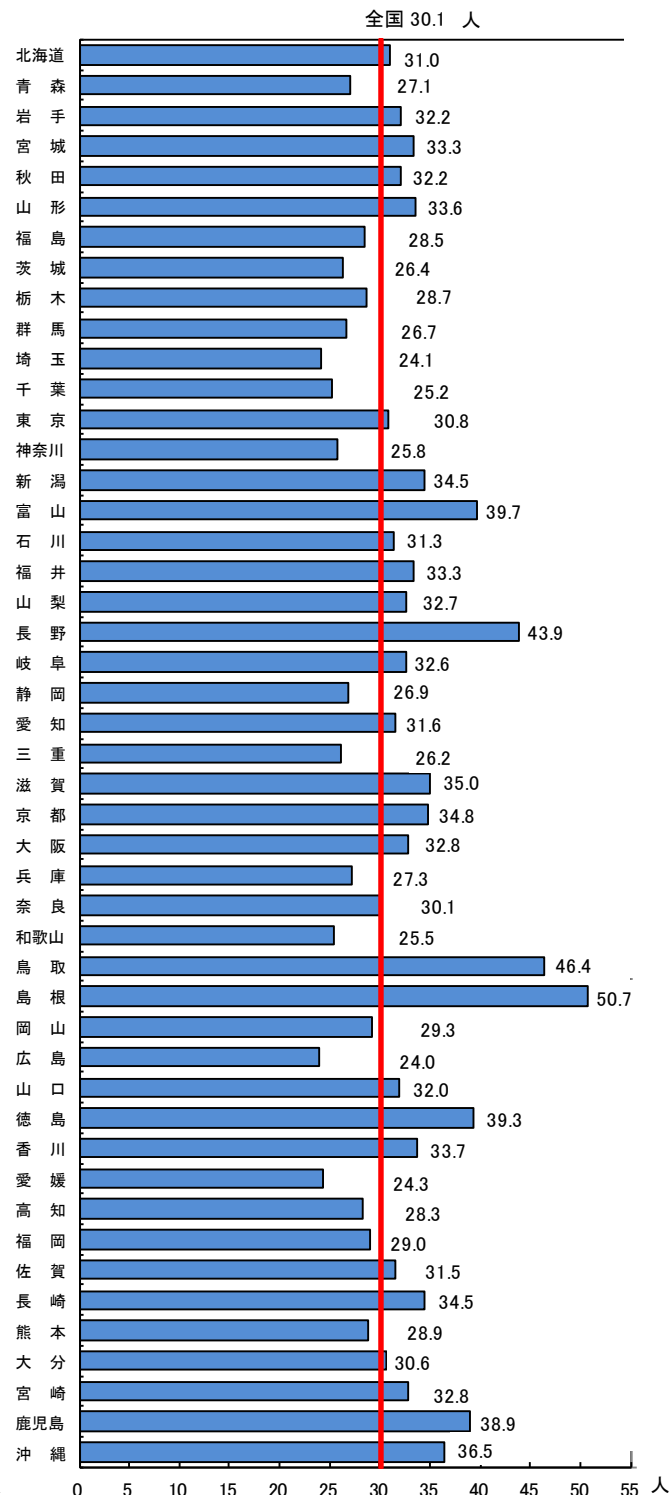


図3 人口10万対就業助産師数

令和2（2020）年末現在



人口10万人当たりの看護師数をみると、「高知県」が1,623.4人と最も多く、次いで「鹿児島県」が1,476.0人、「佐賀県」が1,403.6人となっている。一方、「埼玉県」が736.9人と最も少なく、次いで「千葉県」が770.0人、「神奈川県」が791.8人となっている。（図4）

人口10万人当たりの准看護師数をみると、「熊本県」が542.7人と最も多く、次いで「宮崎県」が540.6人、「佐賀県」が529.8人となっている。一方、「東京都」が85.9人と最も少なく、次いで「神奈川県」が90.4人、「滋賀県」が109.9人となっている。（図5）

図4 人口10万対就業看護師数

令和2（2020）年末現在

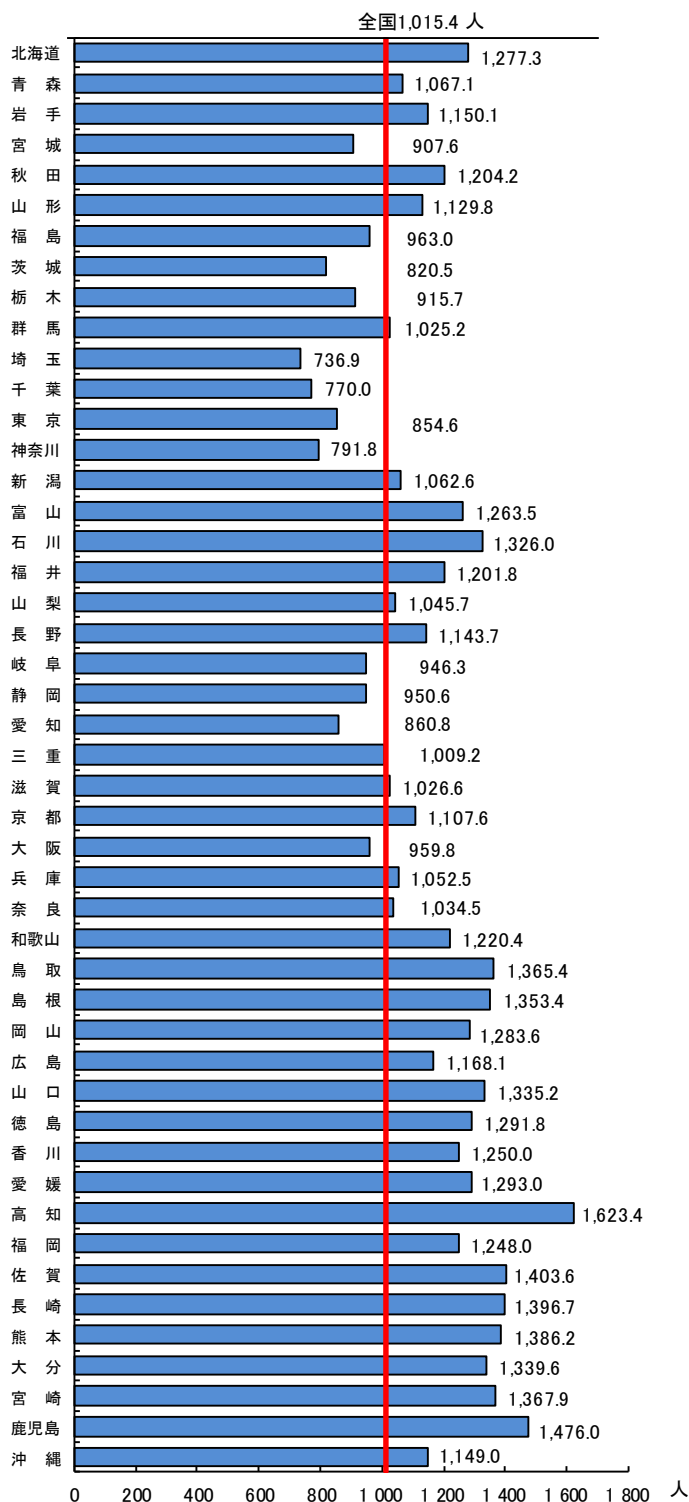
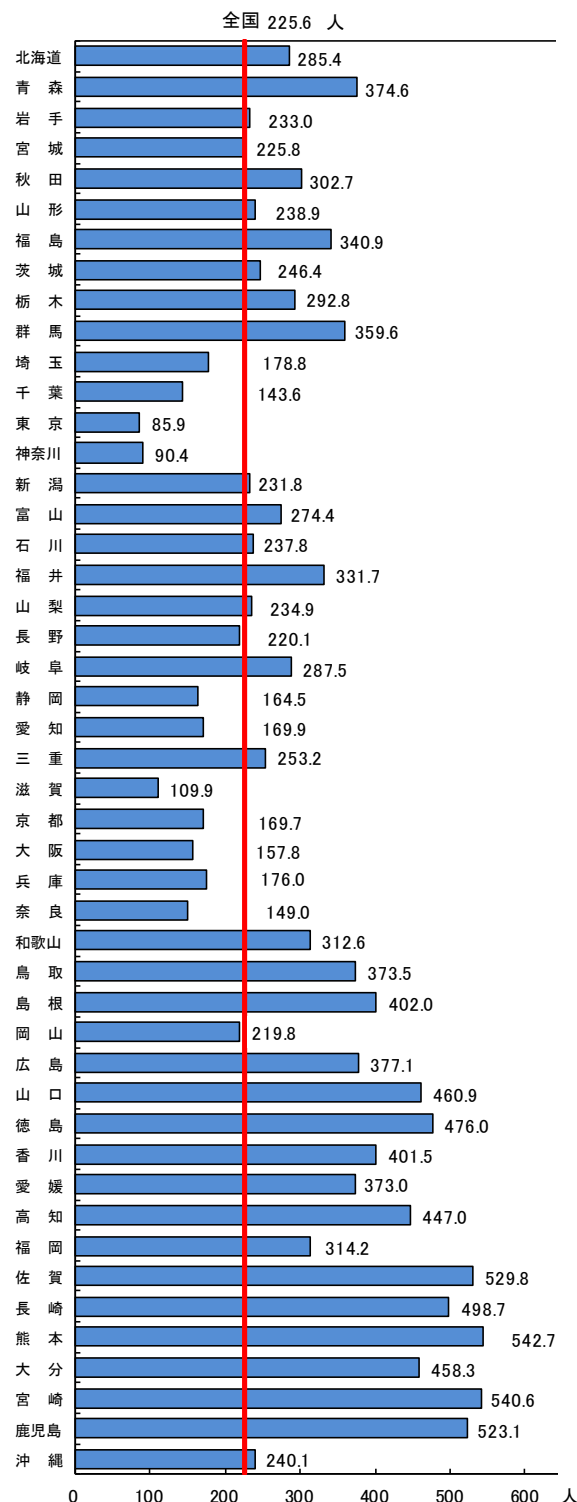


図5 人口10万対就業准看護師数

令和2（2020）年末現在



News Release

報道関係者各位

公益社団法人 日本看護協会 広報部

2023年3月31日

表 3 都道府県別・看護職員離職率

	2021年度離職率(2022年調査)				2020年度離職率(2021年調査)			
	回答 施設数	正規雇用 看護職員	新卒 採用者	既卒 採用者	回答 施設数	正規雇用 看護職員	新卒 採用者	既卒 採用者
全体	2,659	11.6%	10.3%	16.8%	2,432	10.6%	8.2%	14.9%
北海道	148	11.4%	8.2%	14.8%	143	10.5%	5.3%	14.7%
青森県	29	7.3%	10.3%	9.4%	34	6.9%	6.7%	18.7%
岩手県	38	7.4%	10.7%	24.0%	34	6.1%	9.0%	24.6%
宮城県	54	9.6%	12.3%	9.6%	39	8.6%	7.1%	12.9%
秋田県	22	7.6%	8.0%	6.7%	22	7.4%	5.7%	9.6%
山形県	33	7.3%	9.1%	12.4%	33	6.1%	4.7%	9.9%
福島県	42	8.9%	8.0%	12.8%	39	7.3%	9.8%	14.3%
茨城県	57	10.7%	8.0%	11.2%	51	10.7%	7.8%	21.4%
栃木県	31	10.7%	14.3%	14.7%	33	10.1%	15.0%	13.2%
群馬県	47	9.1%	7.0%	16.6%	40	8.3%	9.0%	3.8%
埼玉県	108	13.3%	12.6%	16.0%	85	13.0%	8.7%	20.7%
千葉県	105	13.5%	10.2%	13.1%	91	11.9%	6.4%	11.9%
東京都	190	14.6%	12.3%	20.7%	165	13.4%	10.6%	17.4%
神奈川県	128	14.6%	11.2%	20.4%	123	14.0%	8.6%	20.0%
新潟県	56	9.3%	7.6%	14.0%	46	8.0%	8.9%	10.8%
富山県	35	8.8%	5.1%	12.3%	33	8.6%	2.9%	13.6%
石川県	28	9.6%	6.6%	14.2%	25	10.8%	5.6%	28.9%
福井県	23	8.4%	3.7%	8.7%	31	7.3%	5.2%	8.6%
山梨県	17	7.4%	8.6%	13.4%	23	8.7%	5.8%	10.9%
長野県	47	8.3%	5.3%	7.0%	44	8.2%	5.1%	9.2%
岐阜県	33	9.3%	12.8%	14.8%	28	10.8%	9.3%	15.0%
静岡県	63	11.7%	4.1%	17.9%	52	8.5%	6.1%	8.5%
愛知県	93	12.8%	8.3%	13.0%	97	12.2%	6.9%	13.1%
三重県	30	10.8%	6.6%	20.0%	35	9.8%	4.9%	18.0%
滋賀県	33	10.9%	5.8%	17.8%	30	10.2%	9.9%	17.4%
京都府	71	12.0%	9.8%	15.8%	73	11.7%	7.2%	13.1%
大阪府	147	14.3%	12.3%	23.5%	132	12.3%	9.2%	16.8%
兵庫県	133	12.8%	12.4%	17.7%	108	11.7%	10.7%	10.0%
奈良県	33	12.3%	7.9%	15.1%	34	10.8%	8.1%	19.5%
和歌山県	26	10.5%	11.2%	23.1%	22	9.7%	8.7%	15.2%
鳥取県	22	7.7%	11.2%	15.8%	16	7.4%	4.7%	7.3%
島根県	25	7.5%	6.6%	8.1%	24	6.5%	4.7%	6.7%
岡山県	70	9.9%	9.2%	14.7%	64	10.2%	7.9%	23.4%
広島県	99	10.1%	10.3%	17.0%	75	8.3%	7.4%	13.8%
山口県	36	10.1%	11.5%	15.6%	44	9.6%	10.4%	15.0%
徳島県	19	5.9%	11.1%	16.4%	21	7.1%	7.5%	3.6%
香川県	23	9.4%	17.1%	22.1%	20	8.5%	14.5%	4.5%
愛媛県	27	10.8%	12.0%	12.1%	22	8.8%	4.7%	14.3%
高知県	29	9.7%	9.8%	17.5%	26	7.8%	5.3%	13.6%
福岡県	106	11.3%	10.4%	15.4%	112	10.2%	8.6%	12.7%
佐賀県	23	8.0%	9.0%	8.8%	22	7.2%	6.3%	13.6%
長崎県	47	11.0%	13.3%	15.8%	38	8.3%	6.3%	9.1%

News Release

報道関係者各位

公益社団法人 日本看護協会 広報部

2023年3月31日

熊本県	84	10.1%	8.3%	19.5%	67	9.2%	9.2%	11.1%
大分県	55	10.8%	11.3%	16.9%	39	9.3%	5.7%	22.4%
宮崎県	23	10.5%	11.0%	16.9%	28	8.1%	9.0%	13.0%
鹿児島県	32	10.0%	9.1%	19.2%	41	9.4%	4.7%	21.1%
沖縄県	33	11.3%	7.7%	11.6%	28	10.9%	7.5%	4.9%
無回答・不明	6	11.8%	0.0%	23.1%	0	-	-	-

※「回答施設数」には正規雇用看護職員離職率算定の基となった数を記載。

5) 総退職者数の増減状況と新型コロナの影響

- 2021年度の総退職者数が前年度より増加した(「とても増加した」「やや増加した」の合計)と回答した病院は約35%で、前年度の調査よりも、約8ポイント増えた(図2)。
- 増加したと回答した場合に、増加に新型コロナウイルス感染症が影響している(「大いに影響している」「やや影響している」の合計)と回答したのは約38%で、昨年度よりも約3ポイント増えており、一定の影響が示唆された(図3)。

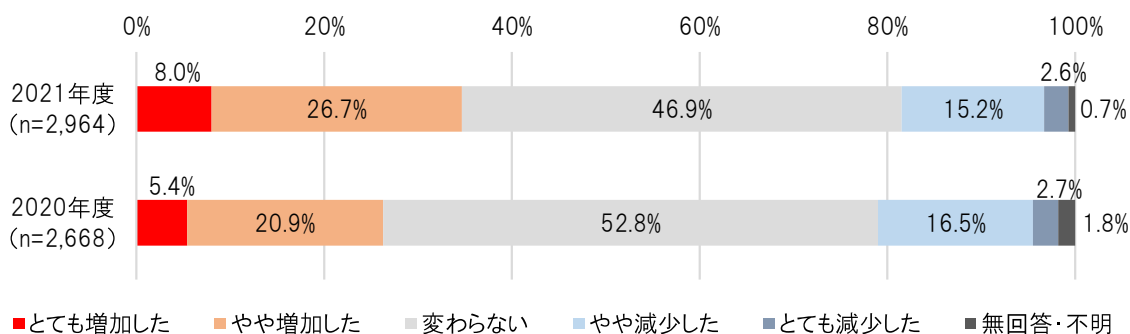


図2 総退職者の増減状況

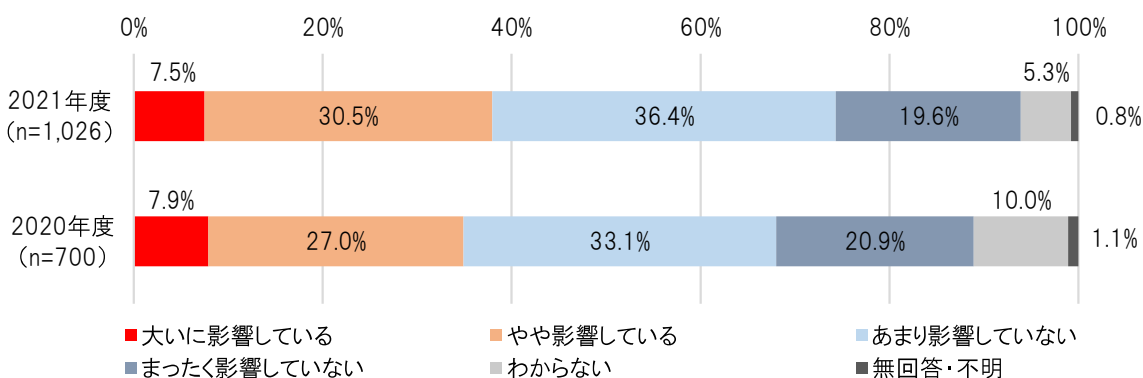


図3 総退職者数が増加した場合の新型コロナの影響

賛 同 書

学校法人 獨協学園 理事長
獨協医科大学 学長
吉田 謙一郎 様

本協会が所在する栃木県では、慢性的な看護師人材不足により、通常時の医療体制を維持していく上でも深刻な状況となっております。

少子高齢化や疾病構造の変化が進む中、活動の領域や看護職に求められる役割はますます拡大しています。そのような状況の中で、栃木県民の方々へより質の高い医療サービスを提供するためには、これまでも増して優秀な看護人材の養成が求められています。

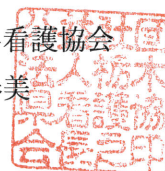
貴学の看護学部におかれましては、平成19年度の創設以来、長年にわたり看護師の養成にご尽力をいただいているところですが、今後更なるお力添えをお願いいたしたく、下記の獨協医科大学看護学部の入学定員増の計画に全面的に賛同いたします。

【計画概要】

名称	獨協医科大学看護学部
内容	看護学部入学定員 95 名から 145 名に定員増
場所	栃木県下都賀郡壬生町北小林 880
時期	令和6年4月1日

令和5年4月20日

公益社団法人 栃木県看護協会
会長 朝野 春美



賛 同 書

令和5年4月25日

学校法人 獨協学園 理事長
獨協医科大学 学長
吉田 謙一郎 様

本病院が所在する栃木県では、看護師・助産師等の人材不足が慢性化し、通常医療体制がひっ迫しており、看護師・助産師不足が一層深刻な状況となっております。

地域住民の方への質の良い医療サービスの提供のためにも、看護師・助産師の養成および派遣をお願い致したく、獨協医科大学看護学部の入学定員増の計画に全面的に賛同致します。

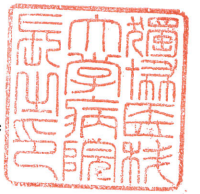
【計画概要】

名称	獨協医科大学看護学部
内容	看護学部入学定員 95 名から 145 名に定員増
場所	栃木県下都賀郡壬生町北小林 880
時期	令和6年4月1日

令和5年4月25日

獨協医科大学病院

病院長 麻生 好正 公印*



賛 同 書

令和5年4月25日

学校法人 獨協学園 理事長
獨協医科大学 学長
吉田 謙一郎 様

本病院が所在する埼玉県では、看護師・助産師等の人材不足が慢性化し、通常医療体制がひっ迫しており、看護師・助産師不足が一層深刻な状況となっております。

地域住民の方への質の良い医療サービスの提供のためにも、看護師・助産師の養成および派遣をお願い致したく、獨協医科大学看護学部の入学定員増の計画に全面的に賛同致します。

【計画概要】

名称	獨協医科大学看護学部
内容	看護学部入学定員 95 名から 145 名に定員増
場所	栃木県下都賀郡壬生町北小林 880
時期	令和 6 年 4 月 1 日

令和 5 年 4 月 25 日

獨協医科大学病院埼玉医療センター
病院長 奥田 泰久 公印*



賛 同 書

令和5年4月25日

学校法人 獨協学園 理事長
獨協医科大学 学長
吉田 謙一郎 様

本協会が所在する栃木県では、看護師の人材不足が慢性化し、通常医療体制がひっ迫しており、看護人材不足が一層深刻な状況となっております。

地域住民の方への質の良い医療サービスの提供のためにも、看護人材の養成および派遣をお願い致したく、獨協医科大学看護学部の入学定員増の計画に全面的に賛同致します。

【計画概要】

名称	獨協医科大学看護学部
内容	看護学部入学定員 95 名から 145 名に定員増
場所	栃木県下都賀郡壬生町北小林 880
時期	令和6年4月1日

令和5年4月25日

獨協医科大学病院日光医療センター
病院長 安 隆則



近隣の看護系大学の納付金（令和5年度）

（単位：円）

所在地	大学名	学部学科名	入学金	授業料	施設 設備費等	初年度 納付金	4年間の 合計
栃木県	獨協医科大学	看護学部看護学科	500,000	850,000	500,000	1,850,000	5,900,000
栃木県	足利大学	看護学部看護学科	270,000	1,460,000	0	1,730,000	6,110,000
栃木県	国際医療福祉大学	保健医療学部看護学科	300,000	900,000	(1年目) 410,000 (2年目) 610,000	1,610,000	6,140,000
栃木県	自治医科大学	看護学部看護学科	500,000	850,000	500,000	1,850,000	5,900,000
茨城県	茨城キリスト教大学	看護学部看護学科	250,000	1,000,000	640,000	1,890,000	6,810,000
茨城県	つくば国際大学	保健医療学部看護学科	300,000	900,000	650,000	1,850,000	6,500,000
茨城県	常磐大学	看護学部看護学科	250,000	950,000	570,000	1,770,000	6,330,000
群馬県	桐生大学	医療保健学部看護学科	250,000	1,000,000	500,000	1,750,000	6,250,000
群馬県	群馬医療福祉大学	看護学部看護学科	300,000	960,000	400,000	1,660,000	5,740,000
群馬県	群馬パース大学	看護学部看護学科	250,000	1,500,000	40,000	1,790,000	6,410,000
群馬県	上武大学	看護学部看護学科	200,000	1,100,000	480,000	1,780,000	6,520,000
群馬県	高崎健康福祉大学	保健医療学部看護学科	280,000	900,000	500,000	1,680,000	5,880,000

平均 1,767,500 6,207,500

※各大学の情報については、大学ポートレート（私学版）、各大学のホームページより転載

獨協医科大学 看護学部 看護学科
収容定員増に係るニーズ調査報告書（高校生編）

2023 年 2 月

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

目次

1. 調査概要	2
2. 調査・分析結果の要旨	3
3. 全体集計結果	6
4. 獨協医科大学 看護学部 看護学科への関心分析	17
5. 進学需要分析	26
6. 補記	28

1. 調査概要

(1) 調査目的

獨協医科大学 看護学部 看護学科 収容定員増計画検討のため、本アンケート調査により高校生の進学需要等を把握し、増員計画の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査対象

獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学実績等を参考に選定した高等学校に在籍する2年生。

(3) 実施時期

2022年12月19日～2023年1月23日

(4) 回収状況

本調査では92校17,900人を対象に調査票を配布し、その結果92校11,663件の調査票を回収することができた。(回収率65.2%)

(5) 調査方法

調査票による定量調査。(アンケート調査)

(6) 利用調査票

添付アンケート調査票参照。

2. 調査・分析結果の要旨

(1) 調査結果の要旨

① 性別

回答者の性別は、「男性」が 4,969 人(42.6%)、「女性」が 6,403 人(54.9%)、「未回答」281 人(2.4%)、「無回答・無効回答」10 人(0.1%)となっている。

② 居住地域

回答者の居住地域は、「栃木県」6,480 人(55.6%)が最も多く 5 割以上となっており、次いで「茨城県」2,052 人(17.6%)、「埼玉県」1,263 人(10.8%)となっている。

③ 高校卒業後の進路

回答者の高校卒業後の進路は、「大学への進学」9,304 人(79.8%)が最も多く 8 割近くとなっており、「専門学校への進学」1,228 人(10.5%)、「決めていない」467 人(4.0%)と続いている。

④ 進学希望分野（第 1 希望）

回答者の進学希望分野(第 1 希望)は、第 1 位が「理学・工学」2,065 人(17.7%)で、第 2 位「経済学・経営学・商学」1,039 人(8.9%)、第 3 位「看護学」1,037 人(8.9%)と続いている。

④ 進学希望分野（第 2 希望）

回答者の進学希望分野(第 2 希望)は、「未回答・無効回答」を除き、第 1 位が「医療技術(リハビリ・臨床検査など)」1,100 人(9.4%)で、第 2 位「経済学・経営学・商学」1,010 人(8.7%)、第 3 位「その他」912 人(7.8%)と続いている。

⑤ 取得したい資格

回答者の取得したい資格は、「未回答・無効回答」を除き、第 1 位が「看護師」3,233 人(21.4%)で、第 2 位「その他」3,155 人(20.9%)、第 3 位「保健師」2,206 人(14.6%)となっている。

⑥ 進学先決定時の重視要因

回答者の進学先決定時の重視要因は、第 1 位が「学科、コース等の学びの分野」5,987 人(27.9%)で、第 2 位「技術・資格の取得」3,250 人(15.2%)、第 3 位「就職実績」2,131 人(9.9%)となっている。

⑦看護学部 看護学科の受験意向

回答者の獨協医科大学 看護学部 看護学科の受験意向は、「受験したい」が1,054人(9.0%)で、一方、「受験したくない」は9,478人(81.3%)、「無回答・無効回答」は1,131人(9.7%)となっている。

⑧看護学部 看護学科への進学意向

回答者の獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学意向は、「合格した場合、入学したいと思う」が958人(8.2%)、「合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う」が3,009人(25.8%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計は3,967人(34.0%)となっており、「合格した場合、入学したいと思う」のみで入学定員(145人)の6.6倍、「合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う」を含めると入学定員(145人)の27.4倍となっている。

一方、「入学しない」は6,413人(55.0%)で、全体の約1割の1,283人(11.0%)が「無回答・無効回答」となっている。

(2)分析結果の要旨

Q7) 獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学意向への回答では、「合格した場合、入学したいと思う」958人(8.2%)、「合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う」3,009人(25.8%)となっており、獨協医科大学 看護学部 看護学科へ何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が3,967人(34.0%)であり、「合格した場合、入学したいと思う」のみで入学定員(145人)の6.6倍、「合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う」を含めると入学定員(145人)の27.4倍となっている。(P.14)

Q4)で進学希望分野(第1希望)として「看護学」を選択している層が合計1,037人で、このうち、Q7)で「受験したい」と回答し、かつ、Q8)で「合格した場合、入学したいと思う」と回答した人数は231人となっている。さらに、231人のうち179人は「Q3)卒業後の進路」として「大学への進学」を選択していることから、179人が獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学層となる。

以上から、獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学需要は179人で、入学定員145人の1.2倍となる。

さらに、Q4)で進学希望分野(第2希望)として「看護学」を選択している層(第1希望で「看護学」を選択している層は除く)が合計475人で、このうち、Q7)で「受験したい」と回答し、かつ、Q8)で「合格した場合、入学したいと思う」と回答した人数は34人となっている。さらに、34人のうち26人は「Q3)卒業後の進路」として「大学への進学」を選択していることから、26人も獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学層となる可能性があると考えられ、獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学需要は179人+26人=205人で、入学定員145人の1.4倍となる。

以上のことから、獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学需要があるといえる。

3. 全体集計結果

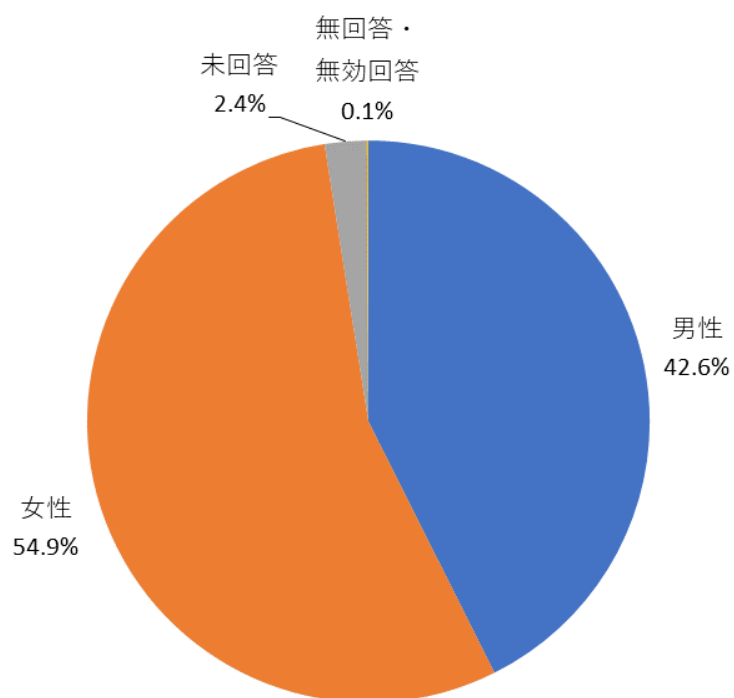
Q1) 性別

回答者の性別は、「男性」が 4,969 人 (42.6%)、「女性」が 6,403 人 (54.9%)、「未回答」281 人 (2.4%)、「無回答・無効回答」10 人 (0.1%) となっている。

Q1) あなたの性別は、どちらですか。

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	11,663	100.0%
男性	4,969	42.6%
女性	6,403	54.9%
未回答	281	2.4%
無回答・無効回答	10	0.1%

Q1



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

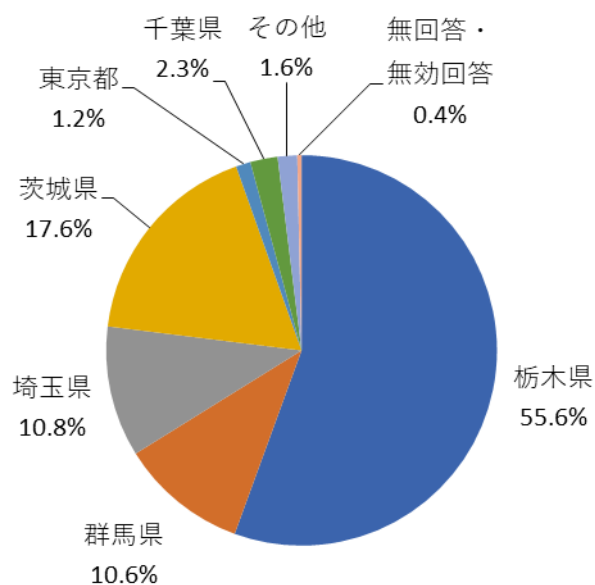
Q2) 居住地域

回答者の居住地域は、「栃木県」6,480人(55.6%)が最も多く5割以上となっており、次いで「茨城県」2,052人(17.6%)、「埼玉県」1,263人(10.8%)となっている。

Q2) あなたのお住まい(現住所)は、どちらですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	11,663	100.0%
栃木県	6,480	55.6%
群馬県	1,234	10.6%
埼玉県	1,263	10.8%
茨城県	2,052	17.6%
東京都	141	1.2%
千葉県	264	2.3%
その他	188	1.6%
無回答・無効回答	41	0.4%

Q2



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

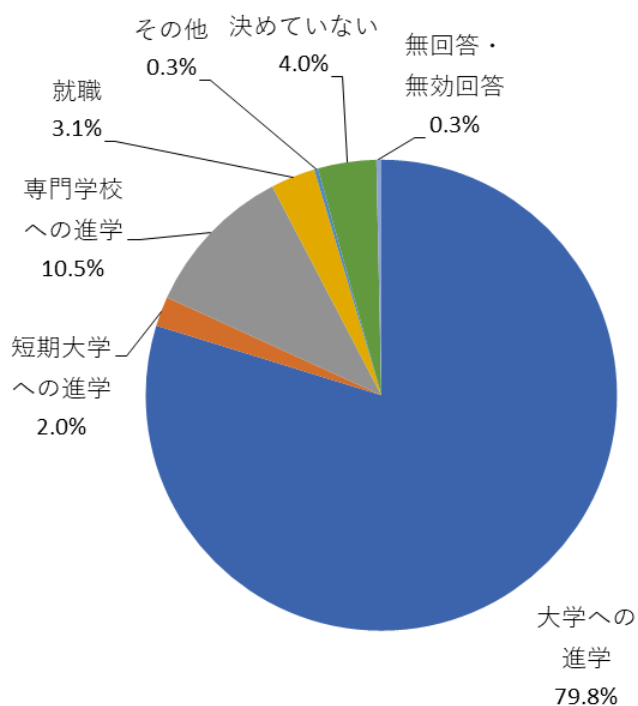
Q3) 高校卒業後の進路

回答者の高校卒業後の進路は、「大学への進学」9,304人(79.8%)が最も多く8割近くとなっており、「専門学校への進学」1,228人(10.5%)、「決めていない」467人(4.0%)と続いている。

Q3) あなたは高校卒業後どのような進路を考えていますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	11,663	100.0%
大学への進学	9,304	79.8%
短期大学への進学	238	2.0%
専門学校への進学	1,228	10.5%
就職	357	3.1%
その他	30	0.3%
決めていない	467	4.0%
無回答・無効回答	39	0.3%

Q3



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

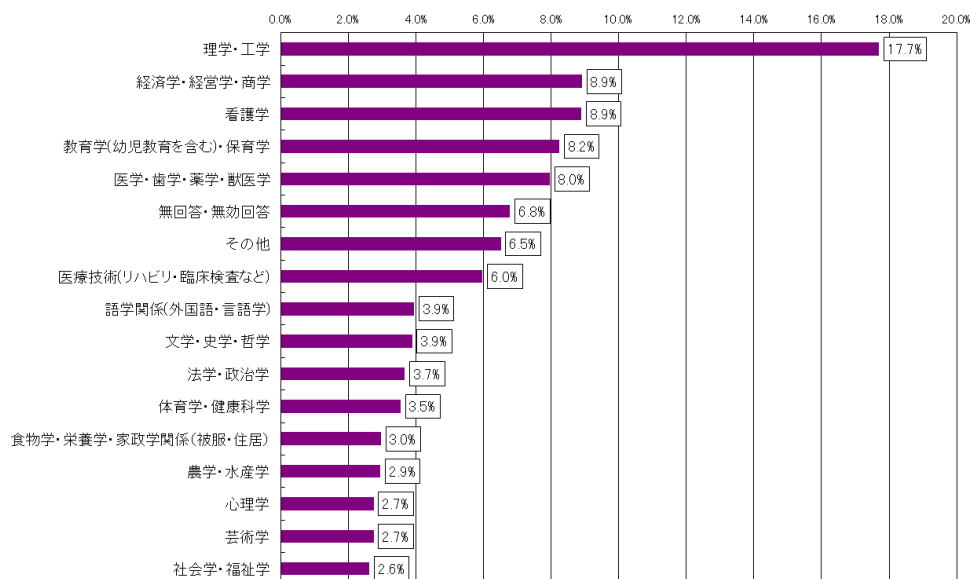
Q4) 進学希望分野(第1希望)

回答者の進学希望分野(第1希望)は、第1位が「理学・工学」2,065人(17.7%)で、第2位「経済学・経営学・商学」1,039人(8.9%)、第3位「看護学」1,037人(8.9%)と続いている。

Q4) あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか。(第1希望)

第1希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	11,663	100.0%
看護学	1,037	8.9%
医療技術(リハビリ・臨床検査など)	696	6.0%
医学・歯学・薬学・獣医学	928	8.0%
文学・史学・哲学	453	3.9%
語学関係(外国語・言語学)	460	3.9%
教育学(幼児教育を含む)・保育学	961	8.2%
心理学	320	2.7%
法学・政治学	428	3.7%
経済学・経営学・商学	1,039	8.9%
社会学・福祉学	305	2.6%
理学・工学	2,065	17.7%
農学・水産学	343	2.9%
食物学・栄養学・家政学関係(被服・住居)	345	3.0%
体育学・健康科学	413	3.5%
芸術学	320	2.7%
その他	759	6.5%
無回答・無効回答	791	6.8%

Q4 第1希望



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

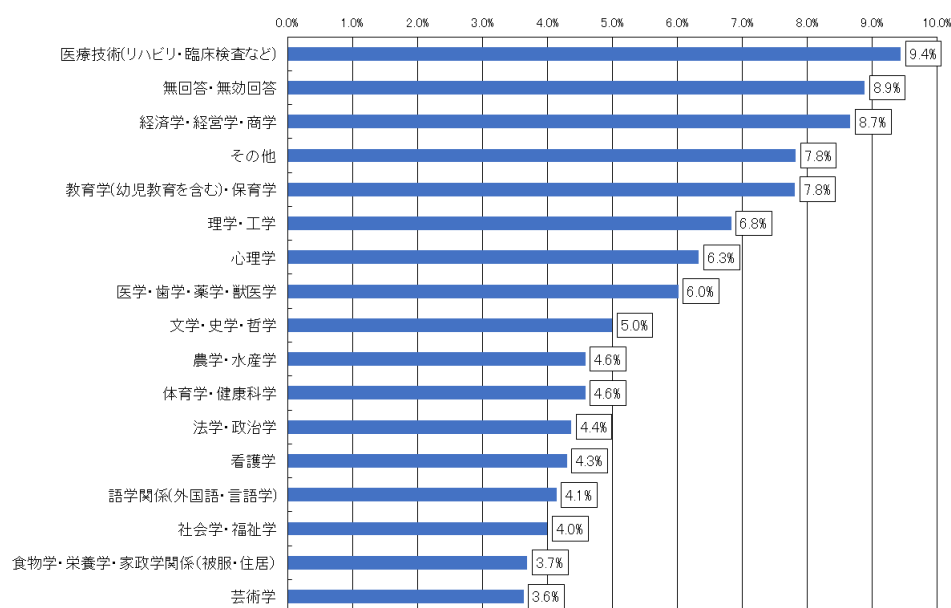
Q4) 進学希望分野(第2希望)

回答者の進学希望分野(第2希望)は、「未回答・無効回答」を除き、第1位が「医療技術(リハビリ・臨床検査など)」1,100人(9.4%)で、第2位「経済学・経営学・商学」1,010人(8.7%)、第3位「その他」912人(7.8%)と続いている。

Q4) あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか。(第2希望)

第2希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	11,663	100.0%
看護学	501	4.3%
医療技術(リハビリ・臨床検査など)	1,100	9.4%
医学・歯学・薬学・獣医学	701	6.0%
文学・史学・哲学	582	5.0%
語学関係(外国語・言語学)	482	4.1%
教育学(幼児教育を含む)・保育学	910	7.8%
心理学	738	6.3%
法学・政治学	509	4.4%
経済学・経営学・商学	1,010	8.7%
社会学・福祉学	466	4.0%
理学・工学	796	6.8%
農学・水産学	534	4.6%
食物学・栄養学・家政学関係(被服・住居)	430	3.7%
体育学・健康科学	534	4.6%
芸術学	423	3.6%
その他	912	7.8%
未回答・無効回答	1,035	8.9%

Q4 第2希望



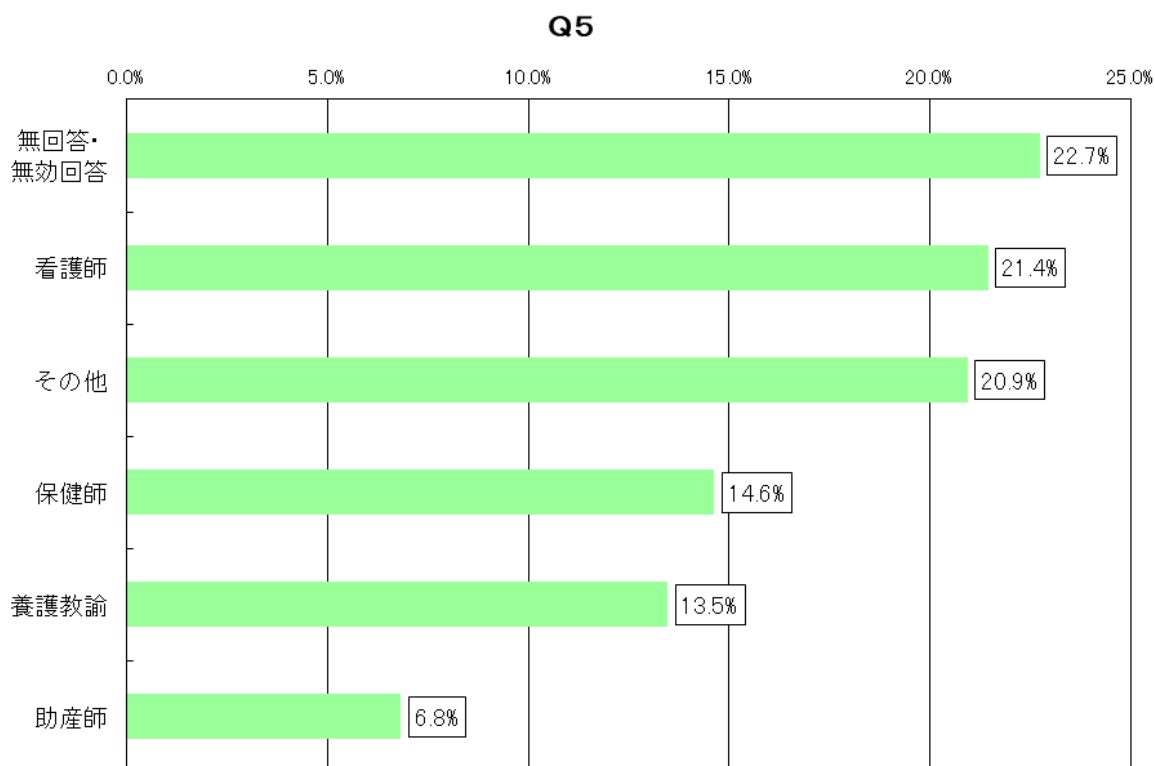
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q5) 取得したい資格 *複数選択可(2つまで)

回答者の取得したい資格は、「未回答・無効回答」を除き、第1位が「看護師」3,233人(21.4%)で、第2位「その他」3,155人(20.9%)、第3位「保健師」2,206人(14.6%)となっている。

Q5) あなたが取得したいと思う資格を次の中から2つまで選び○をつけてください。

	回答数(人)	構成比(%)
総計	15,079	100.0%
看護師	3,233	21.4%
保健師	2,206	14.6%
助産師	1,029	6.8%
養護教諭	2,030	13.5%
その他	3,155	20.9%
無回答・無効回答	3426	22.7%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

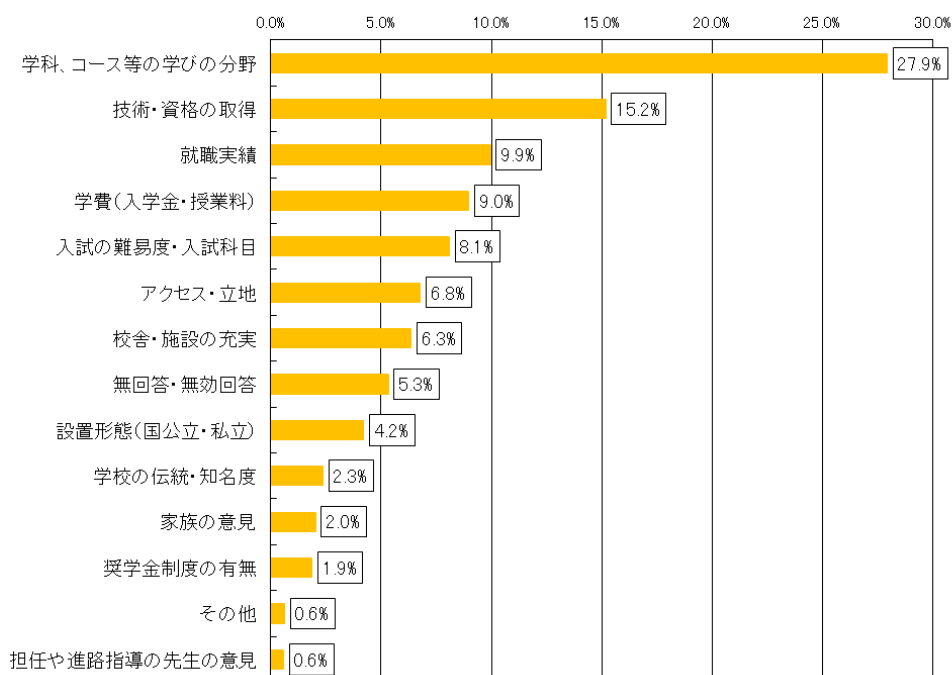
Q6) 進学先決定時の重視要因 *複数選択可(2つまで)

回答者の進学先決定時の重視要因は、第1位が「学科、コース等の学びの分野」5,987人(27.9%)で、第2位「技術・資格の取得」3,250人(15.2%)、第3位「就職実績」2,131人(9.9%)となっている。

Q6) あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか。

	回答数(人)	構成比(%)
総計	21,451	100.0%
学科、コース等の学びの分野	5,987	27.9%
技術・資格の取得	3,250	15.2%
就職実績	2,131	9.9%
校舎・施設の充実	1,360	6.3%
設置形態(国公立・私立)	901	4.2%
学費(入学金・授業料)	1,920	9.0%
奨学金制度の有無	398	1.9%
学校の伝統・知名度	502	2.3%
入試の難易度・入試科目	1,732	8.1%
担任や進路指導の先生の意見	121	0.6%
家族の意見	431	2.0%
アクセス・立地	1,450	6.8%
その他	129	0.6%
無回答・無効回答	1,139	5.3%

Q6



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

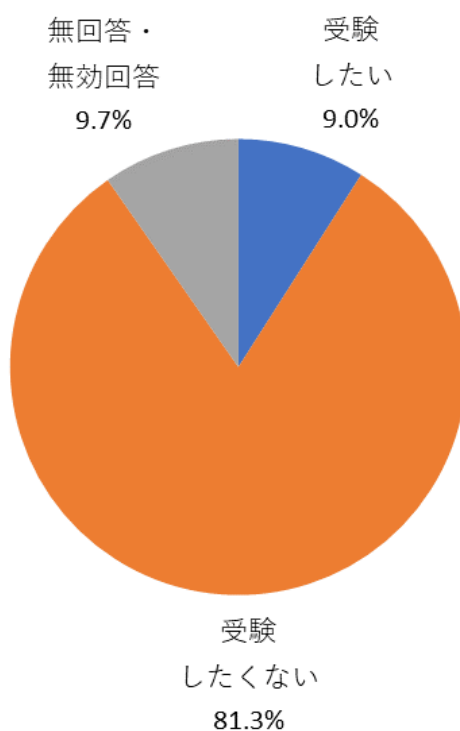
Q7) 看護学部 看護学科の受験意向

回答者の獨協医科大学 看護学部 看護学科の受験意向は、「受験したい」が1,054人(9.0%)で、一方、「受験したくない」は9,478人(81.3%)、「無回答・無効回答」は1,131人(9.7%)となっている。

Q7) 獨協医科大学 看護学部 看護学科を受験したいと思いますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	11,663	100.0%
受験したい	1,054	9.0%
受験したくない	9,478	81.3%
無回答・無効回答	1,131	9.7%

Q7



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8) 看護学部 看護学科への進学意向

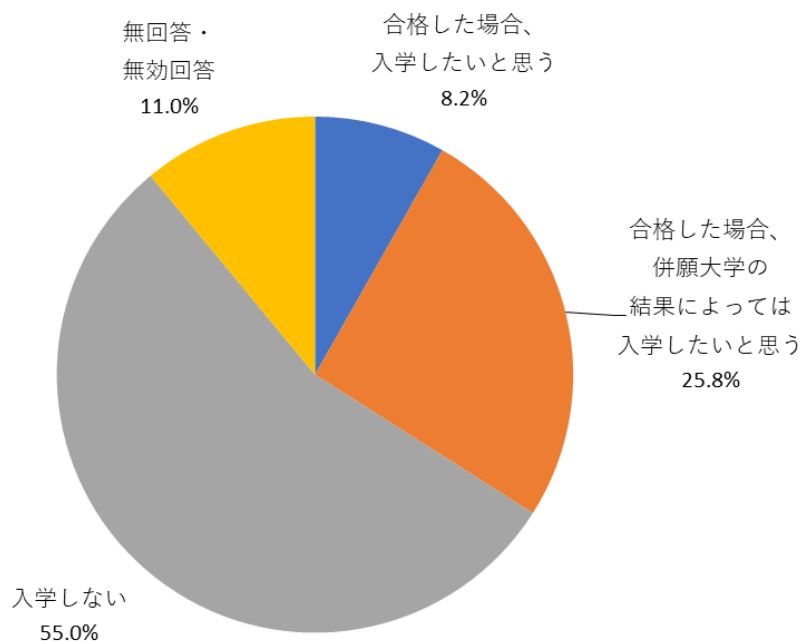
回答者の獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学意向は、「合格した場合、入学したいと思う」が958人(8.2%)、「合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う」が3,009人(25.8%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計は3,967人(34.0%)となっており、「合格した場合、入学したいと思う」のみで入学定員(145人)の6.6倍、「合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う」を含めると入学定員(145人)の27.4倍となっている。

一方、「入学しない」は6,413人(55.0%)で、全体の約1割の1,283人(11.0%)が「無回答・無効回答」となっている。

Q8) 獨協医科大学 看護学部 看護学科を受験して合格したら、入学したいと思いますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	11,663	100.0%
合格した場合、入学したいと思う	958	8.2%
合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う	3,009	25.8%
入学しない	6,413	55.0%
無回答・無効回答	1,283	11.0%

Q8



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9) 獨協医科大学 看護学部 看護学科への意見・要望

Q9) 獨協医科大学 看護学部 看護学科に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

Q9	コメント分類
オープンキャンパスなどで、実際に授業を受けてみたい。	オープンキャンパス等
オープンキャンパスみたいなのがあったら、参加したいです。	オープンキャンパス等
『オーキャン』を多く開催していただきたいです。その時に質問できるスペースを確保していただきたいです。よろしくお願いします。	オープンキャンパス等
対面形式のオープンキャンパスや、学校見学を開催してほしいです。	オープンキャンパス等
もう少しJRからのアクセスが良くなれば人も増えるのかなとは思っています。	立地
駅から遠い	立地
駅から離れていて不便だと思った。	立地
駅が近くでいいです	立地
駅の近くで良いと思った。	立地
立地がもっといい場所にあると良い。	立地
A〇はあるかどうか	入試
リーフレットに受験科目を書いておいたほうが良いと思う。	入試
通いやすい学費であることに魅力を感じた。	学費
4年間の学納金が安く良いと思った。	学費
4年間の学費が比較的安くいい	学費
他大学と比べ学費は安いと思うが、特待制度や給付金・地域枠に関して今後どのようになるのか知りたい。	学費
学納金が高い	学費
学費が安くなれば通いやすくなるかと思った。	学費
学費が高いと思いました。	学費
学費が高いと思う	学費
学費が少し高いなと思いました。	学費
入学金が高額であると、受験を敬遠されてしまうことも多いと思う。	学費
入学金が少し高い。	学費
入学金をもう少し、下げて欲しい	学費
とても施設が調って良いところだと感じた。資格もたくさん取れるから良いと思った。	施設・設備
パンフレットの写真をみて、施設が整っていていいと思いました。	施設・設備
リーフレットから、実習を行うことができる設備が整っているように感じました。	施設・設備
希望の進路が看護系ではないので何とも言えませんが、施設が整っていて看護師を目指す人がいい環境で勉強できそうだなと思いました。	施設・設備
施設が充実していて、とても良いと思う。	施設・設備
施設が充実しているので、良い環境で学習できると感じました。	施設・設備
施設が整っていて良いと思った。	施設・設備
施設も充実していてさらに助産師の資格もとれるのでとても良いと思うが、遠い。	施設・設備
施設設備が整っていると思う。	施設・設備
設備が良いと聞いたことがあるのでこれを機に看護系の仕事も考えてみたいと思う。	施設・設備
どのようなカリキュラムで、合格率はどのくらいなのかを知りたい。	教育内容
いろんな実習や地域社会との学びもはばひろい。	教育内容
どのような講義で看護実践力を育成するのですか。	教育内容
どのような指導を行っているのか知りたいです。あと卒業後の資格がどれくらいとれるのか、どのくらいの人が就職先が決まるのか。	教育内容
どんな実習があるのか知りたいです。	教育内容
医学部との合同教育は興味深いです。	教育内容
医学部との合同授業はどれくらいの頻度で実施されますか。	教育内容
医学部医学科との交流を行っていくことはあるのか	教育内容
看護以外に何を学べるのか知りたい。	教育内容
具体的にどのような教育方法をするのか	教育内容
実習が確保できるのなら定員を増やすことに賛成です	教育内容
早期からの実習で学びを深められるという点が良いと思った。	教育内容
定員が多くなって、入れる確率は少し高まるかもしれないが、大人数になって授業とかはどうなるのかと不安があります。	教育内容
どのような授業が受けられますか？	教育内容

Q 9	コメント分類
授業の内容や様子をもう少し知りたいと思いました	教育内容
入学したら、どのような勉強をできるのかもっと詳しく教えてほしいです。	教育内容
コースも多様でいろんな文野を学び将来につながる免許状が取れるのはすごいと思う。	資格
ダブルライセンスをとれるというのは自分の可能性を広げるうえで良いと思う。	資格
リーフレットに可能なら資格合格率もいれたほうがよいと思います。	資格
看護師・保健師・助産師の3つとれるのがすごいです。	資格
教師を目指しているので養護教諭もよいと思いました。	資格
教職を充実させてほしい。	資格
国家資格が取得可能であることが良いと感じた。	資格
国試合格率高いところが良い点だと思います。	資格
資格を取ることができるので、卒業後に活躍できる選択肢が増やせて良いと思いました。	資格
取得可能が資格が複数あり興味を持った。	資格
取得可能な資格が多いのはとても良いと思う	資格
取得可能な資格が多くて、受験してみたいと思いました。	資格
取得可能な資格が多く魅力的だと感じました。	資格
助産師になりたいと思っているので、資格がとれるのはすごくいいなと思いました	資格
助産師の国家試験受験資格が取れることはとても良いと思いました。	資格
助産師の資格がとれるようになったのは、とてもうれしいです！	資格
様々な国家試験の受験資格を取得できるのがとても魅力的だと感じました。	資格
様々な国家試験を受験できて良いと思う。	資格
様々な資格を取得できるのは、将来に役立つと思いました。	資格
養護教諭を志望しているのでとても気になった。	資格
とても良いと思います。病院も近くに多くて就職しやすくて良さそうです。	就職
就職先などが気になる。	就職
卒業後に活躍する場面が多いのが良いと思う	就職
卒業後の活躍フィールドが看護師だけでなく、保健師、助産師、養護教諭にもなれてよいと思います。	就職
卒業後の進路が充実しているなど思った。	就職
様々な就職先があり良いと思った。	就職
他学部との脈が広がり良いと思う。	その他
ホームページに助産師資格のことに詳しく書いてほしい。分かりにくいです。	その他
リーフレットの写真が女性のもののみだったので、もし男性も入れるのなら、男性の写真も入れた方がよいと思います。	その他
看護学部は男子が感覚的（男女比等）に希望しにくい面もあると思うので、男女比の調整があってもいいかもしれません。	その他
男女の割合をお教えてくださいと助かります。	その他
男女の比率はどのくらいですか	その他
男性の割合を増やすべきです。	その他
定員数を増やし男性の看護師を増やそうとするなら、パンフレットに男性を多く載せるべき	その他
看護はスポーツをする人に対してとても身近になることもあることなので少し興味があります。	その他
看護学部に興味があるので選択肢に入れたいと思う。	その他
看護師を目指している私としてはとても興味を持ちました。	その他
自分自身、看護の道に興味があるので、パンフレットを見て獨協医科大学をもっと知りたいと思いました。	その他
助産師国家試験受験資格を取れるコースの定員には変わりはないのか気になる。	その他
他の大学とはちがう特色を知りたいです。	その他
パンフレットに他とは違うことが何かあるのかわかるようにしてほしい。	その他
他の大学と制度を比較してくれるのは、受験する人にとってありがたいと思った。	その他
これからの時代、看護師は必要になると思うので、定員を増やすべきだと思う。	その他
これからは医療関係がより重要になってくるので定員を増員するのはとても良いと思います。	その他
たくさんの方の看護師の育成をし、もっと社会貢献してほしい。	その他
獣医学部を新設してほしいです。	その他
初耳でした。動物看護に関する学部、期待しています。動物看護学科があれば。	その他

4. 獨協医科大学 看護学部 看護学科への関心分析

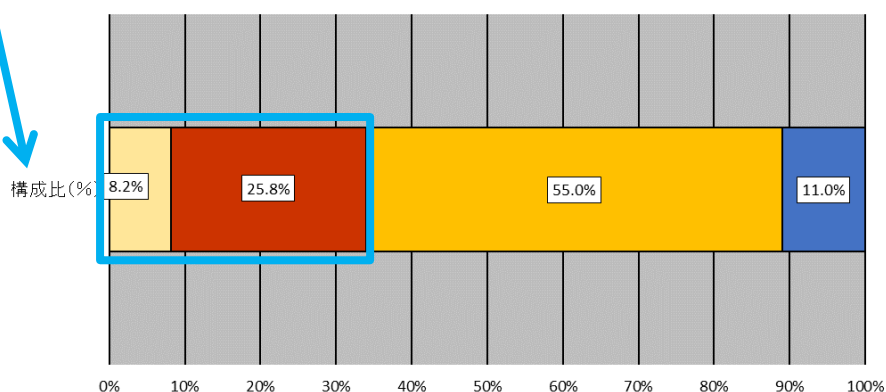
○看護学部 看護学科の関心層

獨協医科大学 看護学部 看護学科への関心を分析するため、次のとおり「関心層」を定義する。Q8)において、「合格した場合、入学したいと思う」、「合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う」を選択した合計 3,967 人(34.0%)を「関心層」と定義し、次項より「関心層」の傾向を分析する。

Q8) 獨協医科大学 看護学部 看護学科を受験して合格したら、入学したいと思いますか。

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	11,663	100.0%
合格した場合、入学したいと思う	958	8.2%
合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う	3,009	25.8%
入学しない	6,413	55.0%
無回答・無効回答	1,283	11.0%

関心層



■合格した場合、入学したいと思う ■合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う ■入学しない ■無回答・無効回答

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*次頁以降の集計は、各設問から未回答・無効回答を除いて集計

Q1) 性別×Q8) 看護学部 看護学科への進学意向

関心層の性別は、「男性」が1,339人(33.8%)、「女性」が2,551人(64.3%)で、「女性」が6割以上となっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と性別で「女性」を選択した層に相関性がみられる。

Q1) 性別と Q8) 看護学部 看護学科への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q1)性別	全体平均		合格した場合、 入学したいと思う		合格した場合、 併願大学の 結果によっては 入学したいと思 う		関心層		d i f	入学しない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率
調査数	10,372	100.0%	958	100.0%	3,008	100.0%	3,966	100.0%		6,406	100.0%
男性	4,380	42.2%	281	29.3%	1,058	35.2%	1,339	33.8%	-8.5%	3,041	47.5%
女性	5,750	55.4%	654	68.3%	1,897	63.1%	2,551	64.3%	8.9%	3,199	49.9%
未回答	242	2.3%	23	2.4%	53	1.8%	76	1.9%	-0.4%	166	2.6%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q2) 居住地域×Q8) 看護学部 看護学科への進学意向

関心層の居住地域は、「栃木県」2,314人(58.5%)が最も多く6割近くとなっており、「茨城県」671人(17.0%)、「群馬県」428人(10.8%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と居住地域で「栃木県」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q2) 居住地域と Q8) 看護学部 看護学科への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q2) 居住地域	全体平均		合格した場合、 入学したいと思う		合格した場合、 併願大学の 結果によっては 入学したいと思う		関心層		d i f	入学しない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率
調査数	10,348	100.0%	955	100.0%	3,003	100.0%	3,958	100.0%		6,390	100.0%
栃木県	5,617	54.3%	647	67.7%	1,667	55.5%	2,314	58.5%	4.2%	3,303	51.7%
群馬県	1,125	10.9%	69	7.2%	359	12.0%	428	10.8%	-0.1%	697	10.9%
埼玉県	1,183	11.4%	67	7.0%	316	10.5%	383	9.7%	-1.8%	800	12.5%
茨城県	1,891	18.3%	147	15.4%	524	17.4%	671	17.0%	-1.3%	1,220	19.1%
東京都	130	1.3%	7	0.7%	26	0.9%	33	0.8%	-0.4%	97	1.5%
千葉県	249	2.4%	8	0.8%	69	2.3%	77	1.9%	-0.5%	172	2.7%
その他	153	1.5%	10	1.0%	42	1.4%	52	1.3%	-0.2%	101	1.6%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q3) 高校卒業後の進路×Q8) 看護学部 看護学科への進学意向

関心層の高校卒業後の進路は、「大学への進学」3,305人(83.7%)が最も多く、次いで「専門学校への進学」448人(11.4%)、「短期大学への進学」89人(2.3%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と高校卒業後の進路で「短期大学への進学」と「専門学校への進学」を選択した層にわずかに相関性がみられる。

Q3) 高校卒業後の進路と Q8) 看護学部 看護学科への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q3) 高校卒業後の進路	全体平均		合格した場合、入学したいと思う		合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う		関心層		d i f	入学しない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		人数	比率
調査数	10,345	100.0%	955	100.0%	2,992	100.0%	3,947	100.0%		6,398	100.0%
大学への進学	8,710	84.2%	684	71.6%	2,621	87.6%	3,305	83.7%	-0.5%	5,405	84.5%
短期大学への進学	217	2.1%	34	3.6%	55	1.8%	89	2.3%	0.2%	128	2.0%
専門学校への進学	1,096	10.6%	189	19.8%	259	8.7%	448	11.4%	0.8%	648	10.1%
就職	62	0.6%	8	0.8%	4	0.1%	12	0.3%	-0.3%	50	0.8%
その他	21	0.2%	5	0.5%	2	0.1%	7	0.2%	0.0%	14	0.2%
決めていない	239	2.3%	35	3.7%	51	1.7%	86	2.2%	-0.1%	153	2.4%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q4) 進学希望分野(第1希望)×Q8) 看護学部 看護学科への進学意向

関心層の進学希望分野(第1希望)は、「看護学」838人(21.6%)が最も多く、「理学・工学」558人(14.4%)、「医学・歯学・薬学・獣医学」362人(9.3%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と進学希望分野(第1希望)で「看護学」を選択した層に高い相関性がみられ、「医療技術(リハビリ・臨床検査など)」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q4) 進学希望分野(第1希望)とQ8) 看護学部 看護学科への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q4) 進学希望分野 (第1希望)	全体平均		合格した場合、入学したいと思う		合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う		関心層		d i f	入学しない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率
調査数	10,129	100.0%	923	100.0%	2,960	100.0%	3,883	100.0%		6,246	100.0%
看護学	1,004	9.9%	322	34.9%	516	17.4%	838	21.6%	11.7%	166	2.7%
医療技術(リハビリ・臨床検査など)	646	6.4%	79	8.6%	247	8.3%	326	8.4%	2.0%	320	5.1%
医学・歯学・薬学・獣医学	879	8.7%	56	6.1%	306	10.3%	362	9.3%	0.6%	517	8.3%
文学・史学・哲学	420	4.1%	23	2.5%	113	3.8%	136	3.5%	-0.6%	284	4.5%
語学関係(外国語・言語学)	423	4.2%	28	3.0%	96	3.2%	124	3.2%	-1.0%	299	4.8%
教育学(幼児教育を含む)・保育学	886	8.7%	75	8.1%	258	8.7%	333	8.6%	-0.2%	553	8.9%
心理学	304	3.0%	22	2.4%	102	3.4%	124	3.2%	0.2%	180	2.9%
法学・政治学	403	4.0%	14	1.5%	81	2.7%	95	2.4%	-1.5%	308	4.9%
経済学・経営学・商学	962	9.5%	62	6.7%	218	7.4%	280	7.2%	-2.3%	682	10.9%
社会学・福祉学	279	2.8%	20	2.2%	76	2.6%	96	2.5%	-0.3%	183	2.9%
理学・工学	1,920	19.0%	75	8.1%	483	16.3%	558	14.4%	-4.6%	1,362	21.8%
農学・水産学	321	3.2%	15	1.6%	114	3.9%	129	3.3%	0.2%	192	3.1%
食物学・栄養学・家政学関係(被服・住居)	329	3.2%	26	2.8%	84	2.8%	110	2.8%	-0.4%	219	3.5%
体育学・健康科学	376	3.7%	31	3.4%	68	2.3%	99	2.5%	-1.2%	277	4.4%
芸術学	298	2.9%	20	2.2%	67	2.3%	87	2.2%	-0.7%	211	3.4%
その他	679	6.7%	55	6.0%	131	4.4%	186	4.8%	-1.9%	493	7.9%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q4) 進学希望分野(第2希望)×Q8) 看護学部 看護学科への進学意向

関心層の進学希望分野(第2希望)は、「医療技術(リハビリ・臨床検査など)」657人(17.2%)が最も多く、「教育学(幼児教育を含む)・保育学」350人(9.2%)、「看護学」332人(8.7%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と進学希望分野(第2希望)で「医療技術(リハビリ・臨床検査など)」を選択した層に相関性がみられ、「看護学」と「医学・歯学・薬学・獣医学」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q4) 進学希望分野(第2希望)とQ8) 看護学部 看護学科への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q4)進学希望分野(第2希望)	全体平均		合格した場合、入学したいと思う		合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う		関心層		dif	入学しない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		人数	比率
調査数	9,926	100.0%	895	100.0%	2,918	100.0%	3,813	100.0%		6,113	100.0%
看護学	475	4.8%	86	9.6%	246	8.4%	332	8.7%	3.9%	143	2.3%
医療技術(リハビリ・臨床検査など)	1,041	10.5%	199	22.2%	458	15.7%	657	17.2%	6.7%	384	6.3%
医学・歯学・薬学・獣医学	661	6.7%	77	8.6%	239	8.2%	316	8.3%	1.6%	345	5.6%
文学・史学・哲学	540	5.4%	31	3.5%	126	4.3%	157	4.1%	-1.3%	383	6.3%
語学関係(外国語・言語学)	446	4.5%	35	3.9%	120	4.1%	155	4.1%	-0.4%	291	4.8%
教育学(幼児教育を含む)・保育学	847	8.5%	99	11.1%	251	8.6%	350	9.2%	0.6%	497	8.1%
心理学	694	7.0%	45	5.0%	214	7.3%	259	6.8%	-0.2%	435	7.1%
法学・政治学	465	4.7%	32	3.6%	115	3.9%	147	3.9%	-0.8%	318	5.2%
経済学・経営学・商学	948	9.6%	55	6.1%	207	7.1%	262	6.9%	-2.7%	686	11.2%
社会学・福祉学	432	4.4%	19	2.1%	124	4.2%	143	3.8%	-0.6%	289	4.7%
理学・工学	747	7.5%	32	3.6%	207	7.1%	239	6.3%	-1.3%	508	8.3%
農学・水産学	498	5.0%	24	2.7%	145	5.0%	169	4.4%	-0.6%	329	5.4%
食物学・栄養学・家政学関係(被服・住居)	398	4.0%	32	3.6%	118	4.0%	150	3.9%	-0.1%	248	4.1%
体育学・健康科学	499	5.0%	36	4.0%	132	4.5%	168	4.4%	-0.6%	331	5.4%
芸術学	399	4.0%	38	4.2%	83	2.8%	121	3.2%	-0.8%	278	4.5%
その他	836	8.4%	55	6.1%	133	4.6%	188	4.9%	-3.5%	648	10.6%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q5) 取得したい資格×Q8) 看護学部 看護学科への進学意向

*** Q5) 複数選択可 (2 つまで)**

関心層の取得したい資格は、「看護師」1,978人(37.1%)が最も多く、「保健師」1,060人(19.9%)、「養護教諭」933人(17.5%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と取得したい資格で「看護師」と選択した層に相関性がみられ、「助産師」と選択した層にやや相関性がみられる。

Q5) 取得したい資格と Q8) 看護学部 看護学科への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q5) 取得したい資格	全体平均		合格した場合、 入学したいと思う		合格した場合、 併願大学の 結果によっては 入学したいと思う		関心層		d i f	入学しない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率
調査数	11,222	100.0%	1,363	100.0%	3,963	100.0%	5,326	100.0%		5,896	100.0%
看護師	3,125	27.8%	577	42.3%	1,401	35.4%	1,978	37.1%	9.3%	1,147	19.5%
保健師	2,139	19.1%	246	18.0%	814	20.5%	1,060	19.9%	0.8%	1,079	18.3%
助産師	997	8.9%	184	13.5%	430	10.9%	614	11.5%	2.6%	383	6.5%
養護教諭	1,965	17.5%	221	16.2%	712	18.0%	933	17.5%	0.0%	1,032	17.5%
その他	2,996	26.7%	135	9.9%	606	15.3%	741	13.9%	-12.8%	2,255	38.2%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q6) 進学先決定時の重視要因×Q8) 看護学部 看護学科への進学意向

*** Q6) 複数選択可 (2 つまで)**

関心層の進学先決定時の重視要因は、「学科、コース等の学びの分野」2,048人(27.2%)が最も多く、「技術・資格の取得」1,377人(18.3%)、「学費(入学金・授業料)」828人(11.0%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と進学先決定時の重視要因で「技術・資格の取得」「学費(入学金・授業料)」を選択した層にやや相関性がみられる。

Q6) 進学先決定時の重視要因と Q8) 看護学部 看護学科への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q6) 進学先決定時の重視要因	全体平均		合格した場合、 入学したいと思う		合格した場合、 併願大学の 結果によっては 入学したいと思う		関心層		d i f	入学しない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		人数	比率
調査数	19,369	100.0%	1,769	100.0%	5,753	100.0%	7,522	100.0%		11,847	100.0%
学科、コース等の学びの分野	5,706	29.5%	457	25.8%	1,591	27.7%	2,048	27.2%	-2.2%	3,658	30.9%
技術・資格の取得	3,101	16.0%	352	19.9%	1,025	17.8%	1,377	18.3%	2.3%	1,724	14.6%
就職実績	2,033	10.5%	197	11.1%	619	10.8%	816	10.8%	0.4%	1,217	10.3%
校舎・施設の充実	1,301	6.7%	116	6.6%	351	6.1%	467	6.2%	-0.5%	834	7.0%
設置形態(国公立・私立)	858	4.4%	39	2.2%	252	4.4%	291	3.9%	-0.6%	567	4.8%
学費(入学金・授業料)	1,834	9.5%	212	12.0%	616	10.7%	828	11.0%	1.5%	1,006	8.5%
奨学金制度の有無	380	2.0%	58	3.3%	105	1.8%	163	2.2%	0.2%	217	1.8%
学校の伝統・知名度	468	2.4%	25	1.4%	125	2.2%	150	2.0%	-0.4%	318	2.7%
入試の難易度・入試科目	1,669	8.6%	160	9.0%	512	8.9%	672	8.9%	0.3%	997	8.4%
担任や進路指導の先生の意見	113	0.6%	14	0.8%	35	0.6%	49	0.7%	0.1%	64	0.5%
家族の意見	399	2.1%	38	2.1%	110	1.9%	148	2.0%	-0.1%	251	2.1%
アクセス・立地	1,386	7.2%	95	5.4%	397	6.9%	492	6.5%	-0.6%	894	7.5%
その他	121	0.6%	6	0.3%	15	0.3%	21	0.3%	-0.3%	100	0.8%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q7) 看護学部 看護学科の受験意向×Q8) 看護学部 看護学科への進学意向

関心層の看護学部 看護学科への受験意向では、「受験したい」が1,019人(25.8%)、「受験したくない」は2,935人(74.2%)となっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と看護学部 看護学科への受験意向で「受験したい」を選択した層に非常に高い相関性がみられる。

Q7) 看護学部 看護学科の受験意向とQ8) 看護学部 看護学科への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q7) 受験意向	全体平均		合格した場合、 入学したいと思う		合格した場合、 併願大学の 結果によっては 入学したいと思 う		関心層		d i f	入学しない	
	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率	調査数	比率		調査数	比率
調査数	10,363	100.0%	956	100.0%	2,998	100.0%	3,954	100.0%		6,409	100.0%
受験したい	1,053	10.2%	400	41.8%	619	20.6%	1,019	25.8%	15.6%	34	0.5%
受験したくない	9,310	89.8%	556	58.2%	2,379	79.4%	2,935	74.2%	-15.6%	6,375	99.5%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

5. 進学需要分析

Q4)で進学希望分野(第1希望)として「看護学」を選択している層が合計1,037人で、このうち、Q7)で「受験したい」と回答し、かつ、Q8)で「合格した場合、入学したいと思う」と回答した人数は231人となっている。さらに、231人のうち179人は「Q3)卒業後の進路」として「大学への進学」を選択していることから、179人が獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学層となる。

以上から、**獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学需要は179人で、入学定員145人の1.2倍となる。**

Q4) 進学希望分野 (第1希望)	Q7) 受験意向	Q8) 進学意向	人数
看護学 (1,037人)	受験したい (559人)	合格した場合、入学したいと思う	231
		合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う	316
		計	547

Q8) 進学意向	Q3) 卒業後の進路	人数
合格した場合、入学したいと思う	大学への進学	179
合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う	大学への進学	270
	計	449
合格した場合、入学したいと思う	専門学校への進学	46
合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う	専門学校への進学	37
	計	83

さらに、Q4)で進学希望分野(第2希望)として「看護学」を選択している層(第1希望で「看護学」を選択している層は除く)が合計475人で、このうち、Q7)で「受験したい」と回答し、かつ、Q8)で「合格した場合、入学したいと思う」と回答した人数は34人となっている。さらに、34人のうち26人は「Q3)卒業後の進路」として「大学への進学」を選択していることから、26人も獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学層となる可能性があると考えられ、**獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学需要は179人+26人=205人で、入学定員145人の1.4倍となる。**

以上のことから、獨協医科大学 看護学部 看護学科への進学需要があるといえる。

(次ページへ続く)

Q4) 進学希望分野 (第2希望)	Q7) 受験意向	Q8) 進学意向	人数
看護学 (475人)	受験したい (117人)	合格した場合、入学したいと思う	34
		合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う	80
		計	114

Q8) 進学意向	Q3) 卒業後の進路	人数
合格した場合、入学したいと思う	大学への進学	26
合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う	大学への進学	71
	計	97
合格した場合、入学したいと思う	専門学校への進学	6
合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う	専門学校への進学	3
	計	9

6. 補記

アンケート説明文 1/4

獨協医科大学 看護学部

2024年4月 収容定員増予定



自らキャリアをデザインする



獨協医科大学
Dokkyo Medical University

* 定員等の記載内容は現時点での計画であり変更することがあります。



■ 獨協医科大学看護学部について

獨協医科大学は2023年（令和5年）に開学50周年を迎え、看護学部では、開学15年の節目を超え、17年目へと歩みを進めています。その歩みの中で、多くの卒業生は栃木県内の保健医療福祉関係機関に就業し、看護師として、また、保健師として、人々の健康課題の解決に貢献する看護専門職者として活躍しています。看護学部では、更なる発展に向け、2024年（令和6年）に収容定員増を予定しています。従来の看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格に加え、助産師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状が取得可能となる多様なコースを設置する予定です。

■ 入学定員・収容定員（予定）

獨協医科大学		入学定員 (予定)	収容定員 (予定)
看護学部	看護学科	145人	600人
	看護学科 3年次編入学	10人	



■ 学部・学科の特色

1. 自律した看護専門職者の基盤となる自己教育力を高める。
2. 看護の対象である「人々」、「地域社会」および「暮らし」や「看護」について授業や早期からの実習を通じて理解する。
3. 大学病院をはじめとする医療施設、保健福祉施設、教育施設等の多様な現場での臨地実習を通じて、「人々」、「地域社会」、「暮らし」、「看護」を学修・実践し、看護実践力を身に付ける。
4. 医学部との合同授業や充実した実習教育を通じてプロフェッショナリズムを醸成する。
5. ダブルライセンスの取得が可能であり、看護専門職者としての自らのキャリアをデザインする。



■ 養成する人材像

獨協医科大学看護学部では、社会から信頼され、人々の健康課題の解決並びに保健医療福祉の質の向上に貢献していくために、自己教育力を基盤とし、看護実践力を高めながら看護専門職としてのプロフェッショナリズムを醸成し続けられる自律した看護専門職者を養成します。

◆◆◆ 取得可能な資格 ◆◆◆

看護師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格

助産師国家試験受験資格

養護教諭一種

■ 卒業後の活躍フィールド

【看護師】 >>> 病院、保健施設など

【保健師】 >>> 地方自治体、企業など

【助産師】 >>> 病院、助産所など

【養護教諭】 >>> 小・中・高等学校など



アンケート説明文 4/4

■ 学納金について

- 初年度学納金(想定) -

学部・学科	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	初年度納付金	4年間の合計
看護学部 看護学科	145名	¥500,000,-	¥850,000,-	¥500,000,-	¥1,850,000,-	¥5,900,000,-

- 類似する近隣の看護系大学の納付金等 -

大学名	学部・学科名	所在地	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	初年度納付金	4年間の合計
足利大学	看護学部 看護学科	栃木県	80	270,000	1,460,000	0	1,730,000	6,110,000
国際医療福祉大学	保健医療学部 看護学科	栃木県	115	300,000	900,000	410,000 610,000	1,610,000	6,140,000
自治医科大学	看護学部 看護学科	栃木県	105	500,000	850,000	500,000	1,850,000	5,900,000
茨城キリスト教大学	看護学部 看護学科	茨城県	80	250,000	1,000,000	640,000	1,870,000	6,750,000
つくば国際大学	保健医療学部 看護学科	茨城県	80	300,000	900,000	650,000	1,850,000	6,500,000
常磐大学	看護学部 看護学科	茨城県	80	250,000	950,000	570,000	1,770,000	6,330,000
桐生大学	医療保健学部 看護学科	群馬県	80	250,000	1,000,000	500,000	1,750,000	6,250,000
群馬医療福祉大学	看護学部 看護学科	群馬県	80	300,000	960,000	400,000	1,660,000	5,740,000
群馬パース大学	看護学部 看護学科	群馬県	80	250,000	1,600,000 1,600,000	0	1,750,000	6,550,000
上武大学	看護学部 看護学科	群馬県	100	200,000	1,100,000	480,000	1,780,000	6,820,000
高崎健康福祉大学	保健医療学部 看護学科	群馬県	100	280,000	900,000	500,000	1,680,000	5,880,000

※ 各大学の情報については、大学ポータルサイト(私学版)、ホームページ等より転載しています。

※ 授業料・施設設備費等が2段で記載されている大学は、2年目以降の金額です。

※ 獨協医科大学看護学部看護学科の学納金は検討中で変更する可能性があります。

※ 諸会費等を含んでいない大学もありますので、詳細は当該大学のホームページをご確認ください。

■ アクセス

栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地

● 電車を利用する場合

【東武鉄道を利用】

・東武宇都宮線「おもちゃのまち」駅下車、西口より徒歩約15分
 (「獨協医大病院前」行きバスにて約3分)

【JRを利用】

- ・JR「宇都宮」駅より、市内バスにて「東武宇都宮」駅下車(約10分)
 「東武宇都宮」駅より東武宇都宮線にて「おもちゃのまち」駅下車、
 西口より徒歩約15分(「獨協医大病院前」行きバスにて約3分)
- ・JR「宇都宮」駅よりタクシーにて約35分
- ・JR「小山」駅よりタクシーにて約45分
- ・JR「石橋」駅よりタクシーにて約15分

● お車を利用する場合

- ・東北自動車道から栃木都賀JCT経由
 北関東自動車道「壬生IC」から約2分
- ・東北自動車道「栃木IC」から約30分
- ・東北自動車道「鹿沼IC」から約30分



■ お問い合わせ

獨協医科大学 看護学部事務室

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880

TEL : 0282-87-2489

FAX : 0282-86-1846

e-mail : kangogakubu@dokkyomed.ac.jp

URL : https://www.dokkyomed.ac.jp



公式サイト

獨協医科大学

検索

アンケート調査票 2/2

【質問5】あなたが取得したいと思う資格を次の中から2つまで選び○をつけてください。

- | | | |
|--------|----------|-------|
| 1 看護師 | 2 保健師 | 3 助産師 |
| 4 養護教諭 | 5 その他() | |

【質問6】あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか。次の中から2つまで選び○をつけてください。

- | | | |
|------------------|----------------|---------------|
| 1 学科、コース等の学びの分野 | 2 技術・資格の取得 | 3 就職実績 |
| 4 校舎・施設の充実 | 5 設置形態(国公立・私立) | 6 学費(入学金・授業料) |
| 7 奨学金制度の有無 | 8 学校の伝統・知名度 | 9 入試の難易度・入試科目 |
| 10 担任や進路指導の先生の意見 | 11 家族の意見 | 12 アクセス・立地 |
| 13 その他() | | |

次の【質問7】以降は、別紙リーフレットをご覧ください、ご記入ください。

獨協医科大学 看護学部 看護学科について

【質問7】獨協医科大学 看護学部 看護学科を受験したいと思いますか。次の中から1つ選び○をつけてください。

- | | |
|---------|-----------|
| 1 受験したい | 2 受験したくない |
|---------|-----------|

【質問8】獨協医科大学 看護学部 看護学科を受験して合格したら、入学したいと思いますか。次の中から1つ選び○をつけてください。

- | |
|-------------------------------|
| 1 合格した場合、入学したいと思う |
| 2 合格した場合、併願大学の結果によっては入学したいと思う |
| 3 入学しない |

【質問9】獨協医科大学 看護学部 看護学科に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

獨協医科大学 看護学部事務室

北関東の看護系大学志願倍率（2022年度入試）

区分	県	大学名	学部学科名	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率	志願倍率
私立	栃木	獨協医科大学	看護学部	95	456	456	164	100	105.3%	4.80
私立	栃木	自治医科大学	看護学部	105	324	322	150	105	100.0%	3.09
私立	栃木	国際医療福祉大学	保健医療学部看護学科	115	606	586	203	119	103.5%	5.27
私立	栃木	足利大学	看護学部看護学科	80	217	204	181	88	110.0%	2.71
国立	茨城	筑波大学	医学部看護学類	65	148	143	77	65	100.0%	2.28
公立	茨城	茨城県立医療大学	保健医療学部看護学科	50	215	166	58	51	102.0%	4.30
私立	茨城	茨城キリスト教大学	看護学部看護学科	80	204	197	159	85	106.3%	2.55
私立	茨城	つくば国際大学	医療保健学部看護学科	80	112	107	83	83	103.8%	1.40
私立	茨城	常磐大学	看護学部看護学科	80	260	249	152	81	101.3%	3.25
国立	群馬	群馬大学	医学部保健学科看護学専攻	80	254	166	89	80	100.0%	3.18
公立	群馬	群馬県立県民健康科学大学	看護学部看護学科	80	153	150	83	82	102.5%	1.91
私立	群馬	高崎健康福祉大学	保健医療学部看護学科	100	655	638	236	102	102.0%	6.55
私立	群馬	群馬バース大学	看護学部看護学科	80	非公開	429	189	87	108.8%	—
私立	群馬	群馬医療福祉大学	看護学部看護学科	80	206	199	122	86	107.5%	2.58
私立	群馬	桐生大学	医療保健学部看護学科	80	179	175	113	87	108.8%	2.24
私立	群馬	上武大学	看護学部看護学科	100	215	211	197	81	81.0%	2.15
合計				1,350	—	4,398		平均	102.7%	3.22

※各大学の情報については、旺文社パスナビ、各大学のホームページより転載

■東北の減少率が高く、6県中4県で減少率20%以上 沖縄・東京・福岡の3県のみ増加する見込み

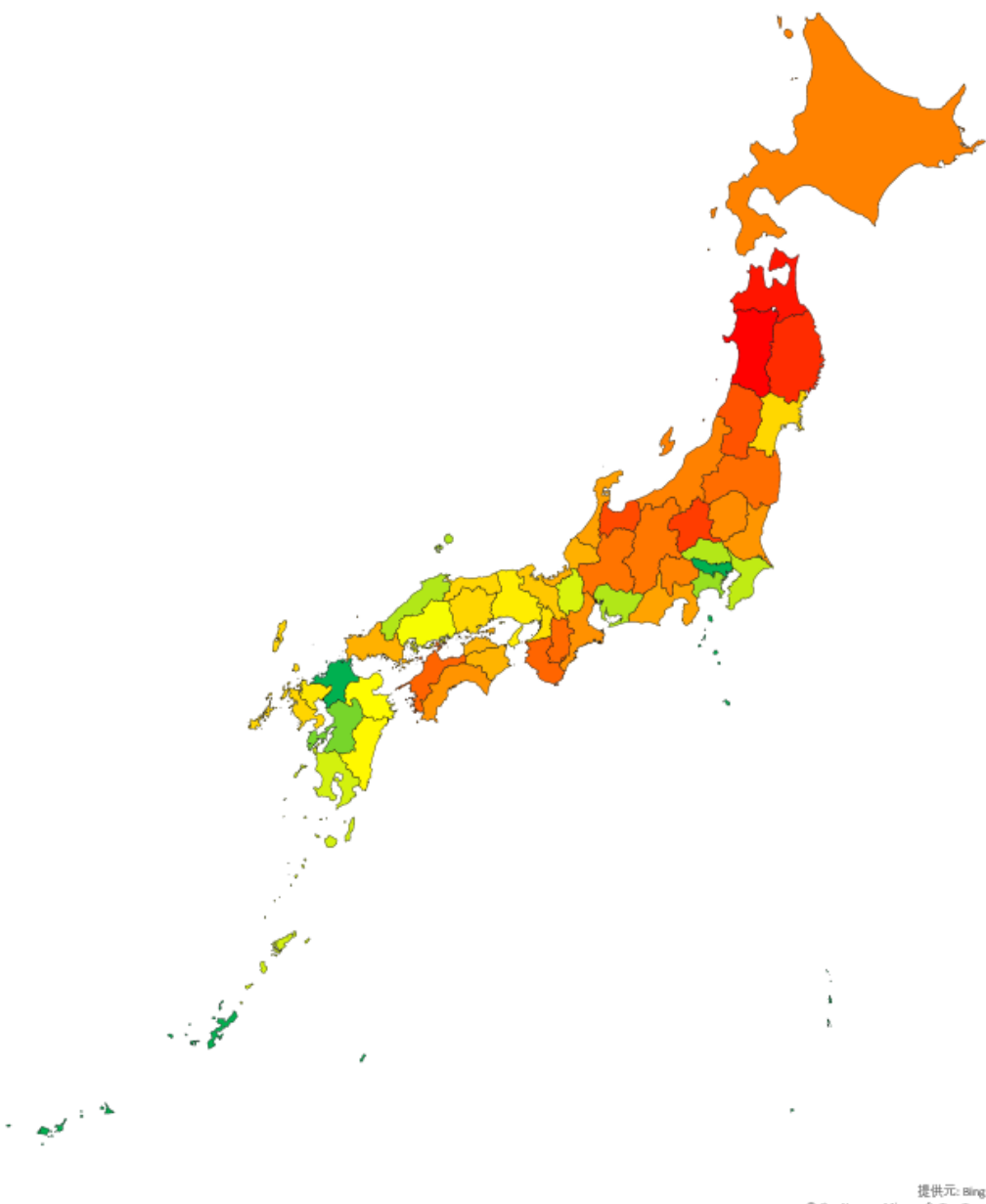
出典：18歳人口予測
(リクルート進学総研マーケットレポート2022)抜粋

https://souken.shingakunet.com/research/pdf/202302_souken_report.pdf

■都道府県別 18歳人口減少率（2022年－2034年）

全国	▲10.3
-20.0以下	
秋田	▲24.9
青森	▲23.7
岩手	▲22.4
群馬	▲21.4
富山	▲20.6
山形	▲20.1
-15.0以下	
愛媛	▲19.1
和歌山	▲19.1
奈良	▲18.8
福島	▲18.6
岐阜	▲18.2
長野	▲18.0
新潟	▲17.4
山梨	▲17.4
北海道	▲17.3
栃木	▲16.8
三重	▲16.5
高知	▲16.3
茨城	▲16.2
石川	▲15.5
静岡	▲15.4
-10.0以下	
福井	▲14.7
香川	▲14.6
山口	▲14.6
徳島	▲14.4
京都	▲13.3
長崎	▲12.5
鳥取	▲12.5
岡山	▲12.4
宮城	▲12.4
大阪	▲11.8
佐賀	▲11.3
兵庫	▲11.1
宮崎	▲10.4
大分	▲10.1
- 5.0以下	
広島	▲ 9.7
滋賀	▲ 8.5
鹿児島	▲ 8.3
千葉	▲ 7.5
埼玉	▲ 7.0
島根	▲ 7.0
愛知	▲ 6.9
神奈川	▲ 5.9
0.0以下	
熊本	▲ 4.6
0.0超	
福岡	0.2
東京	2.6
沖縄	5.3

減少率
▲25.0 ▲10.0 0.0



提供元: Bing
© GeoNames, Microsoft, TomTom

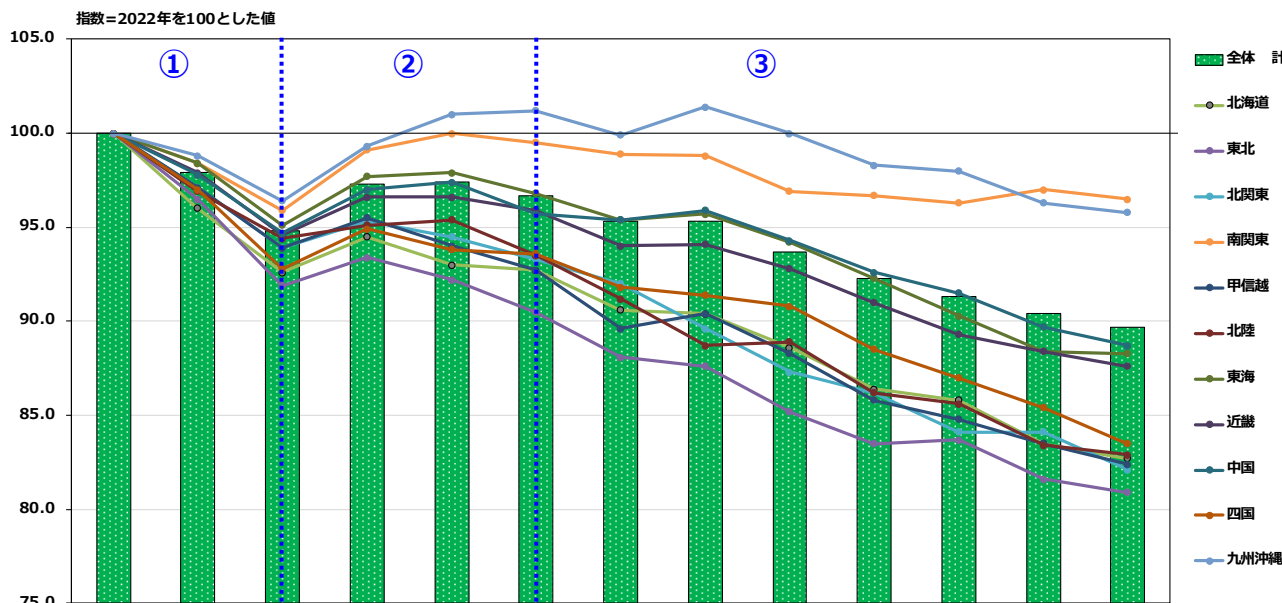
18歳人口予測（全体：エリア別：2022～2034年）

■ 減少率が高いのは東北（2022年比80.9%）、減少数が大きいのは近畿（22,958人減）

- ・ 減少率が高いのは、1位 東北（2022年比80.9%）、2位 北関東（82.1%）、3位 甲信越（82.4%）。
- ・ 減少数が大きいのは、1位 近畿（22,958人減）、2位 東海（16,427人減）、3位 東北（14,899人減）。
- ・ 減少率が低いのは、1位 南関東（96.5%）、2位 九州沖縄（95.8%）、3位 中国（88.7%）。
- ・ エリア別の18歳人口は、以下の3段階を経て減少する。

- ① 2022～2024年：全国では約6万人減少、エリアも含め減少傾向になる時期
- ② 2024～2027年：全国で約3万人増加、人口が回復し、横ばいが続く時期
- ③ 2027～2034年：回復後さらに減少する時期

注) 減少率 = 2034年人数 ÷ 2022年人数で算出。



		2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年
全体 計	人数	1,121,285	1,097,416	1,063,451	1,090,562	1,092,647	1,084,271	1,068,477	1,068,876	1,050,143	1,034,714	1,023,592	1,013,581	1,005,782
	指数	100.0	97.9	94.8	97.3	97.4	96.7	95.3	95.3	93.7	92.3	91.3	90.4	89.7
北海道	人数	44,276	42,489	41,008	41,857	41,166	41,045	40,121	40,037	39,230	38,255	37,984	36,989	36,601
	指数	100.0	96.0	92.6	94.5	93.0	92.7	90.6	90.4	88.6	86.4	85.8	83.5	82.7
東北	人数	78,146	75,379	71,820	73,013	72,013	70,749	68,816	68,461	66,576	65,266	65,444	63,794	63,247
	指数	100.0	96.5	91.9	93.4	92.2	90.5	88.1	87.6	85.2	83.5	83.7	81.6	80.9
北関東	人数	63,720	61,863	59,826	60,700	60,209	59,436	58,597	57,094	55,597	54,919	53,598	53,611	52,331
	指数	100.0	97.1	93.9	95.3	94.5	93.3	92.0	89.6	87.3	86.2	84.1	84.1	82.1
南関東	人数	299,356	294,497	287,188	296,737	299,307	297,845	296,090	295,868	290,004	289,532	288,232	290,267	288,970
	指数	100.0	98.4	95.9	99.1	100.0	99.5	98.9	98.8	96.9	96.7	96.3	97.0	96.5
甲信越	人数	46,907	45,536	44,069	44,788	44,075	43,470	42,033	42,422	41,416	40,263	39,768	39,150	38,628
	指数	100.0	97.1	93.9	95.5	94.0	92.7	89.6	90.4	88.3	85.8	84.8	83.5	82.4
北陸	人数	27,545	26,692	26,002	26,197	26,268	25,761	25,131	24,428	24,501	23,757	23,588	22,974	22,842
	指数	100.0	96.9	94.4	95.1	95.4	93.5	91.2	88.7	88.9	86.2	85.6	83.4	82.9
東海	人数	140,510	138,309	133,555	137,302	137,529	136,069	134,013	134,491	132,337	129,727	126,930	124,204	124,083
	指数	100.0	98.4	95.1	97.7	97.9	96.8	95.4	95.7	94.2	92.3	90.3	88.4	88.3
近畿	人数	185,626	181,639	175,609	179,388	179,313	178,046	174,431	174,633	172,217	168,955	165,722	164,183	162,668
	指数	100.0	97.9	94.6	96.6	96.6	95.9	94.0	94.1	92.8	91.0	89.3	88.4	87.6
中国	人数	66,821	65,318	63,279	64,828	65,075	63,981	63,747	64,054	62,988	61,849	61,110	59,931	59,298
	指数	100.0	97.8	94.7	97.0	97.4	95.7	95.4	95.9	94.3	92.6	91.5	89.7	88.7
四国	人数	33,841	32,825	31,419	32,132	31,757	31,685	31,073	30,944	30,731	29,957	29,437	28,906	28,242
	指数	100.0	97.0	92.8	94.9	93.8	93.6	91.8	91.4	90.8	88.5	87.0	85.4	83.5
九州沖縄	人数	134,537	132,869	129,676	133,620	135,935	136,184	134,425	136,444	134,546	132,234	131,779	129,572	128,872
	指数	100.0	98.8	96.3	99.7	101.1	101.1	99.9	100.0	99.8	98.3	98.0	96.3	95.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

獨協医科大学看護学部 入学試験志願者等の推移と入学定員充足率（過去5年間）

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	歩留率	合格率	定員充足率
H31(2019)	90	625	616	212	94	6.94	44.3%	34.4%	104.4%
		417	408	192		4.63	49.0%	47.1%	
R2(2020)	90	561	554	202	101	6.23	50.0%	36.5%	112.2%
		381	374	182		4.23	55.5%	48.7%	
R3(2021)	95	490	484	207	100	5.16	48.3%	42.8%	105.3%
		332	326	189		3.49	52.9%	58.0%	
R4(2022)	95	456	456	164	100	4.80	61.0%	36.0%	105.3%
		319	319	159		3.36	62.9%	49.8%	
R5(2023)	95	380	375	170	95	4.00	55.9%	45.3%	100.0%
		267	263	147		2.81	64.6%	55.9%	
過去5年平均	—	525.80	520.80	194.40	98	5.43	50.4%	37.3%	105.4%
		343.20	338.00	173.80		3.71	56.4%	51.4%	

※下段は実人数

令和5年4月12日

人口推計

2022年(令和4年)10月1日現在

— ポイント —

【全国人口】

**総人口は55万6千人の減少、12年連続の減少
日本人人口は減少幅が11年連続で拡大**

- 総人口は1億2494万7千人で、前年に比べ55万6千人（-0.44%）の減少となり、12年連続で減少しています。
- 日本人人口は1億2203万1千人で、前年に比べ75万人（-0.61%）の減少となり、11年連続で減少幅が拡大しています。
(結果の概要 1～2 ページ)

16年連続の自然減少、減少幅は拡大

- 自然増減は73万1千人の減少で、16年連続の自然減少となり、減少幅は拡大しています。
- 男女別にみると、男性は37万1千人の減少、女性は35万9千人の減少となり、男性は18年連続、女性は14年連続の自然減少となっています。
(結果の概要 2～3 ページ)

日本人は2年連続の社会減少、外国人は2年ぶりの社会増加

- 社会増減は17万5千人の増加で、2年ぶりの増加となっています。
- 日本人・外国人の別にみると、日本人は1万6千人の減少で、2年連続の社会減少となっています。外国人は19万1千人の増加で、2年ぶりの社会増加となっています。
(結果の概要 2～3 ページ)

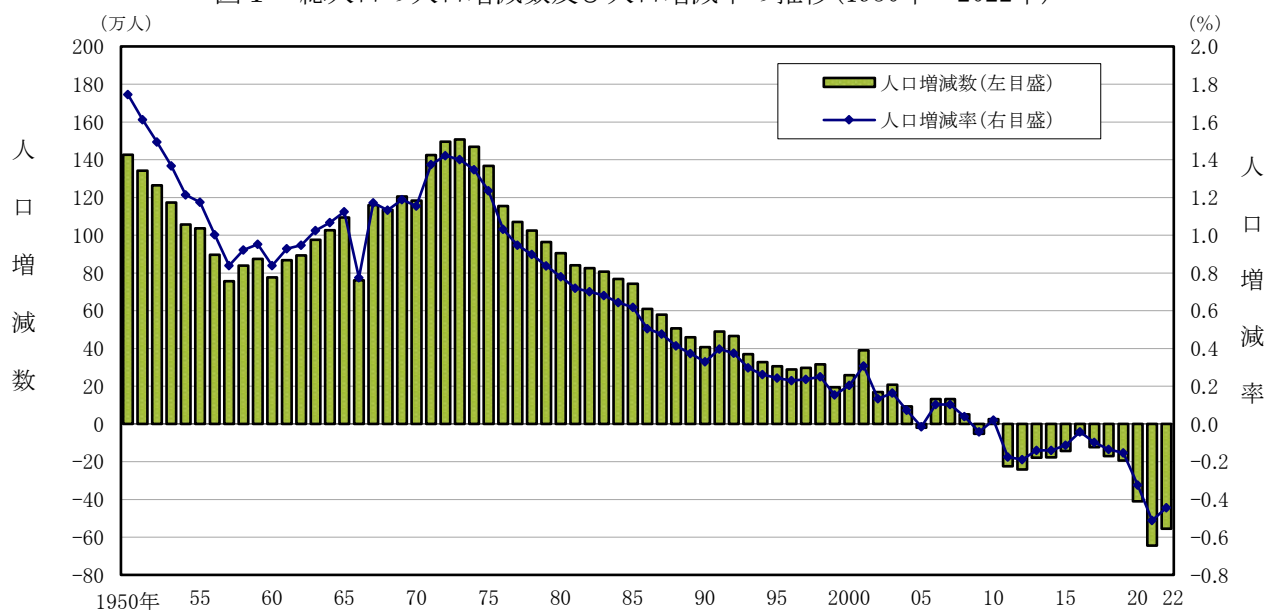
表1 男女別総人口の推移（2005年～2022年）

(単位 千人)

年次	総人口							男				女					
	10月1日 現在人口	純増減 ¹⁾ 増減数	増減率 ²⁾ (%)	自然増減	社会増減	日本人	外国人	10月1日 現在人口	純増減 ¹⁾ 増減数	増減率 ²⁾ (%)	自然増減	社会増減	10月1日 現在人口	純増減 ¹⁾ 増減数	増減率 ²⁾ (%)	自然増減	社会増減
2005年	127,768 ³⁾	-19	-0.01	9	-53	-103	50	62,349 ³⁾	-31	-0.05	-25	-28	65,419 ³⁾	12	0.02	34	-25
2006	127,901	133	0.10	1	1	-60	61	62,387	38	0.06	-26	7	65,514	95	0.14	27	-6
2007	128,033	132	0.10	-2	4	-75	79	62,424	37	0.06	-25	6	65,608	95	0.14	23	-2
2008	128,084	51	0.04	-35	-45	-110	65	62,422	-2	-0.00	-41	-18	65,662	53	0.08	6	-27
2009	128,032	-52	-0.04	-59	-124	-77	-47	62,358	-64	-0.10	-55	-67	65,674	12	0.02	-5	-57
2010	128,057 ³⁾	26	0.02	-105	0	4	-4	62,328 ³⁾	-30	-0.05	-74	-13	65,730 ³⁾	56	0.09	-31	13
2011	127,834	-223	-0.17	-183	-79	-28	-51	62,207	-120	-0.19	-108	-37	65,627	-103	-0.16	-75	-42
2012	127,593	-242	-0.19	-201	-79	-23	-56	62,080	-128	-0.21	-116	-37	65,513	-114	-0.17	-85	-42
2013	127,414	-179	-0.14	-232	14	-23	37	61,985	-95	-0.15	-129	9	65,429	-84	-0.13	-103	5
2014	127,237	-177	-0.14	-252	36	-23	60	61,901	-84	-0.14	-136	27	65,336	-93	-0.14	-115	9
2015	127,095 ³⁾	-142	-0.11	-275	94	-1	95	61,842 ³⁾	-59	-0.10	-147	63	65,253 ³⁾	-83	-0.13	-128	31
2016	127,042	-53	-0.04	-296	134	-2	136	61,816	-26	-0.04	-156	79	65,226	-27	-0.04	-140	54
2017	126,919	-123	-0.10	-377	151	4	147	61,753	-63	-0.10	-197	87	65,165	-61	-0.09	-180	64
2018	126,749	-170	-0.13	-425	161	-3	165	61,673	-81	-0.13	-220	97	65,076	-89	-0.14	-205	65
2019	126,555	-193	-0.15	-485	209	1	208	61,588	-85	-0.14	-249	127	64,967	-109	-0.17	-237	82
2020	126,146 ³⁾	-409	-0.32	-501	42	21	21	61,350 ³⁾	-238	-0.39	-259	2	64,797 ³⁾	-171	-0.26	-242	40
2021	125,502	-644	-0.51	-609	-35	-7	-28	61,019	-331	-0.54	-314	-16	64,483	-313	-0.48	-294	-19
2022	124,947	-556	-0.44	-731	175	-16	191	60,758	-261	-0.43	-371	110	64,189	-294	-0.46	-359	65

注1) 前年10月から当年9月までの増減数。2020年までの増減数には補間補正数(国勢調査人口を基に算出した人口推計と、その次の国勢調査人口との差を各年に配分して算出したもの)を含む。このため、純増減は自然増減と社会増減の計とは一致しない。
2) 前年10月から当年9月までの増減数を前年人口(期間初めの人口=期首人口)で除したもの
3) 国勢調査人口

図1 総人口の人口増減数及び人口増減率の推移(1950年～2022年)



注) 人口増減率は、前年10月から当年9月までの人口増減数を前年人口(期首人口)で除したもの

**15歳未満人口は前年に比べ28万2千人の減少
総人口に占める割合は11.6%で、前年に比べ0.2ポイント低下**

- 15歳未満人口は1450万3千人で、前年に比べ28万2千人の減少となり、割合は0.2ポイント低下の11.6%で過去最低となっています。
 - 15～64歳人口は7420万8千人で、前年に比べ29万6千人の減少となり、割合は59.4%で過去最低であった前年と同率となっています。
 - 65歳以上人口は3623万6千人で、前年に比べ2万2千人の増加となり、割合は0.1ポイント上昇の29.0%で過去最高となっています。
 - 75歳以上人口は1936万4千人で、前年に比べ69万1千人の増加となり、割合は0.6ポイント上昇の15.5%で過去最高となっています。
- (結果の概要 4～5ページ)

図2 我が国の人口ピラミッド（2022年10月1日現在）

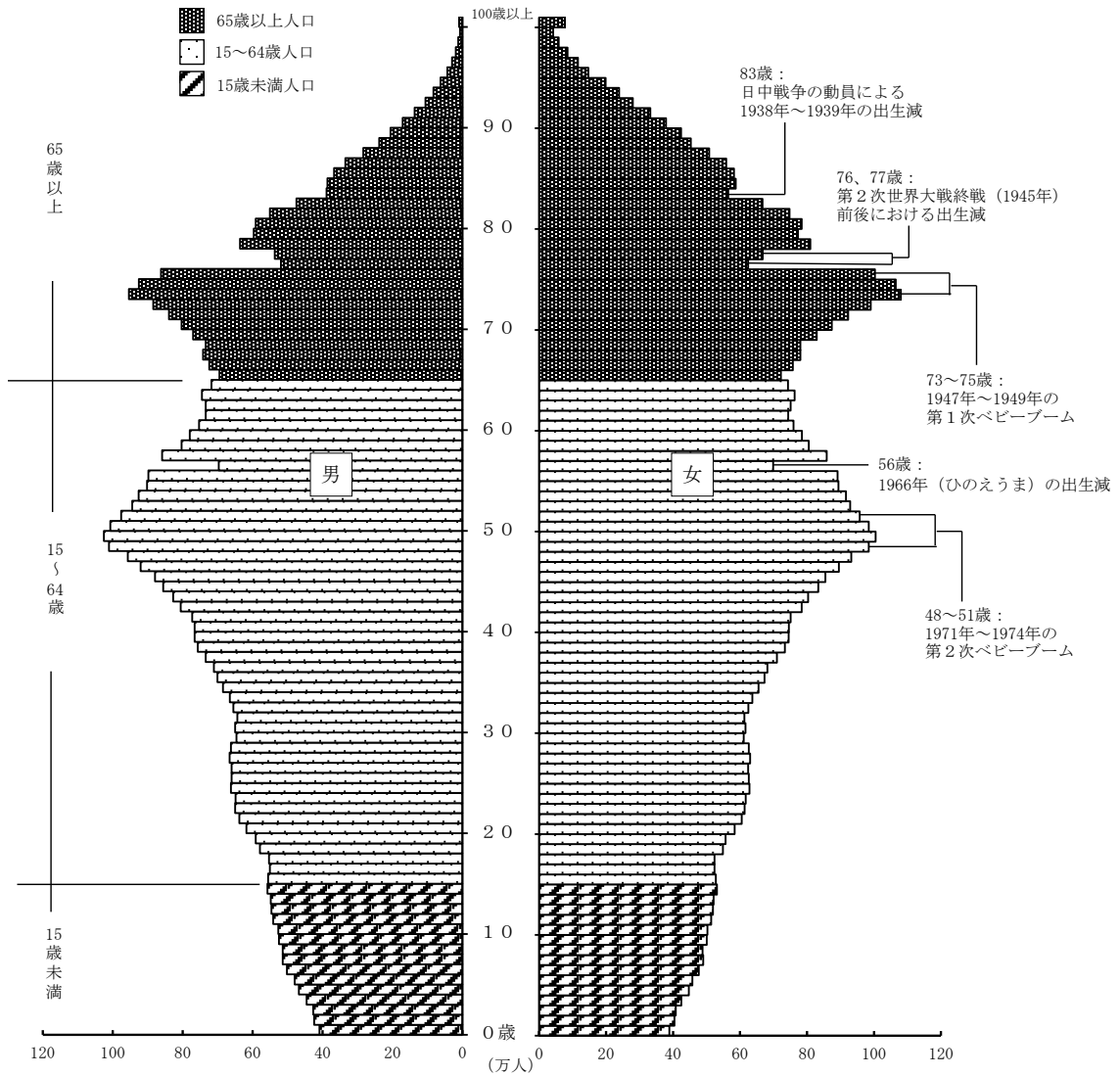
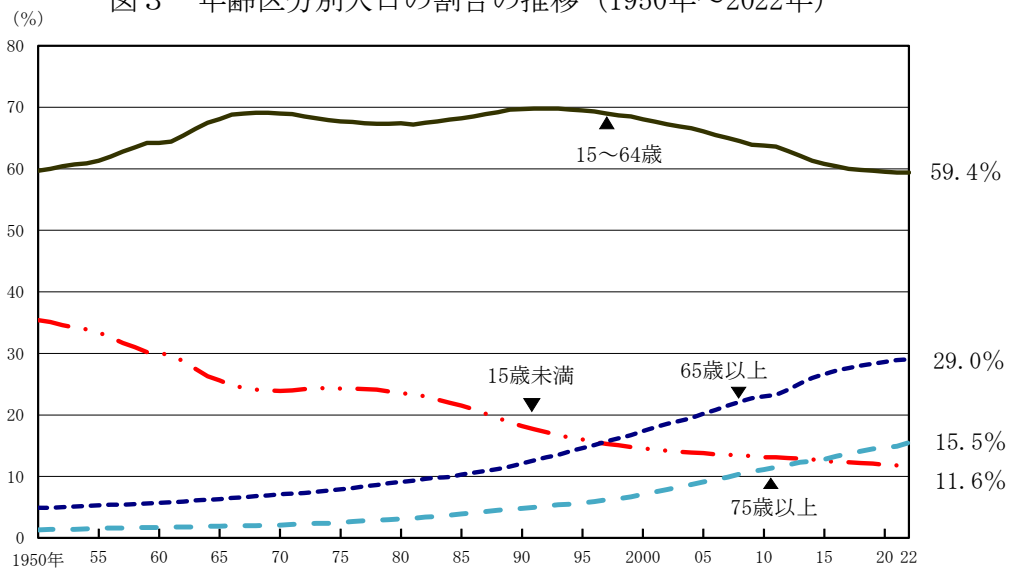


図3 年齢区分別人口の割合の推移（1950年～2022年）



獨協医科大学 看護学部 看護学科
収容定員増に係るニーズ調査報告書（事業所編）

2023年2月

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

目次

1. 調査概要	2
2. 調査・分析結果の要旨	3
3. 全体集計結果	5
4. 獨協医科大学 看護学部 看護学科への関心分析	15
5. 採用需要分析	22
6. 補記	23

1. 調査概要

(1) 調査目的

獨協医科大学 看護学部 看護学科収容定員増計画検討のため、本アンケート調査により事業所の人材需要等を把握し、定員増員計画の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査対象

獨協医科大学 看護学部 看護学科の卒業生の実績等を参考に選定した企業・事業所。

(3) 実施時期

2022年12月19日～2023年1月10日

(4) 回収状況

本調査では222事業所を対象にアンケート調査票を配布し、102件のアンケートを回収することができた。(回収率45.9%)

(5) 調査方法

調査票による定量調査。(アンケート調査)

(6) 利用調査票

添付アンケート調査票参照。

2. 調査・分析結果の要旨

(1) 調査結果の要旨

①事業所の種別

回答事業所の種別は、「病院、診療所」65事業所(63.7%)が最も多く、次に「地方自治体」26事業所(25.5%)、「介護老人保健(福祉)施設」5事業所(4.9%)と続いている。

②事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「栃木県」が81事業所(79.4%)と最も多く8割近くとなっており、次いで「群馬県」「埼玉県」「茨城県」「その他」がそれぞれ4事業所(3.9%)となっている。

③事業所の規模

回答事業所の規模は、「100～499人」51事業所(50.0%)が最も多く、「500～999人」16事業所(15.7%)、「1000～4999人」15事業所(14.7%)と続いている。

④過去3年間の採用人数

回答事業所の過去3年間の採用人数は、2020年度が82事業所2,845人、2021年度が85事業所2,792人、2022年度が85事業所2,925人で、2021年度は採用人数が若干減少したものの2022年度には増加に転じており、また、毎年2,700人を超える採用があることから、安定的に採用がある状況であることがわかる。

⑤過去3年間の採用人材充足状況

過去3年間の採用人材充足状況は、「不足している」が39事業所(38.2%)、「やや不足している」が25事業所(24.5%)で、これらの合計は64事業所(62.7%)で6割以上となっている。

一方、「ある程度充足している」は26事業所(25.5%)、「充足している」は10事業所(9.8%)で、これらの合計は36事業所(35.3%)となっている。

⑥人材採用時の重視点

回答事業所の人材採用時の重視点は、「コミュニケーション能力」83事業所(40.9%)が最も多く、「チームで働く力」49事業所(24.1%)、「課題発見・課題解決能力」28事業所(13.8%)と続いている。

⑦獨協医科大学 看護学部 看護学科収容定員増の必要性

獨協医科大学 看護学部 看護学科収容定員増の必要性について、「必要性を感じる」が45事業所(44.1%)と最も多く、次いで「ある程度の必要性を感じる」が36事業所(35.3%)となっており、これらの合計が81事業所(79.4%)と、8割近くの事業所が収容定員増について何ら

かの必要性を感じている。

一方、「あまり必要性を感じない」は1事業所(1.0%)のみで、「必要性を感じない」と回答した事業所はなかった。そのほか、「わからない」と回答した事業所は20事業所(19.6%)となっている。

⑧-1 獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向

獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向について、「採用したいと思う」が51事業所(50.0%)、「採用を検討したいと思う」が21事業所(20.6%)で、何らかの採用意向を持つこれらの合計が72事業所(70.6%)で7割以上となっている。

一方、「採用を希望しない」は7事業所(6.9%)、「わからない」は22事業所(21.6%)、1事業所(1.0%)は未回答・無効回答となっている。

⑧-2 獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向人数

獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向人数は、「2人」が16事業所(22.2%)と最も多く、「5人」が13事業所(18.1%)、「1人」と「3人」がそれぞれ7事業所(9.7%)と続いており、「採用したいと思う」及び「採用を検討したいと思う」と回答した層の採用希望人数は合計で186人となっている。

(2) 分析結果の要旨

回答事業所の獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向は、「採用したいと思う」が51事業所(内17事業所は人数未回答)155人、「採用を検討したいと思う」が21事業所(内7事業所は人数未回答)31人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで186人となっている。実際に採用に至るか否かについては就職希望者個人の人格や能力が大きく影響すると思われるが、「採用したいと思う」に加えて、「採用を検討したいと思う」までを採用需要として定義し、上記採用意向で希望人数の記載がなかった事業所の採用意向人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、調査結果に基づく獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の採用需要は「採用したいと思う」のみで172人、「採用を検討したいと思う」まで含めると210人で、「採用したいと思う」が獨協医科大学 看護学部 看護学科の増員後の入学定員(145人)の1.2倍、「採用を検討したいと思う」まで含めると1.4倍となり、獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生に対する一定の採用需要があるといえる (P. 22)。

また、関心層の過去3年間の採用人数は2020年度2,617人、2021年度2,560人、2022年度2,692人となっており2020年度から2021年度にかけては採用人数がわずかに減少したものの、2022年度には増加に転じており、獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生に対する安定的な採用需要があることが窺われる (P. 22)。

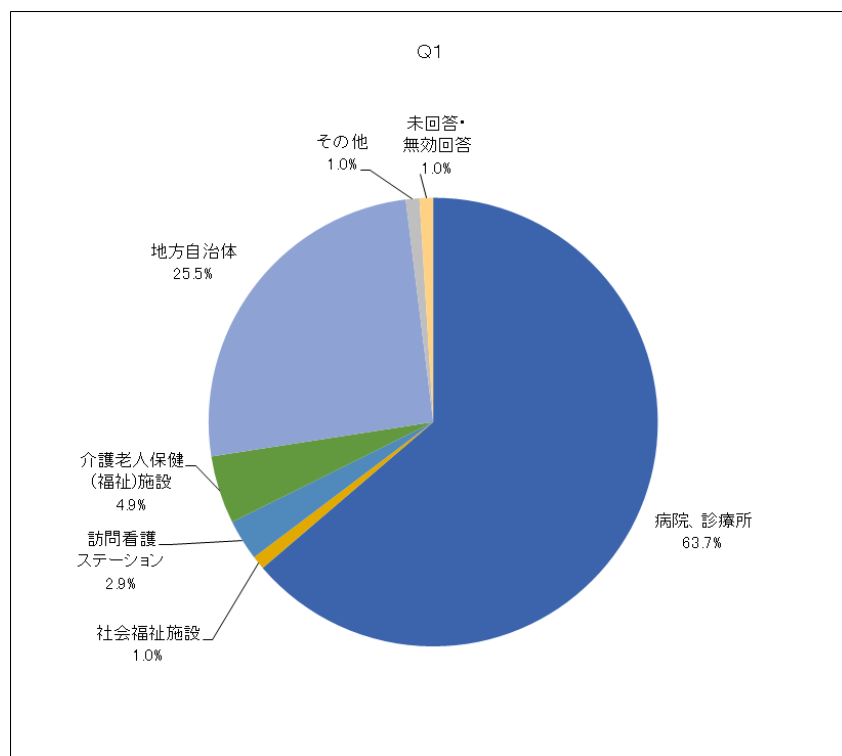
3. 全体集計結果

Q1) 事業所の種別

回答事業所の種別は、「病院、診療所」65 事業所 (63.7%) が最も多く、次に「地方自治体」26 事業所 (25.5%)、「介護老人保健(福祉)施設」5 事業所 (4.9%) と続いている。

Q1) 貴事業所の主たる種別は次のどれですか。

Q 1	回答数 (事業所)	構成比 (%)
全体	102	100.0%
病院、診療所	65	63.7%
保健所	0	0.0%
助産所	0	0.0%
社会福祉施設	1	1.0%
訪問看護ステーション	3	2.9%
介護老人保健(福祉)施設	5	4.9%
地方自治体	26	25.5%
一般企業	0	0.0%
その他	1	1.0%
未回答・無効回答	1	1.0%



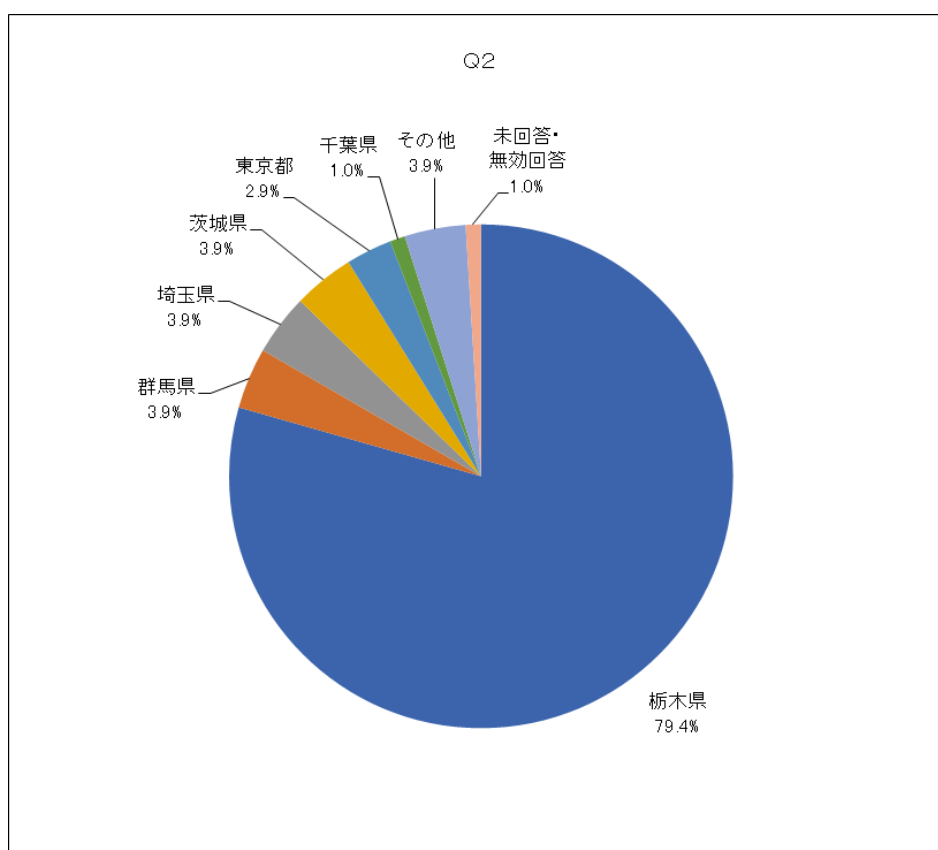
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q2) 事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「栃木県」が81事業所(79.4%)と最も多く8割近くとなっており、次いで「群馬県」「埼玉県」「茨城県」「その他」がそれぞれ4事業所(3.9%)となっている。

Q2) 貴事業所の主たる所在地をお教えてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	102	100.0%
栃木県	81	79.4%
群馬県	4	3.9%
埼玉県	4	3.9%
茨城県	4	3.9%
東京都	3	2.9%
千葉県	1	1.0%
その他	4	3.9%
未回答・無効回答	1	1.0%



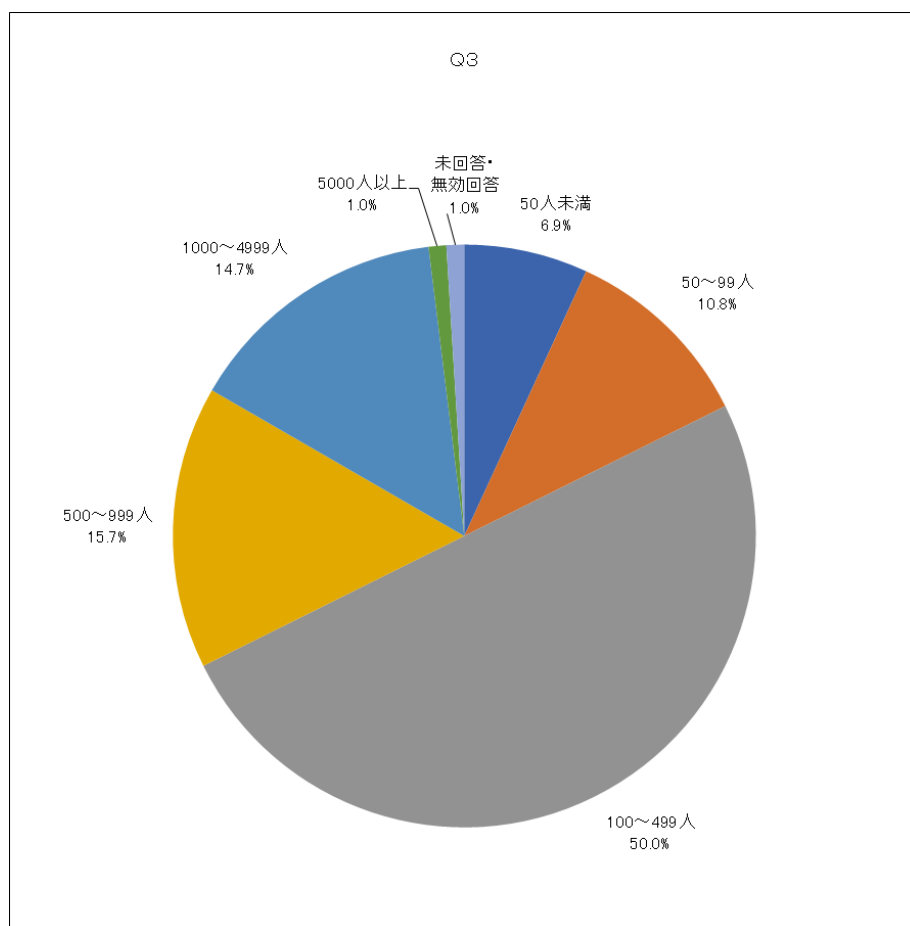
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q3) 事業所の規模

回答事業所の規模は、「100～499人」51事業所(50.0%)が最も多く、「500～999人」16事業所(15.7%)、「1000～4999人」15事業所(14.7%)と続いている。

Q3) 貴事業所の従業員数（正規職員）について、該当するものを1つ選び○をつけてください。

	回答数（事業所）	構成比（%）
全体	102	100.0%
50人未満	7	6.9%
50～99人	11	10.8%
100～499人	51	50.0%
500～999人	16	15.7%
1000～4999人	15	14.7%
5000人以上	1	1.0%
未回答・無効回答	1	1.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q4) 過去3年間の採用人数

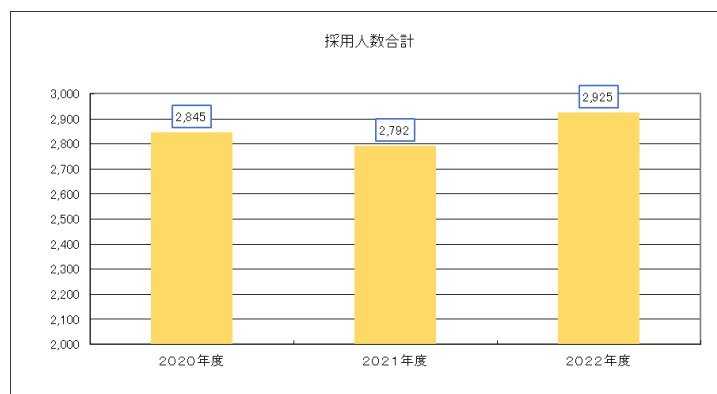
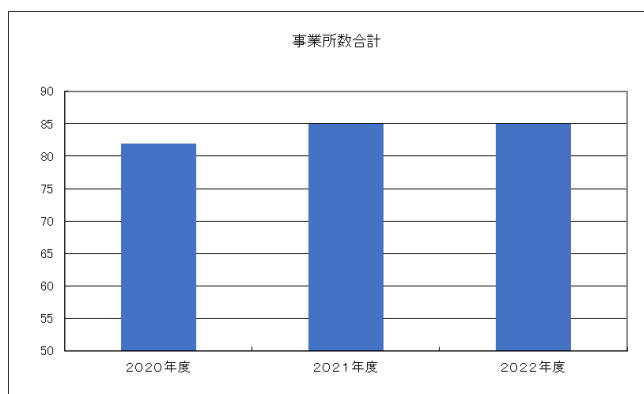
回答事業所の過去3年間の採用人数は、2020年度が82事業所2,845人、2021年度が85事業所2,792人、2022年度が85事業所2,925人で、2021年度は採用人数が若干減少したものの2022年度には増加に転じており、また、毎年2,700人を超える採用があることから、安定的に採用がある状況であることがわかる。

Q4) 貴事業所では、過去3年間で次の職種を何人採用されましたか。

該当する欄に採用人数をご記入ください。*詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

年度別採用数(事業所・人)

職種	2020年度		2021年度		2022年度	
	事業所数(事業所)	採用人数(人)	事業所数(事業所)	採用人数(人)	事業所数(事業所)	採用人数(人)
看護師	68	2,698	70	2,621	68	2,737
保健師	15	40	18	56	21	53
助産師	11	107	11	115	11	135
合計	82	2,845	85	2,792	85	2,925



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

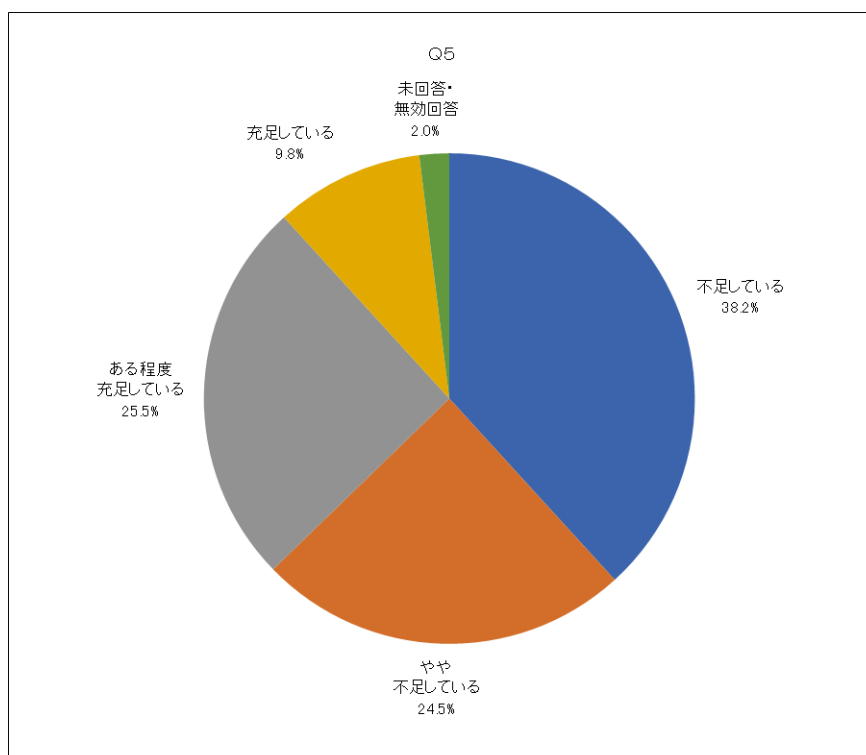
Q5) 過去3年間の採用人材充足状況

過去3年間の採用人材充足状況は、「不足している」が39事業所(38.2%)、「やや不足している」が25事業所(24.5%)で、これらの合計は64事業所(62.7%)で6割以上となっている。

一方、「ある程度充足している」は26事業所(25.5%)、「充足している」は10事業所(9.8%)で、これらの合計は36事業所(35.3%)となっている。

Q5) 貴事業所では、質問4で回答された過去3年間で採用された職種の充足状況についてどのようにお考えですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	102	100.0%
不足している	39	38.2%
やや不足している	25	24.5%
ある程度充足している	26	25.5%
充足している	10	9.8%
わからない	0	0.0%
未回答・無効回答	2	2.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

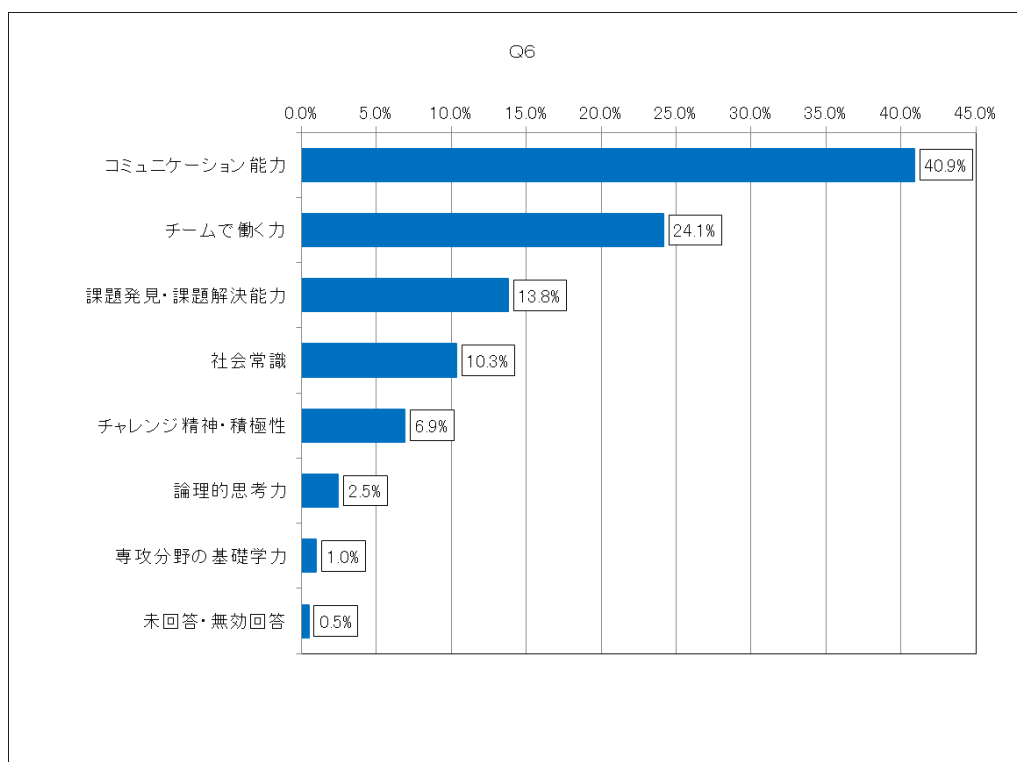
Q6) 人材採用時の重視点 *複数選択可(2つまで)

回答事業所の人材採用時の重視点は、「コミュニケーション能力」83 事業所(40.9%)が最も多く、「チームで働く力」49 事業所(24.1%)、「課題発見・課題解決能力」28 事業所(13.8%)と続いている。

Q6) 貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか。

次の中から2つまで選び、○をつけてください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	203	100.0%
コミュニケーション能力	83	40.9%
語学力	0	0.0%
課題発見・課題解決能力	28	13.8%
チームで働く力	49	24.1%
チャレンジ精神・積極性	14	6.9%
国際感覚(広い視野・価値観)	0	0.0%
論理的思考力	5	2.5%
専攻分野の基礎学力	2	1.0%
社会常識	21	10.3%
その他	0	0.0%
未回答・無効回答	1	0.5%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

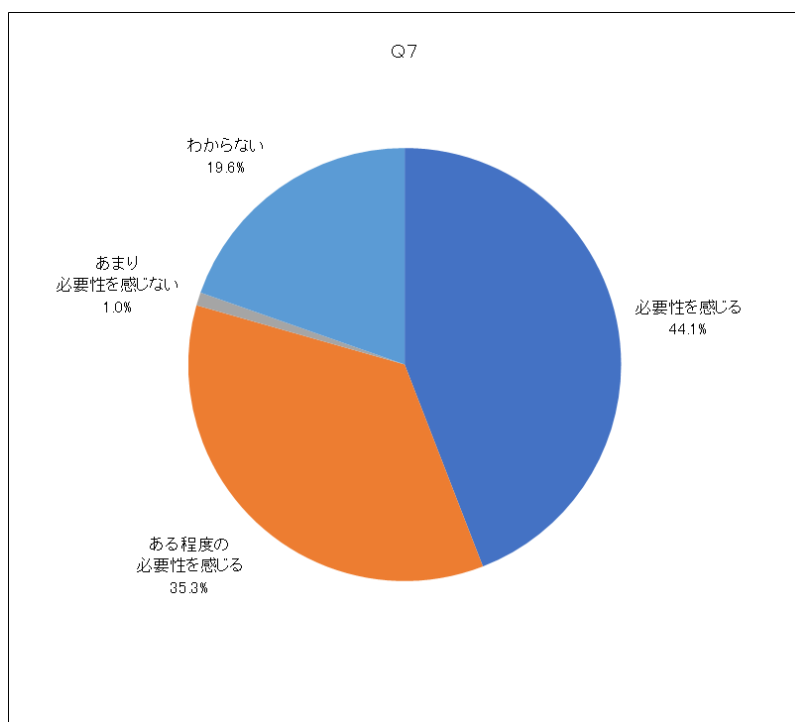
Q7) 獨協医科大学 看護学部 看護学科収容定員増の必要性

獨協医科大学 看護学部 看護学科収容定員増の必要性について、「必要性を感じる」が 45 事業所 (44.1%) と最も多く、次いで「ある程度の必要性を感じる」が 36 事業所 (35.3%) となっており、これらの合計が 81 事業所 (79.4%) と、8 割近くの事業所が収容定員増について何らかの必要性を感じている。

一方、「あまり必要性を感じない」は 1 事業所 (1.0%) のみで、「必要性を感じない」と回答した事業所はなかった。そのほか、「わからない」と回答した事業所は 20 事業所 (19.6%) となっている。

Q7) 獨協医科大学 看護学部 看護学科の収容定員増計画についての程度必要性を感じますか。

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	102	100.0%
必要性を感じる	45	44.1%
ある程度の必要性を感じる	36	35.3%
あまり必要性を感じない	1	1.0%
必要性を感じない	0	0.0%
わからない	20	19.6%
未回答・無効回答	0	0.0%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

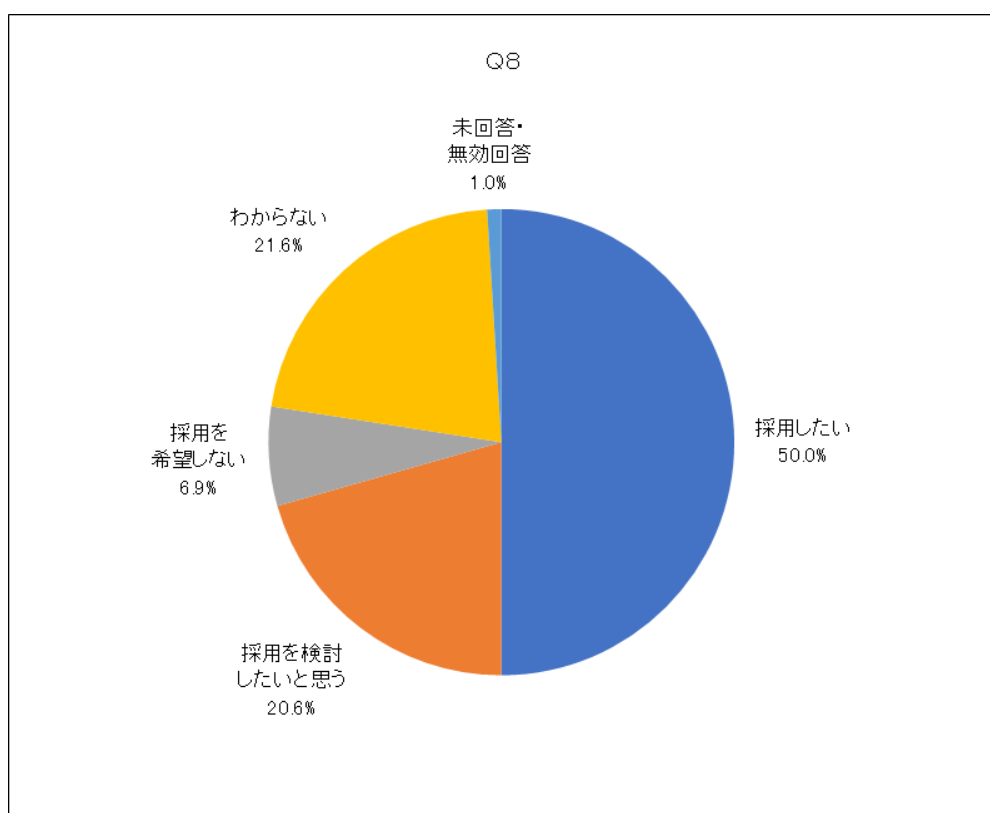
Q8)-1 獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向

獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向について、「採用したいと思う」が 51 事業所 (50.0%)、「採用を検討したいと思う」が 21 事業所 (20.6%) で、何らかの採用意向を持つこれらの合計が 72 事業所 (70.6%) で 7 割以上となっている。

一方、「採用を希望しない」は 7 事業所 (6.9%)、「わからない」は 22 事業所 (21.6%)、1 事業所 (1.0%) は未回答・無効回答となっている。

Q8) 獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用についてどのようにお考えですか。

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	102	100.0%
採用したいと思う	51	50.0%
採用を検討したいと思う	21	20.6%
採用を希望しない	7	6.9%
わからない	22	21.6%
未回答・無効回答	1	1.0%



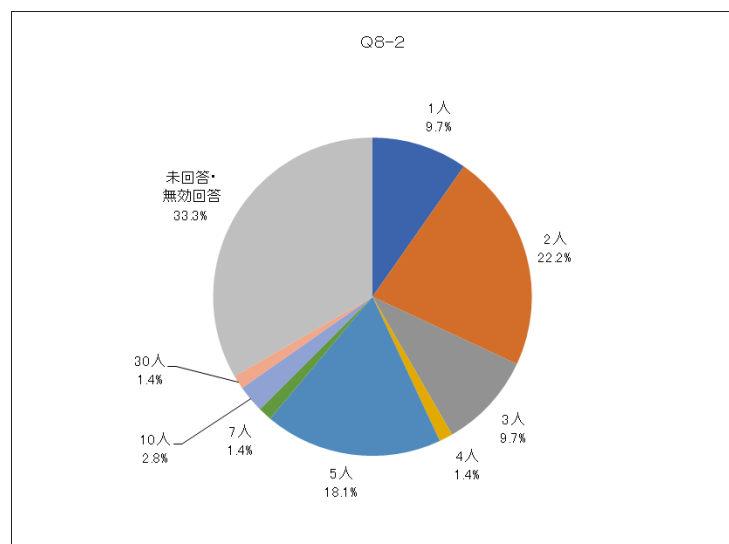
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)-2 獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向人数

獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向人数は、「2人」が16事業所(22.2%)と最も多く、「5人」が13事業所(18.1%)、「1人」と「3人」がそれぞれ7事業所(9.7%)と続いており、「採用したいと思う」及び「採用を検討したいと思う」と回答した層の採用希望人数は合計で186人となっている。

Q8) 獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用についてどのようにお考えですか。「採用したいと思う」「採用を検討したいと思う」と回答した事業所のみ人数をご回答ください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	72	100.0%
1人	7	9.7%
2人	16	22.2%
3人	7	9.7%
4人	1	1.4%
5人	13	18.1%
7人	1	1.4%
10人	2	2.8%
30人	1	1.4%
未回答・無効回答	24	33.3%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したいと思う	51事業所→計155人	内、17事業所→人数未回答
採用を検討したいと思う	21事業所→計31人	内、7事業所→人数未回答
合計	186人	

Q9) 獨協医科大学 看護学部 看護学科への意見・要望

Q9) 獨協医科大学 看護学部 看護学科に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

回答	コメント分類
高齢分野へも就職希望される学生を増やしてほしい。	教育内容
在宅医療についての教育を深めていただきたい。例：在宅医療、訪問看護に更に興味をもてるような授業カリキュラム（高齢化率が上昇、職員の高齢化等あり、今後の地域医療体制が脆弱化しないか不安である）	教育内容
社会人基礎力を養って頂きたい。	教育内容
人間的成長：社会常識をわきまえた「人」として看護師として育ててほしい。序々に学力+実践を知る、素直に考え、受け入れ学び育ててほしい。	教育内容
優秀な人材を輩出されることを祈っております。最近是一般常識に欠ける人も多いので、その点身についた看護師さんが増えるといいです。	教育内容
臨地実習もあり他職種や幅広い年齢の患者さんとも接するため社会人としての心構えやマナーを学生生活においても学んでいただきたいと思います。	教育内容
ストレス耐性のある看護師の育成をお願いしたいと感じております	教育内容
就職・病院説明会等への参加を希望する臨地実習受け入れ等依頼があれば検討致します。	協力
貴学の学生をご紹介いただけたら幸いです。	採用関連
是非、本町の採用試験に応募していただきたいです。	採用関連
卒業生の職員も数名在籍しており活躍しております。	採用関連
当面の間、看護師の採用予定はありません。	採用関連
保健衛生行政の需要に応じて、保健師を採用することとしていることから、募集した際には多くの方に受験していただけるよう御協力を頂きたい。	採用関連
保健師については、今後も年1人程度採用予定です。	採用関連
本市では保健師が不足しており、採用も募集しているものの応募が少ない状況です。有資格者の積極採用を進めたい本市にとっては、貴大学で資格を取得した人材は魅力的であります。	採用関連
本市採用試験を実施する際には貴学にご案内させていただきますので学内でご周知いただけますと幸いです。	採用関連
問8で「わからない」と回答しているのは、予算で動く団体ですので、定期的に採用できるか否か、状況により大きく変化いたします。タイミングが合えば貴学の学生を雇用したいと考えます。卒業生も身近におり頑張っているところですので、ぜひタイミングが合えばと思います。	採用関連
看護師不足の解消に御尽力されている事に感謝申し上げます。	感想
急性期病院志向の学生が減少傾向にありますので、育成に期待いたします。	感想
県北地区に所在の病院で中途採用がメインのため、採用への直接の影響はないと思いますが、採用における看護師の人材不足は常に感じております。	感想
新卒者だけでなく、学び直しの場を提供して頂けると地域の看護力の向上につながると考えます。	感想
地方の医療法人の医療施設では新卒看護師の確保に苦労しております。学生や新人看護師にとって魅力ある医療機関、看護部になれるように整備していきたいと思っております。貴大学で養成する人材像は素晴らしく、期待いたします。	感想
保健医療分野で活躍される人材育成に貢献されることを期待しています。	感想

4. 獨協医科大学 看護学部 看護学科への関心分析

○獨協医科大学 看護学部 看護学科の関心層

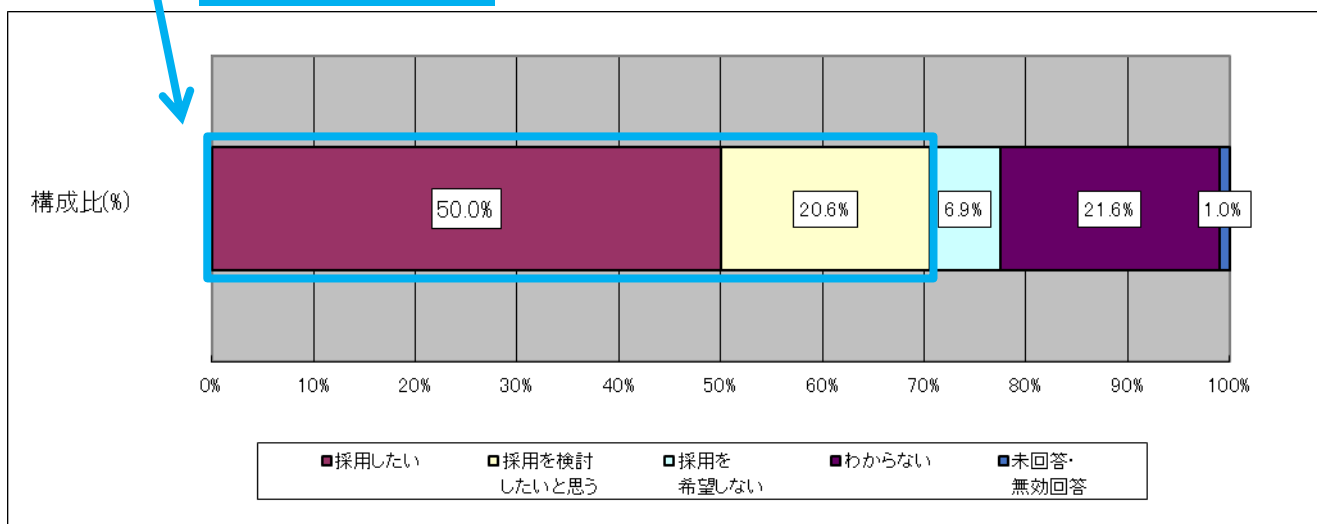
獨協医科大学 看護学部 看護学科への関心を分析するため、次のとおり「関心層」を定義する。

Q8)において、卒業生を「採用したいと思う」51 事業所 (50.0%)、「採用を検討したいと思う」21 事業所 (20.6%) と回答した計 72 事業所 (70.6%) を「関心層」と定義し、次項より「関心層」の傾向を分析する。

Q8) 獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用についてどのようにお考えですか。

	回答数 (人)	構成比 (%)
全体	102	100.0%
採用したい	51	50.0%
採用を検討したいと思う	21	20.6%
採用を希望しない	7	6.9%
わからない	22	21.6%
未回答・無効回答	1	1.0%

関心層



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*次頁以降の集計は、各設問から未回答・無効回答を除いて集計

Q1) 事業所の種別×Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向

関心層の事業所の種別は「病院、診療所」55 事業所 (77.5%) が最も多く、次いで「地方自治体」10 事業所 (14.1%)、「介護老人保健(福祉)施設」3 事業所 (4.2%) となっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と事業所の種別として「病院、診療所」と回答した層に高い相関性がみられる。

Q1) 事業所の種別と Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q1) 種別	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	100	100.0%	51	100.0%	20	100.0%	71	100.0%		7	100.0%	22	100.0%
病院、診療所	65	65.0%	40	78.4%	15	75.0%	55	77.5%	12.5%	3	42.9%	7	31.8%
保健所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
助産所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉施設	1	1.0%	1	2.0%	0	0.0%	1	1.4%	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
訪問看護ステーション	3	3.0%	2	3.9%	0	0.0%	2	2.8%	-0.2%	0	0.0%	1	4.5%
介護老人保健(福祉)施設	5	5.0%	3	5.9%	0	0.0%	3	4.2%	-0.8%	1	14.3%	1	4.5%
地方自治体	25	25.0%	5	9.8%	5	25.0%	10	14.1%	-10.9%	3	42.9%	12	54.5%
一般企業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-1.0%	0	0.0%	1	4.5%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q2) 事業所の所在地×Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向

関心層の事業所の所在地は、「栃木県」59 事業所 (83.1%) が最も多く、次いで「その他」4 事業所 (5.6%)、「茨城県」3 事業所 (4.2%) となっている。また、dif (関心層での比率－全体での比率) では、関心層と事業所の所在地として「栃木県」「その他」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q2) 事業所の所在地と Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q2) 所在地	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	100	100.0%	50	100.0%	21	100.0%	71	100.0%		7	100.0%	22	100.0%
栃木県	80	80.0%	41	82.0%	18	85.7%	59	83.1%	3.1%	7	100.0%	14	63.6%
群馬県	4	4.0%	1	2.0%	0	0.0%	1	1.4%	-2.6%	0	0.0%	3	13.6%
埼玉県	4	4.0%	2	4.0%	0	0.0%	2	2.8%	-1.2%	0	0.0%	2	9.1%
茨城県	4	4.0%	3	6.0%	0	0.0%	3	4.2%	0.2%	0	0.0%	1	4.5%
東京都	3	3.0%	0	0.0%	1	4.8%	1	1.4%	-1.6%	0	0.0%	2	9.1%
千葉県	1	1.0%	1	2.0%	0	0.0%	1	1.4%	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
その他	4	4.0%	2	4.0%	2	9.5%	4	5.6%	1.6%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q3) 事業所の規模×Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向

関心層の事業所の規模は、「100～499人」36事業所(50.7%)が最も多く、「500～999人」12事業所(16.9%)、「1000～4999人」10事業所(14.1%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と事業所の規模として「50～99人」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q3) 事業所の規模と Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q3) 従業員数	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	100	100.0%	50	100.0%	21	100.0%	71	100.0%		7	100.0%	22	100.0%
50人未満	7	7.0%	3	6.0%	1	4.8%	4	5.6%	-1.4%	1	14.3%	2	9.1%
50～99人	11	11.0%	5	10.0%	4	19.0%	9	12.7%	1.7%	1	14.3%	1	4.5%
100～499人	50	50.0%	24	48.0%	12	57.1%	36	50.7%	0.7%	4	57.1%	10	45.5%
500～999人	16	16.0%	11	22.0%	1	4.8%	12	16.9%	0.9%	0	0.0%	4	18.2%
1000～4999人	15	15.0%	7	14.0%	3	14.3%	10	14.1%	-0.9%	0	0.0%	5	22.7%
5000人以上	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-1.0%	1	14.3%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q5) 過去3年間の採用人材充足状況×Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向

関心層の過去3年間の採用人材充足状況は、「不足している」が35事業所(49.3%)、「やや不足している」が18事業所(25.4%)で、これらの合計は53事業所(74.7%)となっている。一方、「ある程度充足している」が16事業所(22.5%)、「充足している」が2事業所(2.8%)で、これらの合計は18事業所(25.3%)となっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と過去3年間の採用人材充足状況として「不足している」と回答した層に相関性がみられる。

Q5) 過去3年間の採用人材充足状況とQ8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q5) 充足状況	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	99	100.0%	50	100.0%	21	100.0%	71	100.0%		7	100.0%	21	100.0%
不足している	39	39.4%	31	62.0%	4	19.0%	35	49.3%	9.9%	0	0.0%	4	19.0%
やや不足している	24	24.2%	11	22.0%	7	33.3%	18	25.4%	1.1%	3	42.9%	3	14.3%
ある程度充足している	26	26.3%	8	16.0%	8	38.1%	16	22.5%	-3.7%	1	14.3%	9	42.9%
充足している	10	10.1%	0	0.0%	2	9.5%	2	2.8%	-7.3%	3	42.9%	5	23.8%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q6) 人材採用時の重視点(2つまで選択) × Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向

関心層の人材採用時の重視点は、「コミュニケーション能力」58 事業所(40.3%)が最も多く、「チームで働く力」35 事業所(24.3%)、「課題発見・課題解決能力」18 事業所(12.5%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と人材採用時の重視点で「社会常識」と回答した層にやや相関性がみられる。

Q6) 人材採用時の重視点と Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q6)重視	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	200	100.0%	102	100.0%	42	100.0%	144	100.0%		12	100.0%	44	100.0%
コミュニケーション能力	82	41.0%	41	40.2%	17	40.5%	58	40.3%	-0.7%	6	50.0%	18	40.9%
語学力	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
課題発見・課題解決能力	28	14.0%	11	10.8%	7	16.7%	18	12.5%	-1.5%	3	25.0%	7	15.9%
チームで働く力	49	24.5%	27	26.5%	8	19.0%	35	24.3%	-0.2%	2	16.7%	12	27.3%
チャレンジ精神・積極性	14	7.0%	5	4.9%	5	11.9%	10	6.9%	-0.1%	0	0.0%	4	9.1%
国際感覚(広い視野・価値観)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
論理的思考力	5	2.5%	4	3.9%	0	0.0%	4	2.8%	0.3%	0	0.0%	1	2.3%
専攻分野の基礎学力	2	1.0%	2	2.0%	0	0.0%	2	1.4%	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
社会常識	20	10.0%	12	11.8%	5	11.9%	17	11.8%	1.8%	1	8.3%	2	4.5%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

Q7) 学科収容定員増の必要性×Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向

関心層は獨協医科大学 看護学部 看護学科収容定員増の必要性について、「必要性を感じる」が 37 事業所 (51.4%)、「ある程度の必要性を感じる」が 30 事業所 (41.7%) で、これらの合計が 67 事業所 (93.1%) と、9 割以上の事業所が収容定員増について何らかの必要性を感じている。一方、「あまり必要性を感じない」「必要性を感じない」と回答した事業所はなかったが、5 事業所 (6.9%) が「わからない」と回答している。また、dif (関心層での比率－全体での比率) では、関心層と収容定員増の必要性で「必要性を感じる」「ある程度の必要性を感じる」と回答した層に相関性がみられる。

Q7) 学科収容定員増の必要性と Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q7) 必要性	全体平均		採用したい		採用を検討したい		関心層		d i f	採用を希望しない		わからない	
調査数	101	100.0%	51	100.0%	21	100.0%	72	100.0%		7	100.0%	22	100.0%
必要性を感じる	44	43.6%	33	64.7%	4	19.0%	37	51.4%	7.8%	3	42.9%	4	18.2%
ある程度の必要性を感じる	36	35.6%	15	29.4%	15	71.4%	30	41.7%	6.0%	0	0.0%	6	27.3%
あまり必要性を感じない	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-1.0%	0	0.0%	1	4.5%
必要性を感じない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	20	19.8%	3	5.9%	2	9.5%	5	6.9%	-12.9%	4	57.1%	11	50.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8) 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

*未回答・無効回答を除いて集計

*dif=関心層での比率－全体での比率

5. 採用需要分析

獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生が採用される可能性のある人数は下記のとおり。

Q8)採用意向	採用希望人数内訳 (人)	
採用したいと思う	51事業所→計155人	内、17事業所→人数未回答
採用を検討したいと思う	21事業所→計31人	内、7事業所→人数未回答
合計	186人	

実際に採用に至るか否かについては、就職希望者個人の人格や能力が大きく影響することから、ここでは「採用したいと思う」に加えて、「採用を検討したいと思う」までを採用需要として定義する。上記の採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は下記のとおりとなる。

Q8)採用意向	採用希望人数内訳 (人)
採用したいと思う 51事業所	51事業所155人+17事業所17人=172人
採用を検討したいと思う 21事業所	21事業所31人+7事業所7人=38人
合計	210人

獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の採用需要は「採用したいと思う」のみで172人、「採用を検討したいと思う」まで含めると210人で、「採用したいと思う」が、獨協医科大学 看護学部 看護学科の増員後の入学定員(145人)の1.2倍、「採用を検討したいと思う」まで含めると1.4倍となり、獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生に対する一定の採用需要があるといえる。

	2020年度	2021年度	2022年度
職種	採用人数(人)	採用人数(人)	採用人数(人)
看護師	2,490	2,426	2,541
保健師	23	22	21
助産師	104	112	130
合計	2,617	2,560	2,692

また、関心層の過去3年間の採用人数は2020年度2,617人、2021年度2,560人、2022年度2,692人となっており、2020年度から2021年度にかけては採用人数がわずかに減少したものの、2022年度には増加に転じており、また、毎年2,500人を超える採用があることから、獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生に対する安定的な採用需要があることが窺われる。

6. 補記

アンケート説明文 1/4

獨協医科大学 看護学部

2024年4月 収容定員増予定



自らキャリアをデザインする



獨協医科大学
Dokkyo Medical University

* 定員等の記載内容は現時点での計画であり変更することがあります。



獨協医科大学看護学部について

獨協医科大学は2023年（令和5年）に開学50周年を迎え、看護学部では、開学15年の節目を超え、17年目へと歩みを進めています。その歩みの中で、多くの卒業生は栃木県内の保健医療福祉関係機関に就業し、看護師として、また、保健師として、人々の健康課題の解決に貢献する看護専門職者として活躍しています。

看護学部では、更なる発展に向け、2024年（令和6年）に収容定員増を予定しています。従来の看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格に加え、助産師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状が取得可能となる多様なコースを設置する予定です。

入学定員・収容定員（予定）

獨協医科大学		入学定員 (予定)	収容定員 (予定)
看護学部	看護学科	145人	600人
	看護学科 3年次編入学	10人	



学部・学科の特色

1. 自律した看護専門職者の基盤となる自己教育力を高める。
2. 看護の対象である「人々」、「地域社会」および「暮らし」や「看護」について授業や早期からの実習を通じて理解する。
3. 大学病院をはじめとする医療施設、保健福祉施設、教育施設等の多様な現場での臨地実習を通じて、「人々」、「地域社会」、「暮らし」、「看護」を学修・実践し、看護実践力を身に付ける。
4. 医学部との合同授業や充実した実習教育を通じてプロフェッショナリズムを醸成する。
5. ダブルライセンスの取得が可能であり、看護専門職者としての自らのキャリアをデザインする。



・・・ 取得可能な資格 ・・・

看護師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格

助産師国家試験受験資格

養護教諭一種

■ 卒業後の活躍フィールド

【 看護師 】 >>> 病院、保健施設など

【 保健師 】 >>> 地方自治体、企業など

【 助産師 】 >>> 病院、助産所など

【 養護教諭 】 >>> 小・中・高等学校など



アンケート説明文 4/4

学納金について

- 初年度学納金(想定) -

学部・学科	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	初年度納付金	4年間の合計
看護学部 看護学科	145名	¥500,000,-	¥850,000,-	¥500,000,-	¥1,850,000,-	¥5,900,000,-

- 類似する近隣の看護系大学の納付金等 -

大学名	学部・学科名	所在地	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	初年度納付金	4年間の合計
足利大学	看護学部 看護学科	栃木県	80	270,000	1,460,000	0	1,730,000	6,110,000
国際医療福祉大学	保健医療学部 看護学科	栃木県	115	300,000	900,000	410,000 610,000	1,610,000	6,140,000
自治医科大学	看護学部 看護学科	栃木県	105	500,000	850,000	500,000	1,850,000	5,900,000
茨城キリスト教大学	看護学部 看護学科	茨城県	80	250,000	1,000,000	640,000	1,870,000	6,750,000
つくば国際大学	保健医療学部 看護学科	茨城県	80	300,000	900,000	650,000	1,850,000	6,500,000
常盤大学	看護学部 看護学科	茨城県	80	250,000	950,000	570,000	1,770,000	6,330,000
桐生大学	医療保健学部 看護学科	群馬県	80	250,000	1,000,000	500,000	1,750,000	6,250,000
群馬医療福祉大学	看護学部 看護学科	群馬県	80	300,000	960,000	400,000	1,660,000	5,740,000
群馬パース大学	看護学部 看護学科	群馬県	80	250,000	1,500,000 1,600,000	0	1,750,000	6,550,000
上武大学	看護学部 看護学科	群馬県	100	200,000	1,100,000	480,000	1,780,000	6,820,000
高崎健康福祉大学	保健医療学部 看護学科	群馬県	100	280,000	900,000	500,000	1,680,000	5,880,000

※ 各大学の情報については、大学ポータルサイト(私学版)、ホームページ等より転載しています。

※ 授業料・施設設備費等が2段で記載されている大学は、2年目以降の金額です。

※ 獨協医科大学看護学部看護学科の学納金は検討中で変更する可能性があります。

※ 諸会費等を含んでいない大学もありますので、詳細は当該大学のホームページをご確認ください。

アクセス

栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地

● 電車を利用する場合

【東武鉄道を利用】

・東武宇都宮線「おもちゃのまち」駅下車、西口より徒歩約15分
(「獨協医大病院前」行きバスにて約3分)

【JRを利用】

- ・JR「宇都宮」駅より、市内バスにて「東武宇都宮」駅下車(約10分)
「東武宇都宮」駅より東武宇都宮線にて「おもちゃのまち」駅下車、
西口より徒歩約15分(「獨協医大病院前」行きバスにて約3分)
- ・JR「宇都宮」駅よりタクシーにて約35分
- ・JR「小山」駅よりタクシーにて約45分
- ・JR「石橋」駅よりタクシーにて約15分

● お車を利用する場合

- ・東北自動車道から栃木都賀JCT経由
北関東自動車道「壬生IC」から約2分
- ・東北自動車道「栃木IC」から約30分
- ・東北自動車道「鹿沼IC」から約30分



お問い合わせ

獨協医科大学 看護学部事務室

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880

TEL : 0282-87-2489

FAX : 0282-86-1846

e-mail : kangogakubu@dokkyomed.ac.jp

URL : https://www.dokkyomed.ac.jp



公式サイト

獨協医科大学

検索

アンケート調査票 1/2

獨協医科大学 看護学部収容定員増に係る事業所アンケート調査

獨協医科大学では、既設の看護学部の入学定員を現在の95人から145人へ増員することを検討しています。計画検討の参考として、皆さまの率直なご意見をお聞かせください。

【質問1】 貴事業所の主たる種別は次のどれですか。1つ選び○をつけてください。

- | | | |
|----------|--------------|----------------|
| 1 病院、診療所 | 2 保健所 | 3 助産所 |
| 4 社会福祉施設 | 5 訪問看護ステーション | 6 介護老人保健(福祉)施設 |
| 7 地方自治体 | 8 一般企業 | 9 その他() |

【質問2】 貴事業所の主たる所在地をお教えてください。

- | | | |
|----------|-------|-------|
| 1 栃木県 | 2 群馬県 | 3 埼玉県 |
| 4 茨城県 | 5 東京都 | 6 千葉県 |
| 7 その他() | | |

【質問3】 貴事業所の従業員数（正規職員）について、該当するものを1つ選び○をつけてください。

- | | | |
|------------|----------------|------------|
| 1 50人未満 | 2 50～99人 | 3 100～499人 |
| 4 500～999人 | 5 1,000～4,999人 | 6 5,000人以上 |

【質問4】 貴事業所では、過去3年間で次の職種を何人採用されましたか。該当する欄に採用人数をご記入ください。*詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

	2020年度	2021年度	2022年度
看護師	()人	()人	()人
保健師	()人	()人	()人
助産師	()人	()人	()人

【質問5】 貴事業所では、質問4で回答された過去3年間で採用された職種の充足状況についてどのようにお考えですか。次の中から1つ選び○をつけてください。

- | | | |
|----------|------------|--------------|
| 1 不足している | 2 やや不足している | 3 ある程度充足している |
| 4 充足している | 5 わからない | |

裏面へ続く⇒

アンケート調査票 2/2

【質問6】 貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか。
次の中から 2つまで 選び、○をつけてください。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 コミュニケーション能力 | 2 語学力 |
| 3 課題発見・課題解決能力 | 4 チームで働く力 |
| 5 チャレンジ精神・積極性 | 6 国際感覚(広い視野・価値観) |
| 7 論理的思考力 | 8 専攻分野の基礎学力 |
| 9 社会常識 | 10 その他() |

次の【質問7】以降は、別紙リーフレットをご覧ください、ご記入ください。

獨協医科大学 看護学部 看護学科について

【質問7】 獨協医科大学 看護学部 看護学科の収容定員増計画についてどの程度必要性を感じますか。
次の中から1つ選び○をつけてください。

- | | | |
|------------|----------------|---------------|
| 1 必要性を感じる | 2 ある程度の必要性を感じる | 3 あまり必要性を感じない |
| 4 必要性を感じない | 5 わからない | |

【質問8】 獨協医科大学 看護学部 看護学科卒業生の看護師採用についてどのようにお考えですか。
次の中から1つ選び○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1 採用したいと思う
()人程度 | 2 採用を検討したいと思う
()人程度 |
| 3 採用を希望しない | 4 わからない |

【質問9】 獨協医科大学 看護学部 看護学科に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

獨協医科大学 看護学部事務室